

多賀城市文化財調査報告書第49集

大日北遺跡

—近世墓の調査報告書—

平成10年3月

多賀城市教育委員会

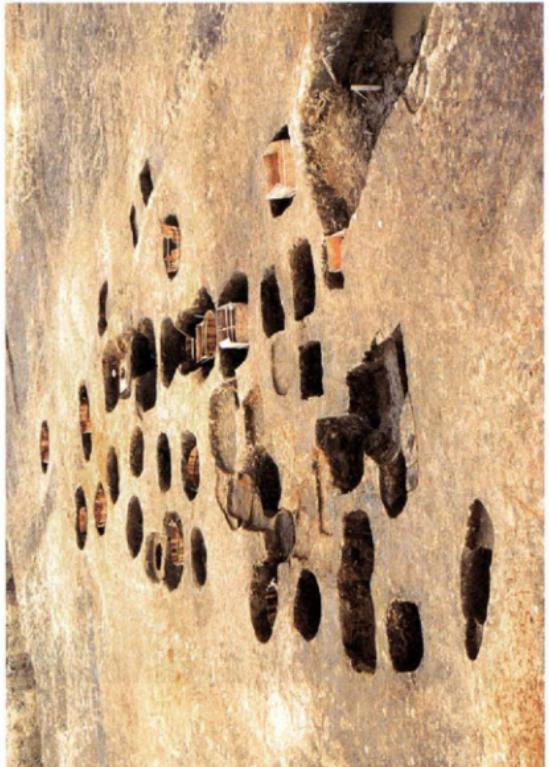
大日北遺跡

—近世墓の調査報告書—

平成10年3月

多賀城市教育委員会

上 営城郡高崎村字目取北地図 (明治19年)
中央部上方に墓地の位置が記されている
下 調査区全貌 (東より)





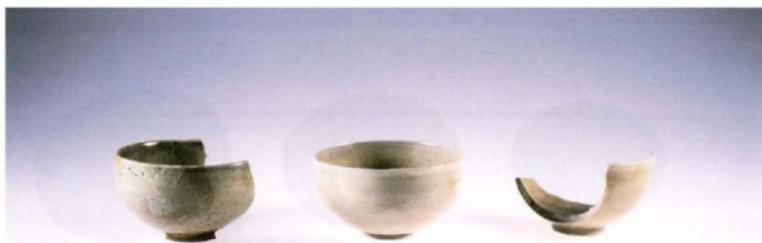
上 12号墓
下 36号墓



上 16号墓 提灯出土状况
下 66号墓 陶器丸碗・著状木製品出土状况



上 1号墓出土遗物
下 4号墓出土遗物



上 陶器皿 2号墓
下 陶器丸碗 左から54・66・13号墓



上 漆器椀 7号墓

中 。 10号墓

下 和鏡 左から54・18・36号墓

序 文

大日北遺跡が所在する高橋地区北半部は、近年急速に開発行為が進展している地域であります。過去5年間の発掘件数も小規模なものも含めると6件を数え、今後さらに増加するものと思われます。しかし、その一方では北西部の大日南遺跡で中世の大規模な屋敷跡や墓墳群を発見するなど、これまで知り得なかった同地区周辺の遺跡の様子が次第に明らかにされつつあります。

さて、本書に収録した大日北遺跡では、総数70基にものぼる近世墓が発見され、その内部からは多くの副葬品が良好な状態で出土しました。近年、「近世考古学」として江戸時代の遺跡の発掘調査が注目を集めていますが、本遺跡の成果も考古資料として、さらには江戸時代の葬送儀礼を考える上でも大変貴重な資料であると考えております。

最後になりましたが、本書の作成にあたりご指導・ご協力を頂いた各関係機関の皆様に対して厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

多賀城市教育委員会

教育長 櫻井茂男

例　　言

- 1 本書は平成6年度に実施した大日北遺跡第1次調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査は多賀城市教育委員会が主体となり、多賀城市埋蔵文化財調査センターが担当した。
- 3 本書挿図中の数値(m)は標高値を示している。
- 4 調査区の実測基準線は「平面直角座標系X」を使用して設定した
- 5 土色は『新版標準土色帖』(小山・竹原:1973)を参照した。
- 6 発掘調査及び報告書の作成に際しては、次の方々および機関からご指導・ご助言を賜った。(敬称略)
百々幸雄・奈良貴史・渡邊誠(東北大学医学部解剖学第1講座)、鈴木敏彦(東北大学歯学部口腔解剖学第1講座)、関根達人(東北大学埋蔵文化財調査研究センター)、菅原弘樹(宮城県教育庁文化財保護課)、松本健・高山優(東京都港区教育委員会社会教育課)
東北大学医学部解剖学第1講座、東北大学歯学部口腔解剖学第1講座、東北大学埋蔵文化財調査研究センター、宮城県教育庁文化財保護課、東京都港区教育委員会社会教育課
- 7 出土した人骨については東北大学医学部教授百々幸雄氏に鑑定を依頼し、「VII・出土人骨について」に収録した
- 8 本書の執筆・編集は当センター職員の協力を得て、武田健市が行なった。
- 9 遺物の整理・図版作成あたり、臨時職員の熊谷純子、黒田啓子、須山喜美栄、高橋知賀子、伊藤美恵子、鹿野智子、村上和恵、中村千恵子、渡邊奈緒、坂本英美、大山真由美、太田久美子、赤坂菜緒子、管野礼子の協力を得た。
- 10 発掘調査に関する諸記録および出土遺物は多賀城市教育委員会が保管している。

目　　次

口 絵	V 考察	52
例言・目次・調査要項	1 近世墓群の年代と時期区分	52
I 遺跡の位置と環境	2 出土遺物について	63
II 調査に至る経緯・経過	3 被葬者の階層について	71
III 調査成果	4 銭貨の流通について	74
1 基本層序	VI まとめ	74
2 発見した遺構と遺物	VII 出土人骨について	77
IV 墓の形態と遺物の分類		

調査要項

- 1 遺跡名 大日北遺跡(宮城県遺跡登録番号 18015)
- 2 所在地 多賀城市高橋字耳取北
- 3 調査面積 450m²
- 4 調査期間 平成6年11月2日～12月9日
- 5 調査主体 多賀城市教育委員会 教育長 櫻井茂男
- 6 調査担当 多賀城市埋蔵文化財調査センター 所長 鳥山文夫
- 7 調査員 滝口卓 石川俊英 武田健市 菊池豊

I 遺跡の位置と環境

大日北遺跡は多賀城市高橋字耳取北地内に所在する。市の中央部を流れる砂押川の西側に位置し、その西方には広義の仙台平野が開けている。遺跡の現状は整然とした水田が広がっているが、かつては腰までぬかるほどの湿地であったと言われている。

本遺跡内ではこれまで本格的な発掘調査は行われておらず、遺跡の性格については明らかにされていなかった。しかし、明治の地籍図には集団墓地の存在が記されており、さらに1946年から始まった耕地整理の際に多くの近世墓が発見され、その内部からは人骨をはじめ寛永通宝や和鏡、煙管などが出土したとされている。

周辺の調査例についてみると、本遺跡の南側約0.5~0.8kmに位置する奈賀済・浜居場地区において、1983・87年に学校法人仙台育英学園の校舎建設及びグラウンド用地開発に伴う試掘調査を実施している。その結果、同地区では溝数条を確認した以外は人為的な遺構は認められず、亜泥炭層と砂層が厚く堆積しているという状況であった。本遺跡周辺は近世初頭まで旧七北田川の流路であったと言われていることから、その氾濫によって生じた低湿地帯が広範囲に広がっていたものと考えられる。

II 調査に至る経緯・経過

高橋地区においては、かねてより北西部(高橋字大日南・門間田・奈賀済・耳取北)を中心に大規模な区画整理事業が実施される計画が上がっていた。同地区はこれまで埋蔵文化財包蔵地として認識されていなかったが、1993年に行なった試掘調査で、大日南・門間田地区の微高地上に中世の屋敷群が密集していることが明らかとなり、遺跡の範囲を再度確認する必要が生じてきた。そこで同年秋より、高橋地区北半部約42ヘクタールを対象として、遺跡の範囲確認調査を実施することになった。

11月1日、対象区の南東部(門間田地区)から幅3m程のトレンチを設定し調査を開始する。翌2日、北東部(耳取北地区)に設定したトレンチの表土除去を開始したところ、現水田耕作土直下から木棺を伴った墓壙を発見した。墓域の広がりを確認するためトレンチ幅を拡大し遺構の検出作業を行なった結果、東西約20m、南北約8mの狭い範囲に、50基を超す墓壙の存在が明らかとなった。今回の調査は遺構の有無及びその範囲の確認を目的としていたが、当該地区については遺構の性格上、速やかに事前調査に切り替えるのが適切であると判断し、8日より遺構の精査、写真撮影、墓壙埋土の堀込み、平面図の作成等の作業を開始した。

なお、本地区については北側に隣接する大日北遺跡と一連と見なし、大日北遺跡第1次調査として遺構・遺物の登録を開始した。以下調査経過を列記する。

11月2日 重機による表土除去。木棺を伴う墓壙を多数検出。所内打ち合わせの結果、墓壙群については事前調査で対処することに決定。

11月8日 遺構の精査、写真撮影。重複関係のないものから墓壙埋土の堀込み開始(～12月6日)

11月9日 1/100・1/20の遺構平面図作成開始(～12月8日)。

11月21日 百々幸雄氏、奈良貴史氏(東北大医学部解剖学第1講座)、菅原弘樹氏(宮城県教育庁文化財



第1図 調査区位置図

保護課)に、現地にて人骨の取り上げについての御教示を得る。

11月29日 調査区全体写真の撮影

12月 7 日 木棺の取り上げ開始(～9日)

12月 9 日 すべての木棺の取り上げを終え、調査の全過程を完了した。

III 調査成績

1 基本層序

調査区東端部の堆積状況と、今回同時に実施した周辺の確認調査の成果とを照らし合わせると、本地区的層序は以下11層に大別できる(第2図)。

L-I：現水田耕作土である。層の厚さは30cm前後である。

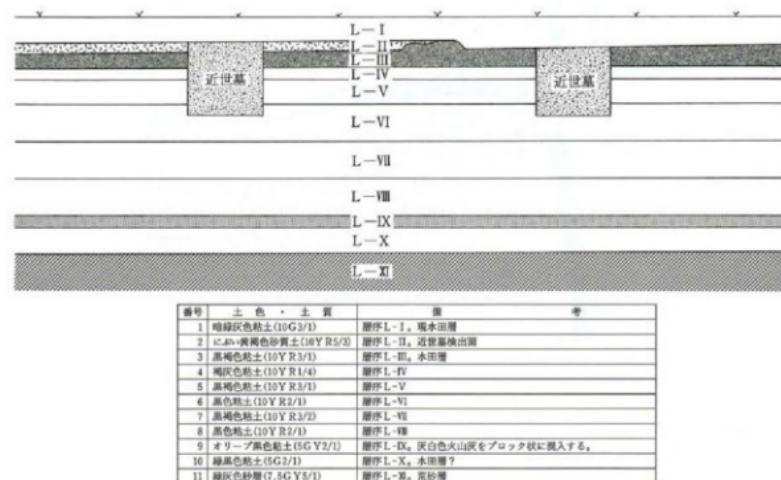
L-II：今回発見した近世墓群の確認面である。にぶい黄褐色(10Y R3/5)砂質土を主体とし、明黄褐色(10Y R7/6)砂質土、褐灰色(10Y R5/1)粘土が若干混入する。調査区内に部分的に残存しており、層の厚さは8~10cmである。今回発見した各墓壙埋土及び木棺内部に攪拌された状態で多量に混入していることから、本来は本調査区全域に堆積していたものと考えられる。

L-III：黒褐色(10Y R3/1)粘土を主体とし、褐灰色(10Y R4/1)粘土を多量に混入する。東西・南北に延びる畦畔状の高まりを確認しており、水田層と考えられる。

L-IV~VII：黒色(10Y R2/1)粘土及び黒褐色(10Y R3/1・10Y R3/4)粘土が互層に堆積する亜泥炭層である。層の厚さは1.2m前後である。

L-IX：オリーブ黒色(5Y 3/2)粘土を主体とし、10世紀前葉に降下した灰白色火山灰が小ブロック状に混入する。層の厚さは10cm前後である。周辺の確認調査においても同様の層を発見しており、土壤分析結果から、水田層であることが明らかとなっている。

L-X：緑黒色(5G Y2/1)粘土を主体とし、緑灰色(7.5G Y5/1)砂が混入する。層の厚さは20cm前後であ



第2図 層序模式図

(1) 前章で記した高橋地区北半部の遺構の有無及びその範囲を確認する目的で実施した発掘調査(大日南遺跡第2次調査)を指す。

る。本地区の南側約50mの地点では、この層に対応すると思われる粘土層で畦畔状の高まりを確認しており、土壤分析の結果から水田の可能性が指摘されている。

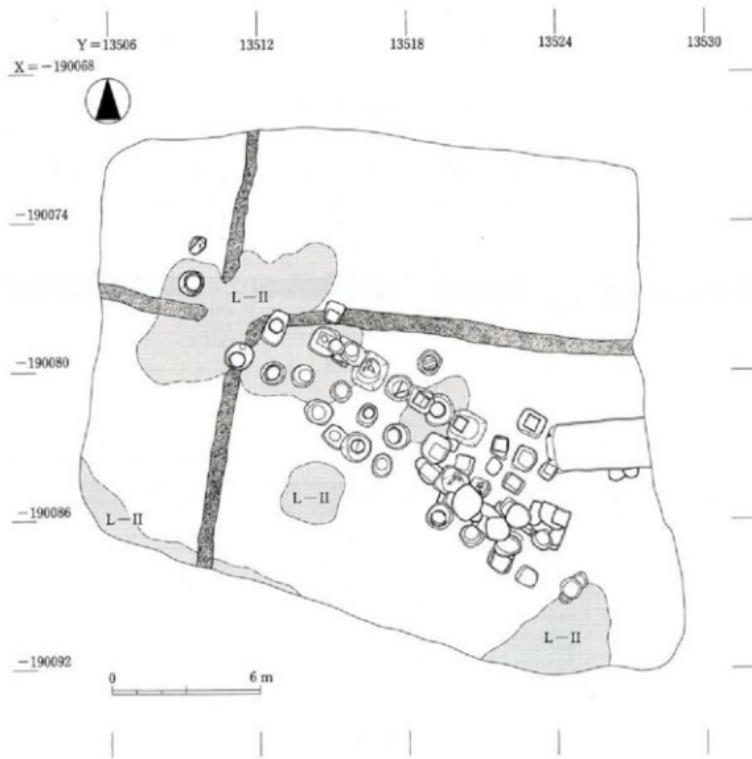
L-XI：緑灰色(7.5G Y5/1)砂層である。

2 発見した遺構と遺物

今回の調査では、近世墓70基とそれ以前の水田跡を発見した(第3図)。

近世以前の水田跡について田面を4区画分検出したが、調査区の制限上1区画の面積が判明するものはなかった。また、今回は近世墓群に限り事前調査の対象としたため、水田跡の詳細については明らかにできなかった。

近世墓については木棺を伴うものが41基、伴わないものが29基である。前者では、痕跡のみのものや形態の判別できないものも存在する。後者では、墓と断定するには資料的に乏しいものも存在するが、本遺跡の性格が墓域であることを考慮し、ここではすべて墓とみなすこととした。人骨については40基の墓か

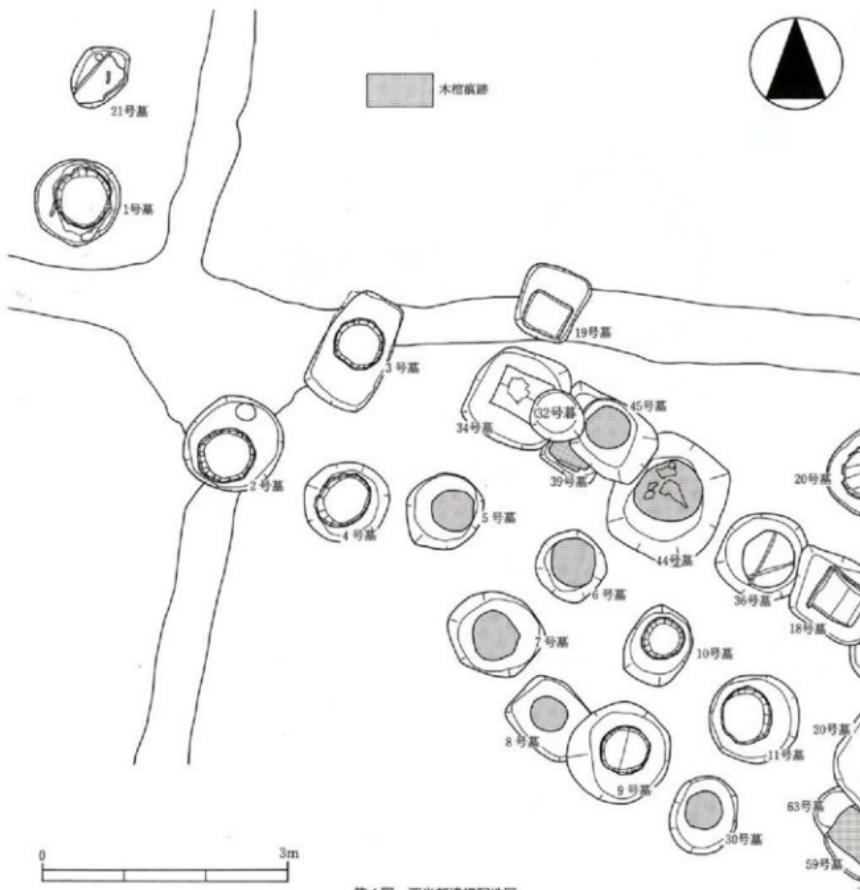


第3図 調査区全体図

ら42個体分出土しており、そのうち性別が判明したものでは男性11体、女性10体であった。保存状態について見ると、木棺を伴うものでは骨自体は比較的良好に残存していたが、多量に混入した土砂や湧水のため棺内部が搅乱されており、被葬者の埋葬時の状態が判明するものはなかった。一方、木棺を伴わない墓では骨の残存状態は非常に悪く、その多くは腐食していた。

出土遺物については、銭貨、煙管、鏡、剃刀、火打鉄、陶磁器、漆器、櫛、提灯、数珠、膳などがあり、良好な状態で出土した。しかし、上述したように棺内部の搅乱が著しいため、埋葬時の状態をとどめているものは少ない。

以下、発見した近世墓と出土遺物について、調査区西半部と東半部に分けて記載する。



第4図 西半部遺構配地図

なお、本書中で使用する墓の形態および遺物の分類については、「IV・墓の形態と遺物の分類」に記した。また、錢貨の拓本については「VII・出土人骨について」のあとに一括して掲載した。

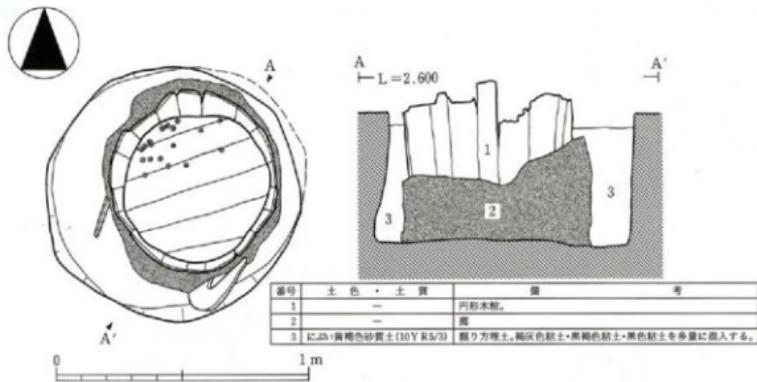
調査区西半部（第4図）

1号墓

形態・規模（第5図） 墓の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1m、深さ0.58mである。木棺は掘り方の北壁寄りで発見した。蓋は破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。棺の規模は口径0.66m、底径0.58m、高さ0.46mであり、外面は薦（筵）で覆われていた。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は壮年女性と鑑定された。

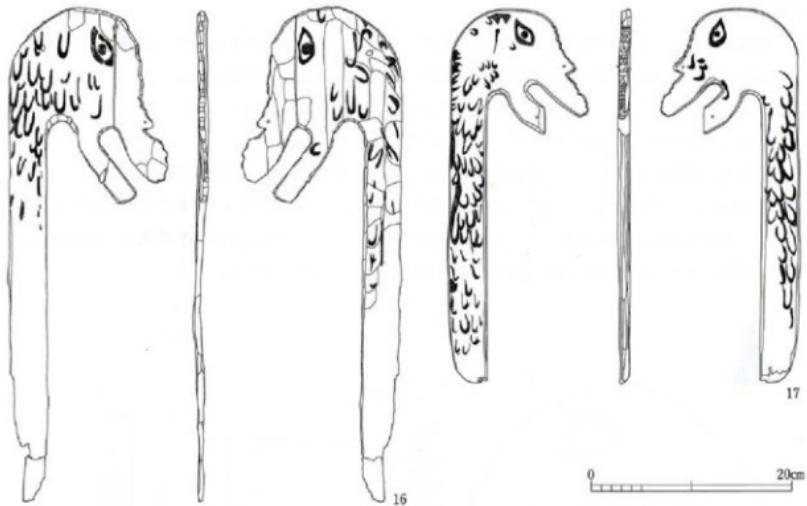
出土遺物（第6-1・2図） 遺物は木棺内部より錢貨31枚（渡来銭3、古寛永銭18、文銭10）、煙管1組、染付磁器小杯1点、櫛4点、掘り方より漆器碗2点、竜形木製品2点、箸状木製品5点、提灯底板1点が



第5図 1号墓平面図・断面図



第6-1図 1号墓出土遺物(1)



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	鐘管樂器	木棺内部	長さ4.0、太口径1.8、細口部合計幅1.0	3脚	R-1(A)
2	鐘管吹口	木棺内部	長さ3.5、細口部合計幅1.0、狭口径0.4		R-4(B)
3	細網小杓	木棺内部	口径5.9、底径2.5、高さ3.8	内外面透明物。高台部に墨文様の染め付け有り、肥前系、17C後半	R-1
4	木製簪	木棺内部	長さ9.3、高さ4.5、高さ(A)1.8、高さ(B)1.0 厚さ1.0、曲数22、曲数/cm 3.95	B類	R-2
5	木製簪	木棺内部	長さ10.3、高さ(4.9)、高さ(A)2.1、高さ(B)0.7 厚さ0.2、曲数38、曲数/cm 4.27	A類	R-5
6	木製簪	木棺内部	長さ8.5、高さ(A)1.5、高さ(B)1.5 厚さ0.5、曲数64、曲数/cm 8.21	C類	R-4
7	木製簪	木棺内部	長さ9.0、高さ(A)1.3、高さ(B)1.1 厚さ0.7、曲数35、曲数/cm 4.55	C類	R-3
8	漆器椀	掘り方底面	口径12.7、底径6.4、高さ2	体側外表面・高台部外表面赤色濃、口縁部・高台部内面黒色濃、底部外表面に赤色濃で黒糸の記有有り、A I a類	R-180
9	漆器椀	掘り方底土	口径11.1、底径5.5、高さ4.0	体側外表面・高台部外表面赤色濃、口縁部・高台部内面黒色濃、底部外表面に赤色濃で黒糸の記有有り、A I c類	R-1
10	漆打凸板	掘り方底土	長径9.7、幅9.8、孔径0.1~0.2、厚さ0.2~0.5	B類	R-152
11	彫刻木製品	掘り方底土	長さ22.0、幅(最大)0.8		R-136
12	彫刻木製品	掘り方底土	長さ21.9、幅(最大)0.9		R-153
13	彫刻木製品	掘り方底土	長さ21.1、幅(最大)0.7		R-135
14	彫刻木製品	掘り方底土	長さ20.6、幅(最大)0.6		R-155
15	彫刻木製品	掘り方底土	長さ17.6、幅(最大)0.7		R-154
16	竜形木製品	掘り方底土	長さ49.7、厚さ31.2	墨で繪・目が描かれている	R-181
17	竜形木製品	掘り方底土	長さ37.3、厚さ31.2	墨で繪・目が描かれている	R-182

第6-2図 1号墓出土遺物(2)

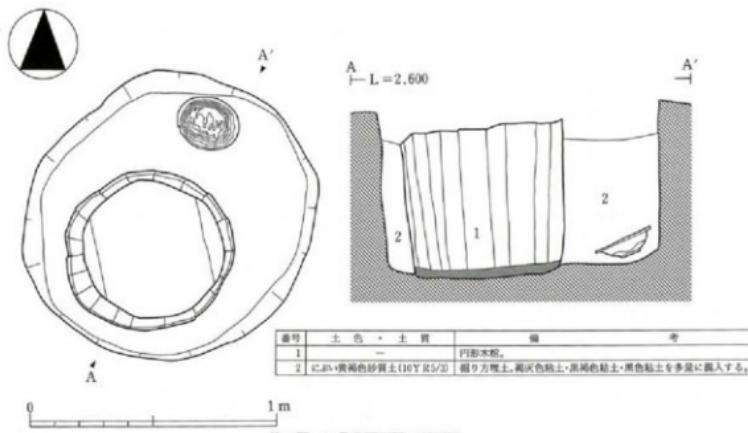
出土した。木棺内部から出土した遺物は、いずれも底面で確認しており、このうち錢貨については棺北半部からまとめて出土している。一方、掘り方から出土した遺物では、漆器椀2点が北壁側の底面から、薦に覆われるような状態で出土している。このうちA I a類(8)の上面には、箸状木製品が1本横向きに置かれていた。A I c類(9)はA I a類よりもやや北側から、木棺側板に口縁部が接するような状態で出土している。竜形木製品は大型のものと小型のものがある(16・17)。大型のものは木棺の南側から薦に逆さまに突き刺さった状態で、小型のものは木棺の西側から頭部を北向きにした状態で出土している。それ以外のものについてはすべて掘り方埋土中からの出土である。

2号墓

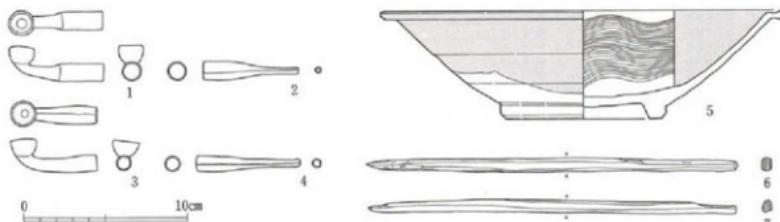
形態・規模(第7図) 基の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1.16m、深さ0.68mである。木棺は掘り方の南壁寄りで発見した。蓋は北側半分が破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。また、側板と底板の接合部外面には、棺を締め固めるための簾が巻かれていた。棺の規模は口径0.66m、底径0.59m、高さ0.64mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は熟年男性と鑑定された。

出土遺物(第8図) 木棺内部より銭貨43枚(古寛永銭27、文銭8、新寛永銭8)、煙管2組、掘り方より陶器皿1点、箸状木製品2点が出土した。このうち銭貨、煙管についてはいずれも木棺底面付近に散在していた。陶器皿は掘り方北壁側から内面を木棺側に向かた状態で出土している。



第7図 2号墓平面図・断面図



番号	遺物名	出土層位	計 寸 寸	規 則	圖 考	登録番号
1	煙管裏筋	木棺内部	長さ5.5、火切径1.5、蘆字縫合部径1.1	2類	R-7(A)	
2	煙管吸口	木棺内部	長さ5.5、蘆字縫合部径1.1、吸口径0.4		R-7(B)	
3	煙管裏筋	木棺内部	長さ4.9、火切径1.6、蘆字縫合部径1.0	5類	R-6(A)	
4	煙管吸口	木棺内部	長さ6.3、蘆字縫合部径0.6、吸口径0.5		R-6(B)	
5	陶器皿	掘り方底部附近	口径24.6、底径9.9、高さ6.6	内面二彩施術毛目、全面に浅い褐色釉、見込みに胎土目模有り、伴件系、17C後半	R-18	
6	箸状木製品	掘り方底土	長さ22.5、幅(最大)0.8		R-6	
7	箸状木製品	掘り方底土	長さ22.3、幅(最大)0.8		R-7	

第8図 2号墓出土遺物

3号墓

形態・規模(第9図) 墓の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は長方形であり、規模は長軸1.44m、短軸0.8m、深さ0.72mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。また、側板と底板の接合部外面には縞が巻かれていた。棺の規模は口径0.58m、底径0.50m、高さ0.58mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は壯年女性と鑑定された。

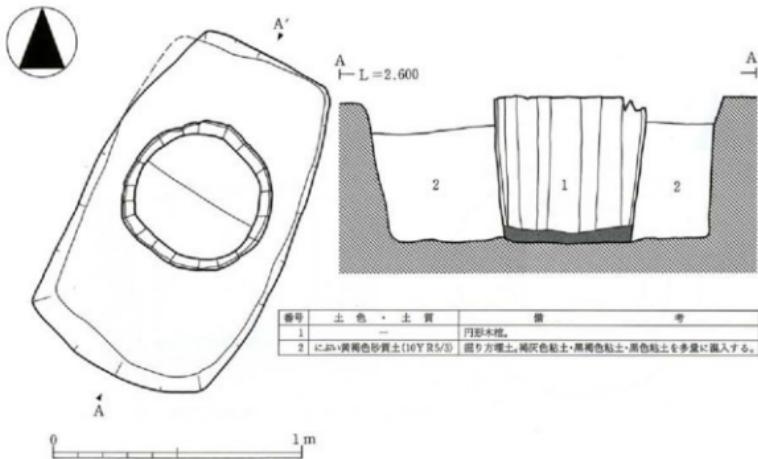
出土遺物(第10図) 木棺内部より銭貨6枚(古寛永銭1、文銭5)、煙管1組、櫛2点、掘り方より提灯底板3点、宝珠形木製品1点、加工木製品5点が出土した。このうち、銭貨、煙管、櫛についてはすべて木棺底面付近から出土している。掘り方出土の遺物についてはいずれも埋土上層から出土している。

4号墓

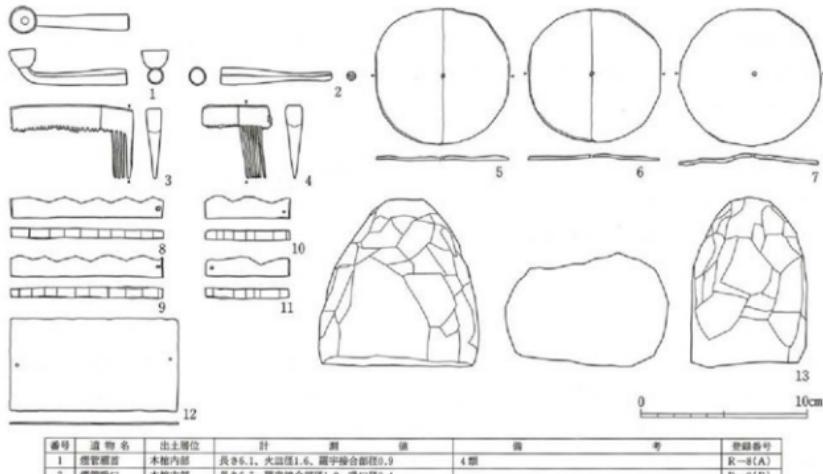
形態・規模(第11図) 墓の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1.00m、深さ0.62mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は棺内部に突き刺さるように埋もれていたが、側板及び底板は良好に残存していた。また、側板と底板の接合部外面には縞が巻かれていた。棺の規模は口径0.58～0.69m、底径0.48～0.55m、高さ0.65mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は壯～熟年の女性と鑑定された。

出土遺物(第12図) 木棺内部より銭貨8枚(古寛永銭4、文銭4)、和鏡1枚、漆器鏡入れ1組、櫛2点、マツの実1点、掘り方よりヘラ状木製品1点、提灯底板2点が出土した。このうち、棺内部から出土したものについては、銭貨が底面中央付近からまとめて出土している。一方、掘り方から出土した遺物では、ヘラ状木製品が、棺内部に埋もれた蓋上面からヘラ部分を北側に向けた状態で出土している。提灯底板については掘り方南側の埋土中から出土している。

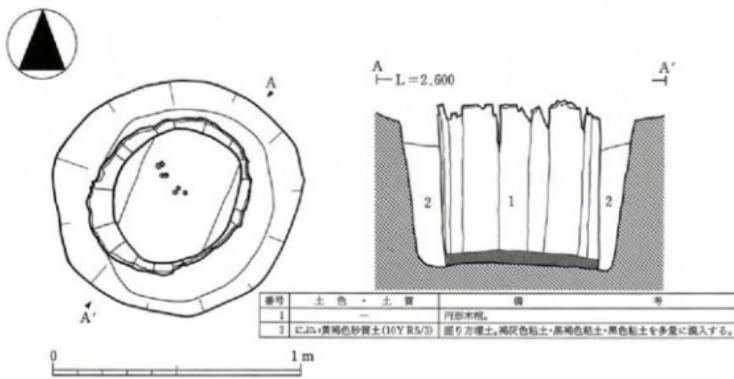


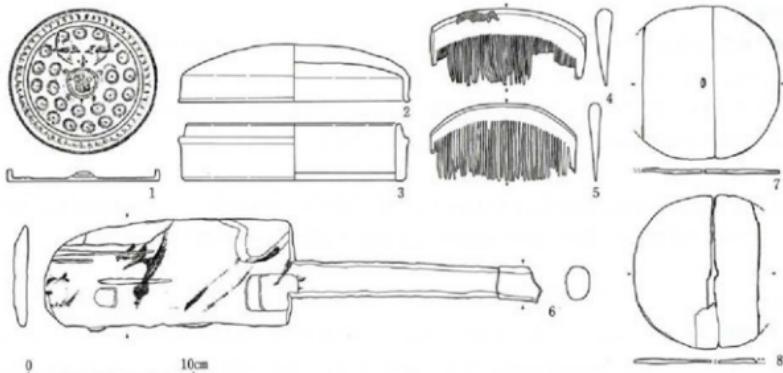
第9図 3号墓平面図・断面図



番号	遺物名	出土層位	計 面 積 値	面 考	登録番号
1	燈管頭部	木棺内部	長さ6.1、大皿径1.6、羅字複合部径0.9	4型	R-8(A)
2	燈管頭口	木棺内部	長さ5.7、羅字複合部径1.0、吸口径0.4		R-8(B)
3	木製刷	木棺内部	高さ(4.5)、高さ(A)1.8、高さ(B)1.4 厚さ0.9、齒数(25)、齒数/cm 4.18	B型	R-8
4	木製刷	木棺内部	高さ(4.4)、厚さ1.0、齒数(24)、齒数/cm 4.18	C型	R-1126
5	提灯底板	掘り方埋土	直徑6.1、孔径0.1~0.2、厚0.2	A型	R-60
6	提灯底板	掘り方埋土	直徑6.0、孔径0.2、厚0.1~0.2	A型	R-59
7	提灯底板	掘り方埋土	直徑5.5、孔径8.2、孔深0.2、厚0.0.2	A型	R-58
8	不明火製品	掘り方埋土	長さ9.2、幅0.9~1.2、厚0.4~0.6		R-1121
9	不明火製品	掘り方埋土	長さ9.2、幅0.9~1.2、厚0.9.5~0.6		R-1122
10	不明火製品	掘り方埋土	長さ9.2、幅0.9~1.4、厚0.9.65		R-1123
11	不明火製品	掘り方埋土	長さ9.1、幅0.7~1.2、厚0.9.4~0.6		R-1124
12	有孔木製品	掘り方埋土	長さ10.3、幅0.7~1.5、厚0.05~0.1		R-1125
13	空珠形木製品	掘り方埋土	長さ10.3、底面幅9.5、底面厚0.3~6.8		R-112

第10図 3号墓出土遺物





番号	遺物名	出土場所	計測 値	備考	登録番号
1	和鏡	木棺内部	直径9.1、鏡面9.5、厚0.2	鏡面に二重井筒有り、隼形頭と菊花・双鳥を配する	R-1
2	漆器 箱入れ	木棺内部 (底)	口径14.6、深さ3.5	内・外漆朱色漆	R-2
3	漆器 箱入れ	木棺内部 (身)	口径12.8、底径13.2、深さ3.4	内・外漆朱色漆	R-10
4	木製櫛	木棺内部	長さ9.4、高さ4.7、高さ(A)12.8、高さ(B)11 厚さ1.6、齒数78、歯數/cm 9.29	A類	R-13
5	木製櫛	木棺内部	長さ8.9、高さ4.7、高さ(A)12.6、高さ(B)10 厚さ0.7、齒数69、歯數/cm 6.05	A類	R-12
6	ヘラ状木製品	木棺蓋直上	長さ30.2、ヘラ部幅6.3、柄幅2.1、厚さ9.	ヘラ部分に墨書き有り	R-11
7	提灯古板	圓り方堆土	直径(9.3)、孔径9.4、厚さ0.1~0.3	A類	R-14
8	提灯古板	圓り方堆土	直径(9.3)、孔径0.2~0.5、厚さ0.2	A類	R-15

第12図 4号墓出土遺物

5号墓

形態・規模(第4図) 本遺構では木棺自体は検出していないが、掘り方の東壁寄りで円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には筆が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1m、深さ0.30mである。痕跡の規模は上幅径0.50m、下幅径0.43m、深さ0.30mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物 木棺痕跡の底面から銭貨1枚(古寛永銭)が出土した。

6号墓

形態・規模(第4図) 本遺構では木棺自体は検出していないが、掘り方のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には筆が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は梢円形であり、規模は長径1.14m、短径1.02m、深さ0.52mである。痕跡の規模は上幅径0.60m、下幅径0.50m、深さ0.52mである。

人骨 頸椎、腰椎、肋骨等が出土したが、腐植が著しく保存状態は悪い。被葬者は成人と鑑定されたが、性別は不明である。

出土遺物(第13図) 掘り方より提灯の底板1点が出土した。

7号墓

形態・規模(第14図) 本遺構では木棺自体は検出していないが、掘り方のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の上面から底面にかけて、壺が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形気味であり、規模は長軸0.85m、短軸0.80m、深さ0.45mである。痕跡の規模は上幅径0.60m、下幅径0.52m、深さ0.45mである。

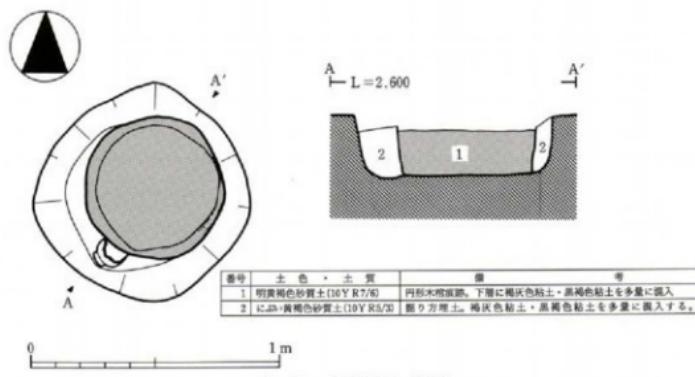
人骨 人骨は出土していない。

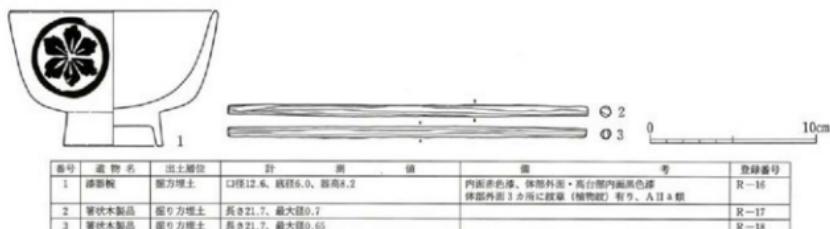
出土遺物(第15図) 木棺の痕跡底面より銭貨一枚(文銭)、掘り方より漆器椀1点、箸状木製品2点が出土した。このうち漆器椀は、掘り方南側の底面から、内面を木棺側に向けた状態で出土している。

8号墓

形態・規模(第4図) 東辺で9号墓と重複しそれよりも古い墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には壺が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.02m、短軸0.85m、深さ0.12mである。痕跡の規模は、上幅径0.42m、下幅径0.40m、深さ約0.12mである。

人骨 人骨は出土していない。





第15図 7号墓出土遺物

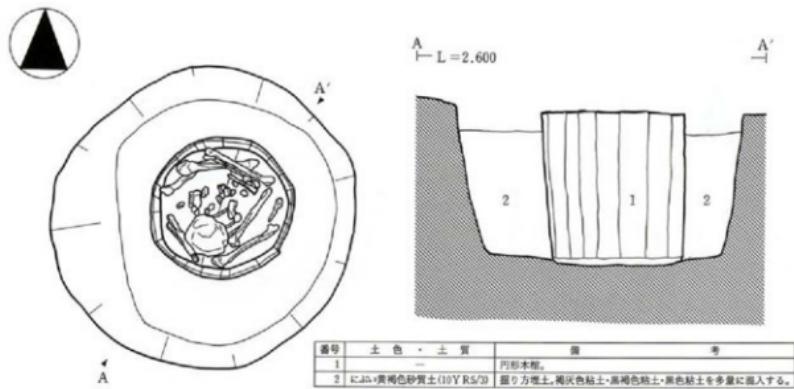
出土遺物 なし

9号墓

形態・規模(第16図) 墓の形態は円形木棺墓である。8号墓と重複し、それよりも新しい。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1.12m、深さ0.62mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は南北半分が棺の底面付近まで落ち込んでいたが、側板及び底板は良好に残存していた。棺の規模は口径0.58m、底径0.55m、高さ0.58mである。

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は熟年男性と鑑定された。

出土遺物(第17図) 木棺内部より銭貨37枚(古寛永銭21、文銭5、新寛永銭11)、鉄製剃刀1点、漆器椀1点、櫛2点、数珠玉94点、掘り方より提灯底板2点が出土した。このうち、古銭、数珠について、人骨の下に散在しており、鉄製剃刀、漆器椀についても人骨を取り上げた後に出土している。櫛は人骨の上面から1点(4)、その下から漆器椀の上に重なった状態で1点(3)出土している。提灯底板については、埋土下層から出土している。



第16図 9号墓平面図・断面図



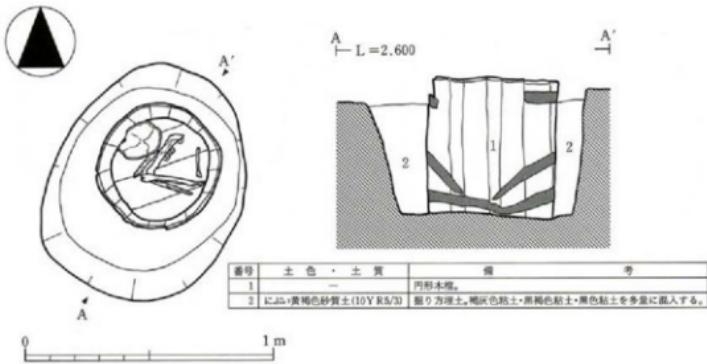
第17図 9号墓出土遺物

10号墓

形態・規模(第18図) 墓の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は梢円形であり、規模は長径1.04m、短径0.77m、深さ0.47mである。木棺は掘り方の北壁寄りで発見した。蓋は破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。木棺外面には、上半～下半部にかけて塗が巻かれていた。棺の規模は口径0.51m、底径0.40m、高さ0.58mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は熟年で男性的であると鑑定された。

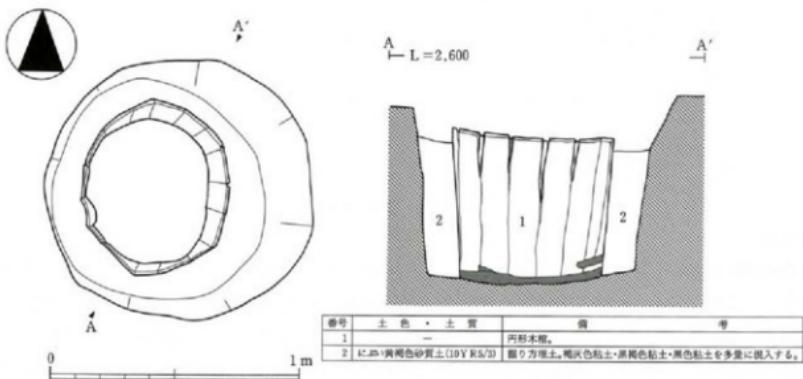
出土遺物(第19図) 棺内部より銭貨6枚(古寛永銭2、文銭2、新寛永銭2)、漆器碗1点、数珠玉88点、掘り方より染付磁器小碗1点、有孔板状製品1点が出土した。このうち銭貨が木棺中央や北側にある四肢骨の下から出土しており、数珠玉は棺底面の南側からまとめて出土している。漆器碗については棺底面付近から出土している。染付磁器小碗、有孔板状製品については、いずれも掘り方埋土上層から出土している。



第18図 10号墓平面図・断面図

番号	遺物名	出土部位	計 面 積	備 考	登錄番号
1	漆器小椀	木棺内部	直径3.1	全面に透明釉、体側外側に染の付け有り	R-6
2	漆器椀	木棺内部	口径10.2、底径5.3、高さ3.2	内面赤色調、体側外側・高台部内面黒色調	R-21
3	有孔木製品	掘り方埋土上	長さ10.6、厚さ0.5~0.6	体側外面3カ所に凹部(植物紋)有り、A面c面	R-148

第19図 10号墓出土遺物



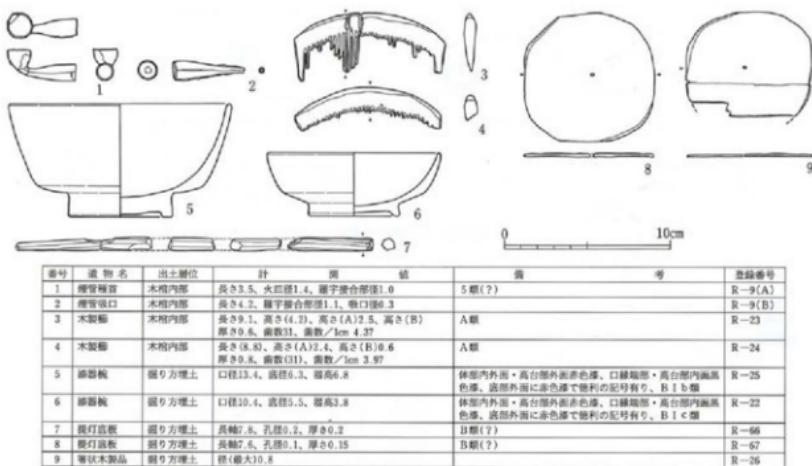
第20図 11号墓平面図・断面図

11号墓

形態・規模(第20図) 墓の形態は円形木棺墓である。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1.07m、深さ0.78mである。木棺は掘り方の西壁寄りで発見した。蓋は棺内部に突き刺さるように落ち込んでいたが、側板及び底板は良好に残存していた。側板と底板の接合部分外面には籠が巻かれていた。棺の規模は口径0.68m、底径0.57m、高さ0.60mである。

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土した。保存状態は不良であったが、被葬者は青~壯年期前半の女性であると鑑定された。

出土遺物(第21図) 木棺内部より銭貨6枚(古寛永銭3、新寛永銭3)、煙管1組、櫛2点、掘り方より漆器椀2点、提灯底板2点、箸状木製品の破片が出土した。このうち棺内部から出土した遺物については、すべて底面付近で確認している。掘り方から出土したものでは、漆器椀B I b類(5)が西壁側の木棺口縁部とほぼ同じ高さのところから倒位の状態で出土しており、その内面には碎けた箸状木製品が混入していた。漆器椀B I c類(6)は棺内部に落ち込んだ棺蓋の西側上面から、椀B I b類同様、倒位の状態で出土している。提灯底板は掘り方埋土中から出土している。



第21図 11号墓出土遺物

19号墓

形態・規模(第22図) 墓の形態は正方形木棺墓である。後世の削平が遺構底部付近にまで及んでいたため、残存状況は悪い。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸0.89m、短軸0.82m、深さ0.20mである。木棺は掘り方の南壁寄りで発見した。棺の規模は東西0.52m、南北0.53m、高さ0.20m以上である。
人骨 頭蓋骨片、四肢骨片、遊離歯が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物 木棺内部より銭貨9枚が出土した(渡来銭1、古寛永銭3、文銭1、新寛永銭4)。崩れた頭蓋骨の上とその下から7枚、木棺西側から2枚を確認している。

21号墓

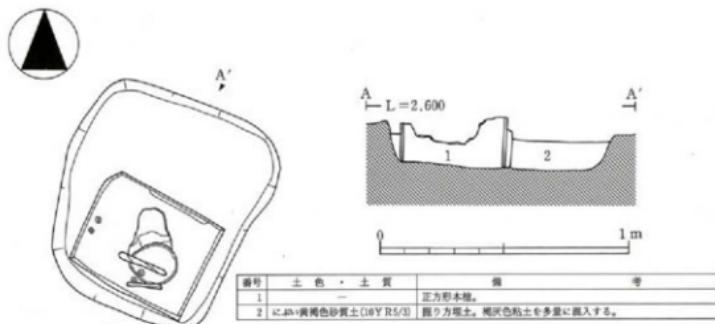
形態・規模(第23図) 墓の形態は長方形木棺墓である。後世の削平を受けており、検出時にはすでに木棺の底面が露出していた。掘り方の平面形は梢円形であり、規模は長軸0.77m、短軸0.60mである。木棺は掘り方の東壁寄りで発見した。棺の規模は底面で長辺0.66m、短辺0.35mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨片が出土したが、保存状態は非常に悪い。被葬者は成人で男性であると鑑定された。

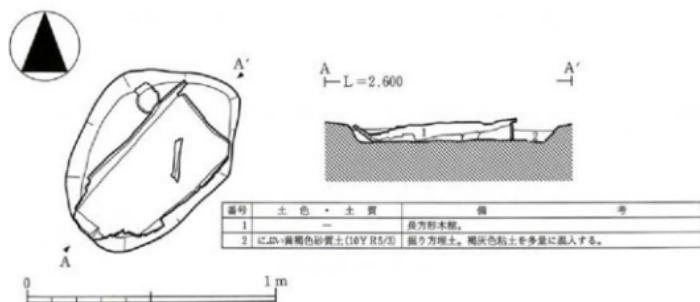
出土遺物(第24図) 棺内部より銭貨6枚(古寛永銭5、文銭1)、埋管1組、数珠玉40点、掘り方より漆器椀1点が出土した。このうち木棺内部出土のものは、すべて底面付近から出土している。掘り方出土の漆器椀は、北壁側の底面から内面を木棺側に向けた状態で出土している。

30号墓

形態・規模(第4図) 本遺構では木棺自体は検出していないが、掘り方のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には籠が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は梢円形であり、長軸0.94m、短軸0.79m、深さ0.11mである。掘り方の南側には、粗穀



第22図 19号墓平面図・断面図



第23図 21号墓平面図・断面図



第24図 21号墓出土遺物

が約0.1mほどの厚さに敷かれていた。痕跡の規模は口径0.48m、底径0.40m、深さ約0.24mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物 なし

32号墓

形態・規模(第4図) 墓の形態は直葬墓である。後世の削平により、上面の大半が破損している。34・39・

45と重複し、それよりも新しい。墓壙の平面形は円形であり、規模は上幅0.68m、下幅0.50m、深さ0.1mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物 底面より銭貨6枚(古寛永錢2、新寛永錢4)が出土した。

34号墓

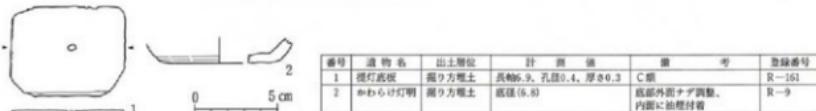
形態・規模(第4図) 後世の削平により、上面の大半が破損している。32・39号墓と重複し、32号墓よりも古く、39号墓よりも新しい。木棺自体は検出していないが、掘り方の中央部で正方形の痕跡を確認している。痕跡の底面にも同様の底板が残存していることから、墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.18m、短軸1.06m、深さ0.24mである。底板は長軸0.64m、短軸0.50mであり、中央部が破損していた。

人骨 人骨は出土していない。

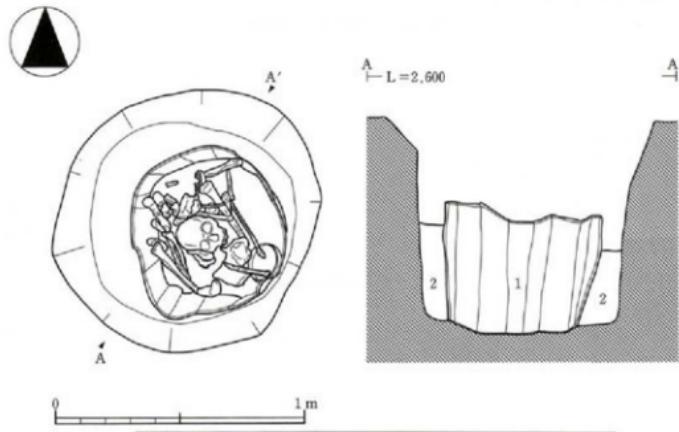
出土遺物(第25図) 掘り方埋土より、かわらけ灯明皿1点、提灯の底板1点が出土した。

35号墓

形態・規模(第26図) 墓の形態は円形木棺墓である。18号墓と重複し、それよりも古い。掘り方の平面形



第25図 34号墓出土遺物



第26図 35号墓平面図・断面図

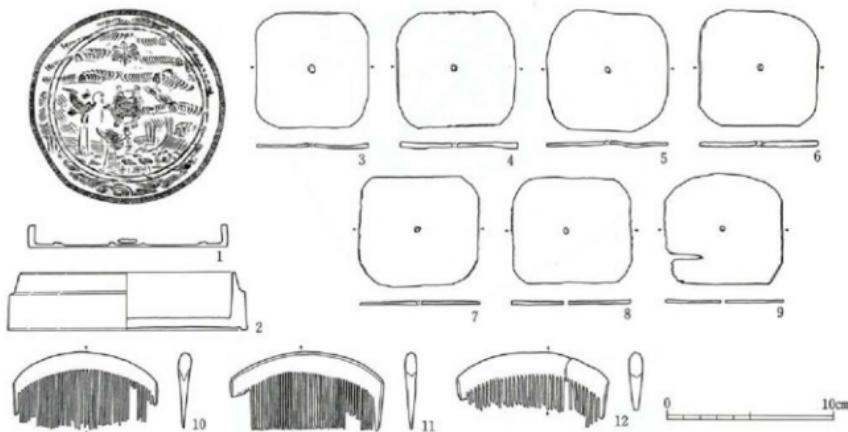
は円形であり、直径1.10m、深さ0.78mである。木棺は掘り方の東壁寄りで発見した。蓋、側板とも良好に残存しており、棺蓋の南東側には「前」の墨書が確認できる。棺の規模は口径0.70m、底径0.60m、高さ0.52mである。

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土しており、保存状況は良好である。被葬者は壮～老年の女性と鑑定された。

出土遺物(第27図) 木棺内部より銭貨102枚(渡来銭3、古寛永銭44枚、文銭24枚、新寛永銭31)、鏡1枚、鏡入れ1点、櫛3点、数珠玉83点、掘り方より提灯の底板7枚が出土した。このうち銭貨については、人骨を取り上げた後に、木棺南側からまとめて出土している。和鏡は、棺東側から倒位の状態で出土している。鏡入れ身に納められており、その上面には四肢骨の一部が重なっていた。櫛、数珠玉は人骨と重なり合って棺内部に散在していた。提灯底板については、すべて掘り方北側で確認しており、棺蓋上面から1点、埋土中から5点、底面から1点が出土している。

39号墓

形態・規模(第4図) 32、34、45号墓と重複し、それらよりも古い墓である。木棺自体は検出していない



番号	遺物名	出土層位	計 側 値	備 考	登録番号
1	和鏡	木棺内部	直径1.0、高さ1.3、厚さ0.3	鏡背に二重屏風図有、亀形縁と桟・桟木・4羽の鶴を配する。亀形縁の下には「天下一」銘有り	R-2
2	漆影鏡入れ	木棺内部	口径12.4、底径14.5、高さ3.5		R-115
3	提灯底板	掘り方埋土	長幅6.9、短幅6.7、孔径0.4、厚さ0.1～0.	C類	R-131
4	提灯底板	掘り方埋土	長幅2.1、短幅0.9、孔径0.3、厚さ0.2～0.	C類	R-100
5	提灯底板	掘り方埋土	長幅2.3、短幅0.7、孔径0.3、厚さ0.2	C類	R-132
6	提灯底板	掘り方埋土	長幅2.1、短幅0.9、孔径0.4、厚さ0.3	C類	R-128
7	提灯底板	掘り方埋土	長幅7.2、短幅6.7、孔径0.3、厚さ0.1～0.	C類	R-133
8	提灯底板	掘り方埋土	長幅7.2、短幅6.3、孔径0.3、厚さ0.2	C類	R-99
9	提灯底板	掘り方埋土	長幅7.1、短幅6.3、孔径0.3、厚さ0.15	C類	R-134
10	木製櫛	木棺内部	長さ8.8、幅2.4、高さ(A)12.7、高さ(B)0.7 櫛の内側 櫛の外側 櫛の内側 櫛の外側	A類 R-119	R-119
11	木製櫛	木棺内部	長さ9.3、全高4.7、高さ(A)12.7、高さ(B)0.9 厚さ0.7、齒数55、齒距1cm 6.79	A類	R-120
12	木製櫛	木棺内部	長さ9.2、高さ(A)2.8、高さ(B)11.1 厚さ0.6、齒数34、齒距1cm 4.41	A類	R-121

第27図 36号墓出土遺物

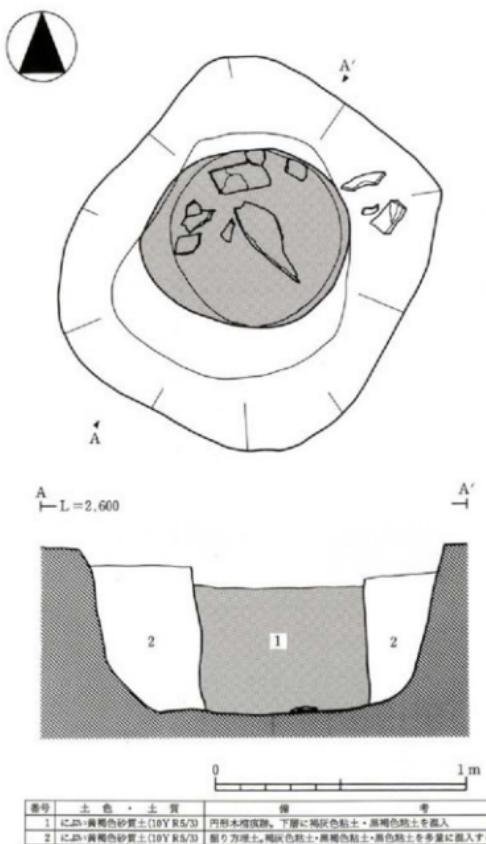
が、掘り方の南壁寄りで長方形の痕跡を確認している。痕跡の底面には長方形の底板が残存していることから、墓の形態は長方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は長方形であり、規模は長軸1.14m、短軸0.70m、深さ0.15mである。痕跡の規模は長辺0.60m、短辺0.44m、深さ0.20mである。

人骨の保存状態 人骨は出土していない。

出土遺物 木棺底面より銭貨3枚(古寛永銭2、文銭1)が出土した。

44号墓

形態・規模(第28図) 45号墓と重複し、それよりも古い墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方



第28図 44号墓平面図・断面図

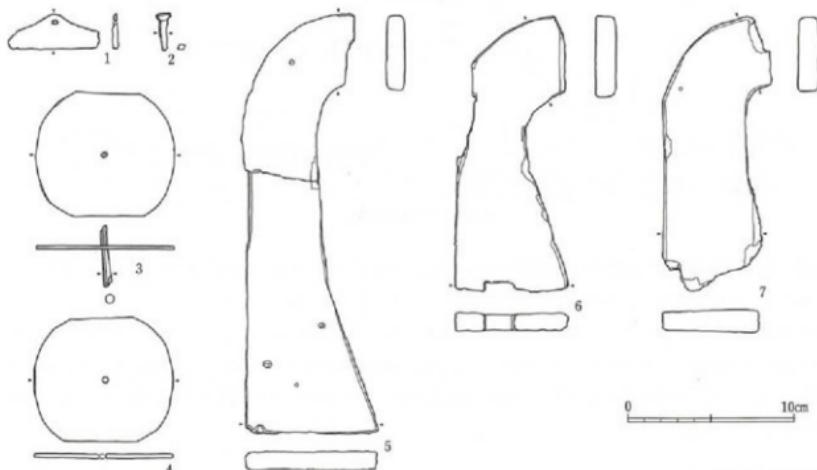
のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には瘤が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、長軸1.46m、短軸1.34m、深さ0.68mである。棺の規模は口径0.78m、底径0.72m、深さ0.60mである。

人骨 下顎骨、遊離歯、膝蓋骨、手・足根骨、指骨が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明であった。

出土遺物(第29図) 棺内部より銭貨12枚(古寛永銭4、文銭8)、火打鉄1点、数珠玉8点、掘り方より提灯の底板2点、不明木製品が出土した。銭貨、火打鉄については痕跡底面に落ち込んでいた棺蓋の破片を取り上げた後に、中央部から北側にかけてまとめて出土している。提灯底板、不明木製品については、掘り方北壁付近の埋土中から出土している。

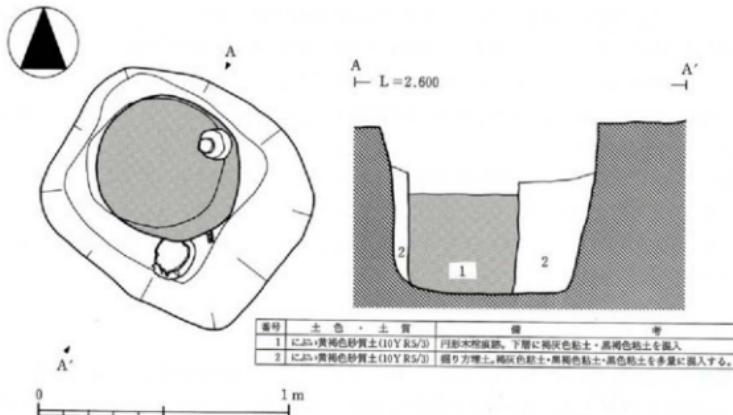
45号墓

形態・規模(第30図) 32・39・44号墓と重複し、32号墓よりも古く、39・44号墓よりも新しい墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方の北壁寄りで円形の痕跡を確認している。痕跡の上面から底面にかけて蓋が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.00m、短軸0.86m、深さ0.66mである。痕跡の規模は口径0.60m、底径0.54m、深さ0.68mである。

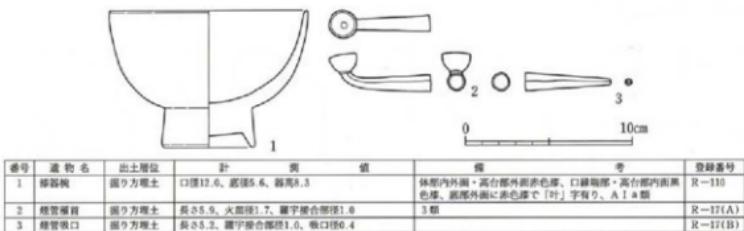


番号	遺物名	出土層位	計 面 積	厚 さ	備 考	登録番号
1	火打鉄	木板削鉛頭面	長さ3.5cm、高さ2.1cm、厚さ0.3cm		頭部に0.2~0.3mmの孔有り	R-30
	火打鉄	基盤埋土	長さ2.8cm	厚さ0.4cm		R-29
3	火打芯板	基盤埋土	長幅約4cm、短幅約4.4cm、孔径約0.4cm、厚さ0.2cm		B類	R-168
4	火打芯板	基盤埋土	長幅約4cm、短幅約7.4cm、孔径0.3cm、厚さ0.2cm		B類	R-169
5	不明木製品	基盤埋土	長さ25.3cm、厚さ1.1cm			R-170 (A)
6	不明木製品	基盤埋土	長さ16.1cm、厚さ1.1cm			R-170 (B)
7	不明木製品	基盤埋土	長さ16.65cm以上、厚さ1.2cm			R-170 (C)

第29図 44号墓出土遺物



第30図 45号墓平面図・断面図



第31図 45号墓出土遺物

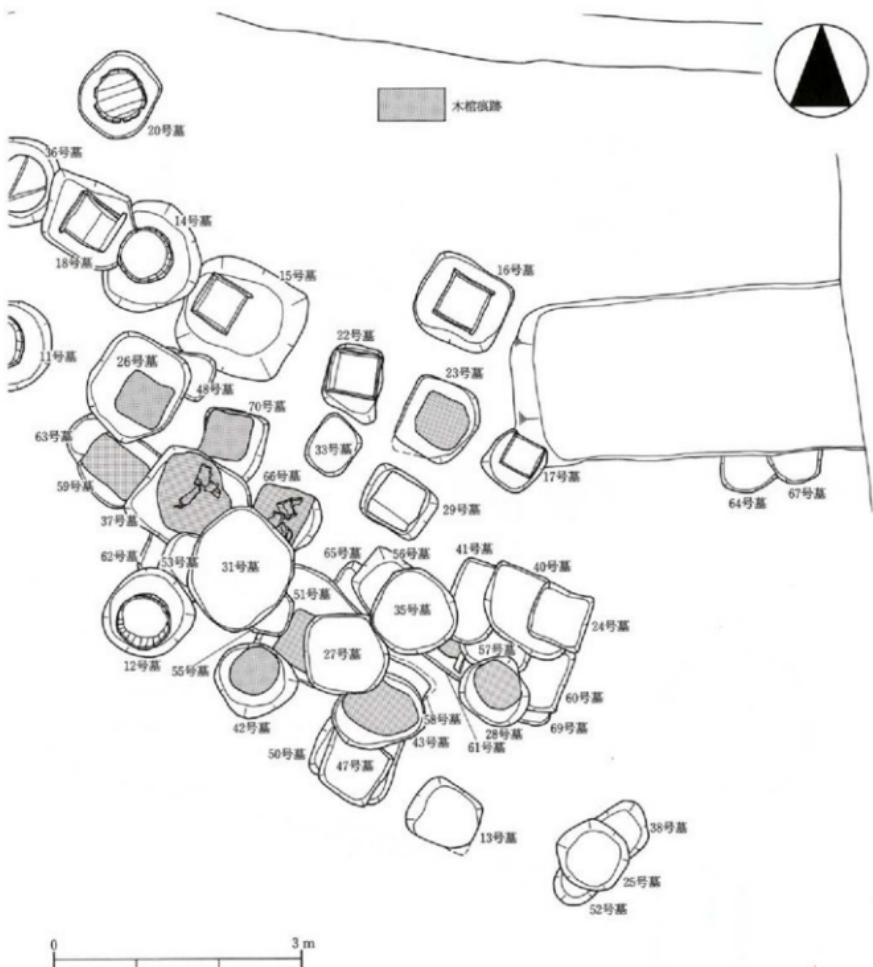
人骨 掘り方南壁寄りで頭頂骨、前頭骨を発見した。骨自体の保存状態は良好であり、被葬者は成人で女性的であると鑑定された。なお、木棺の痕跡内部からは人骨は全く出土していない。

出土遺物(第31図) 掘り方より銭貨30枚(古寛永錢11、文錢7、新寛永錢12)、煙管1組、漆器椀1点、箸状木製品1点、数珠玉2点が出土した。銭貨については木棺の南側から、並列した状態で出土している。漆器椀については、木棺痕跡の最上部から倒位の状態で出土しており、その内面には折れ曲がった箸状木製品が収まっていた。

調査区東半部(第32図)

12号墓

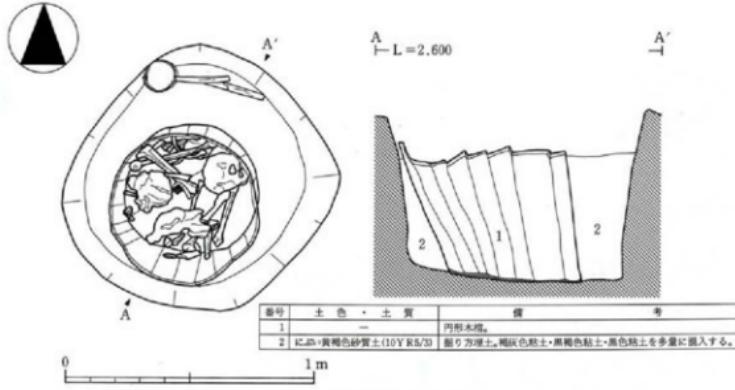
形態・規模(第33図) 墓の形態は円形木棺墓である。53・54・62号墓と重複し、それより新しい。掘り方の平面形は楕円形であり、規模は長径1.05m、短径0.96m、深さ0.68mである。木棺は掘り方の南壁寄りで発見した。蓋は南半分が棺内部にまで入り込んでいたが、側板及び底板は良好に残存していた。また、側板と底板の接合部外面には、籠が巻かれていた。棺の規模は口径0.64m、底径0.54m、高さ0.46mである。



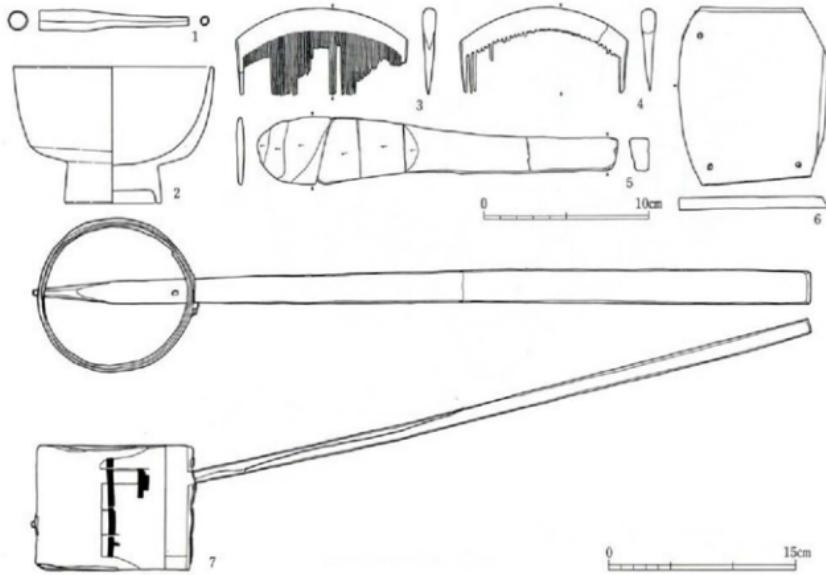
第32図 調査区東半部検出墓

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は熟年の男性と鑑定された。

出土遺物(第34図) 木棺内部より煙管吸口1点、櫛2点、掘り方より漆器椀1点、柄杓1点、ヘラ状木製品1点、有孔板状木製品1点が出土した。このうち、櫛については人骨の上面から1点(4)と、重なるようにもう1点(3)が出土している。漆器椀については掘り方南壁側から、内面を木棺側に向けた状態で出土している。柄杓は木棺北側から出土している。柄中央部から折れ曲がっており、その上端部分と曲物部分が向い合うように置かれていた。



第33図 12号墓平面図・断面図



番号	遺物名	出土層位	計 高さ 厘 米	備 考	圖 考	井跡番号
1	櫛状復口	木棺内部	長さ9.8、幅9.8、櫛子複合部1.2、櫛口幅0.55			R-10
2	漆刷椀	木棺内部	口径12.2、底径5.9、高さ8.3	体窓内外面・高台部外側赤褐色・口縁部・高台部内面黒褐色瓶内外面に赤褐色で記号有り、B I * 標		R-71
3	木製櫛	木棺内部	長さ10.4、高さ5.2、高さ(A)13.0、高さ(B)1.0、厚さ0.9、齒数39、齒幅1.0x9.37	A類		R-30
4	木製櫛	木棺内部	長さ18.2、高さ5.0、高さ(A)12.0、高さ(B)1.0、厚さ0.9、齒数35、齒幅1.0x3.89	A類		R-31
5	ヘラ状木製品	刷り方理土	長さ21.8、ヘラ形状4.1、柄部幅2.0			R-27
6	有孔木製品	刷り方理土	長さ18.3、幅9.0、厚さ0.7	三方に孔有り		R-28
7	鉄釘	刷り方理土	釘頭分一長さ64.5、幅2.0~0.5、厚さ1.0~0.5 曲物部分一口径12.6、底径12.6、高さ10.1			R-184

第34図 12号墓出土遺物

13号墓

形態・規模(第35図) 墓の形態は直葬墓である。墓壙の平面形は方形であり、規模は長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.61mである。

人骨 人骨は出土していない。

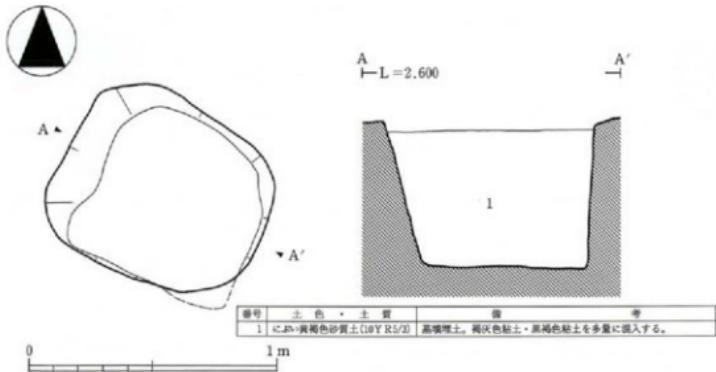
出土遺物(第36図) 墓壙埋土から鉄貨6枚(古寛永銭1、新寛永銭2、不明銭3)、煙管吸口1点、櫛1点、提灯底板1点、数珠玉4点、染付磁器破片が出土した。

14号墓

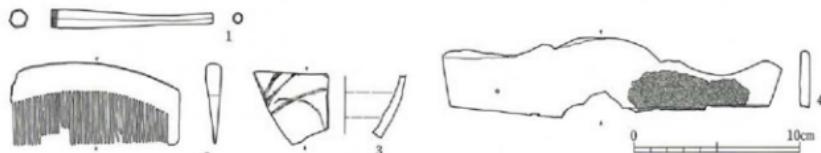
形態・規模(第37図) 墓の形態は円形木棺墓である。15・18号墓と重複し、前者より新しく後者より古い。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径1.33m、深さ0.70mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。棺の規模は口径0.68m、底径0.61m、高さ0.58mである。

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土した。保存状態は良好であり、被葬者は壮年の男性と鑑定された。

出土遺物(第38図) 木棺内部より鉄貨136枚(渡来銭2、古寛永銭68、文銭29、新寛永銭37)、漆器挽3点、櫛2点、数珠玉198点、掘り方より漆器挽1点、提灯底板5点が出土した。このうち、銭貨、金具、数珠玉、

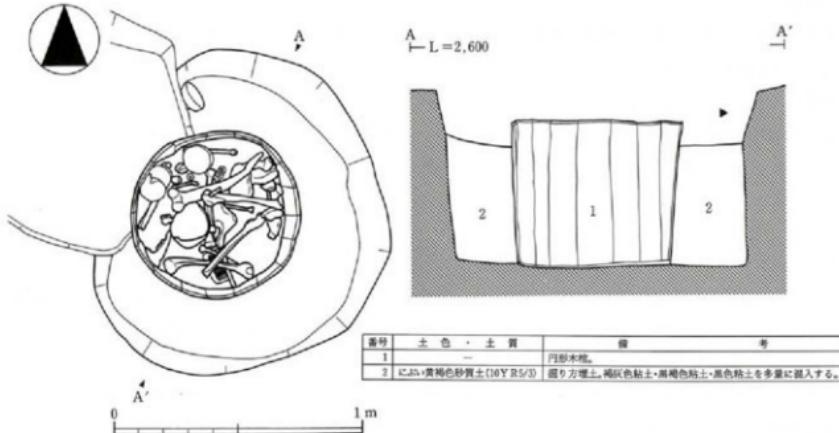


第35図 13号墓平面図・断面図

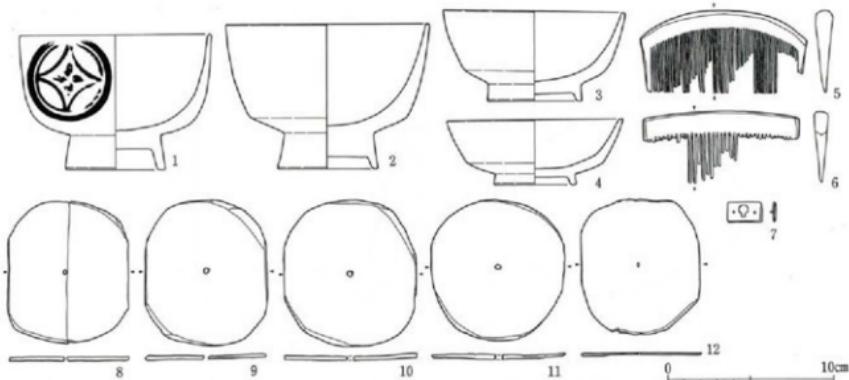


番号	遺物名	出土部位	計 面 積	面 積 値	備 考	登録番号
1	櫛	墓壙埋土	高さ5.8、幅宇接合部断面1.1、底口幅0.6	幅宇接合部断面4角形、縫合有り		R-11
2	木製櫛	墓壙埋土	高さ5.6、高さ(A)3.1、高さ(B)1.4 厚さ0.5、齒数66、齒数/1cm 4.95	A相		R-33
3	磁器	墓壙埋土		外型に染め付け有り、内面無釉		R-4
4	不明木製品	墓壙埋土	長さ20.6、厚さ0.5	わずかに炭化した箇所有り、底0.6cmの孔有り、		R-32

第36図 13号墓出土遺物



第37図 14号墓平面図・断面図



番号	遺物名	出土位置	計測値	備考	標識番号
1	漆器碗	盛り方埋土	口径11.6、底径6.0、器高4.1	内面赤色。体部外側・高台内部に圓周色帶 体部外周3/4カ所に紋章(植物紋)有り、底部外側に赤色带 「十」字有り、A II a型	R-16
2	漆器碗	本棺内部	口径12.3、底径6.1、器高5.7	体部内外面・高台外部赤色带、口縁端部・高台内部圆周色带 底面外周に赤色带(記号 (?))有り、B I a型	R-72
3	漆器碗	本棺内部	口径11.0、底径5.7、器高5.4	体部内外面・高台外部赤色带、口縁端部・高台内部圆周色带 底面外周に赤色带(記号 (?))有り、B I c型	R-73
4	漆器碗	本棺内部	口径10.6、底径5.0、器高3.9	体部内外面・高台外部赤色带、口縁端部・高台内部圆周色带 底面外周に赤色带(記号 (?))有り、B I c型	R-74
5	木製櫛	本棺内部	長さ10.0、幅5.0、高さ(A)2.4、高さ(B)0.厚さ1.0、曲数69、曲数/cm 7.84	A型	R-129
6	木製櫛	本棺内部	長さ9.4、高さ(4.3)、高さ(A)1.7、高さ(B)厚さ2.8、曲数54、曲数/cm 4.10	B型	R-130
7	金具	本棺内部	長さ2.1、幅1.3、厚さ0.25	厚さ0.1mmの鉄板が2枚重なっている。中央に鍔穴(?)有り	R-17
8	提灯底板	能力埋土	長軸8.8、短軸7.3、孔径0.2、厚さ0.2	B型	R-77
9	提灯底板	能力埋土	長軸8.8、短軸8.0、孔径0.3、厚さ0.2~0.3	B型	R-76
10	提灯底板	能力埋土	長軸8.8、短軸8.0、孔径0.3、厚さ0.3	B型	R-136
11	提灯底板	能力埋土	長軸8.5、短軸8.1、孔径0.3、厚さ0.15~0.17	B型(?)	R-75
12	提灯底板	能力埋土	長軸8.2、短軸7.1、孔径0.1、厚さ0.1	B型	R-70

第38図 14号墓出土遺物

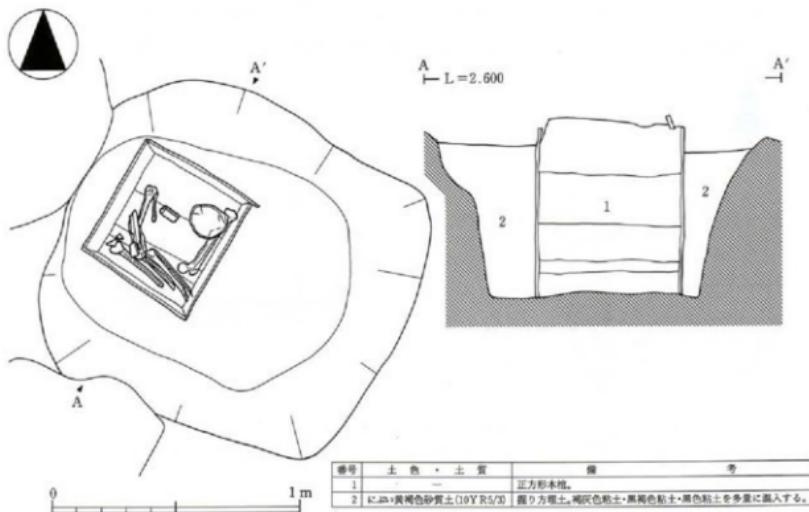
櫛については、人骨を取り上げた後に確認しており、特に銭貨は棺北半部からまとまって出土している。一方、漆器椀は木棺西側に集中して認められ、B I a類(2)が棺底面、B I b類とB I c類(3・4)が人骨の上面から重なった状態で出土している。掘り方から出土した遺物では、漆器椀A IIa類(1)が木棺北側の底面から、内面を北東側に向けた状態で出土している。提灯底板は掘り方北壁側にまとまっており、棺口縁部と同じ高さから出土したものが2点、埋土中から出土したものが3点ある。

15号墓

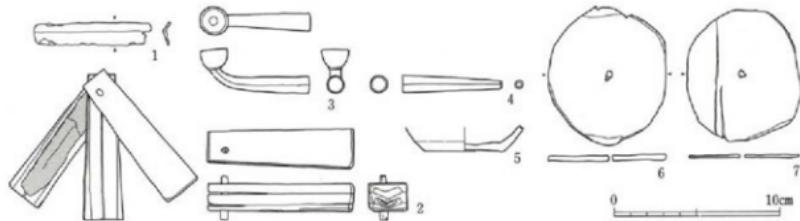
形態・規模(第39図) 墓の形態は正方形木棺墓である。14・48号墓と重複し、それらよりも古い。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.42m、短軸1.34m、深さ0.66mである。木棺は掘り形の西壁寄りで発見した。蓋は南側の一部が残る程度で、その他は棺内部に落ち込んでいた。側板、底板は良好に残存しており、南側の側板外面には、「前」の墨書が確認できる。棺の規模は東西0.50m、南北0.54m、高さ0.66mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土したが、保存状況は不良である。被葬者は青年～壮年期前半の男性(女性の可能性もある)と鑑定された。

出土遺物(第40図) 木棺内部より銭貨12枚(渡来銭1、古寛永銭7、文銭2、新寛永銭2)、煙管1組、剃刀1点、数珠玉30点、掘り方より磁器破片、かわらけ1点、提灯の底板2点が出土した。棺内部から出土した遺物のうち銭貨、数珠玉については棺底面に散在しており、剃刀については木製の容器に納められた状態で出土している。掘り方出土のものはすべて埋土上層から出土したものである。



第39図 15号墓平面図・断面図



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	鉢形刀	木棺内部	長さ7.2、幅1.9、厚さ0.1	断面は長い「V」字型を呈す	R-721
2	刀形容器	木棺内部	長さ9.5、幅(最大)2.4、厚さ0.6~1.7		R-183
3	煙管瓶首	木棺内部	長さ6.0、火薬室1.7、蓋子兼合部径1.1	3個	R-12(A)
4	煙管吸口	木棺内部	長さ6.0、蓋子兼合部径1.1、口径Φ0.5		R-12(B)
5	かわらけ	掘り方埋土	底径4.4	底部回転角切り後ナダ	R-12
6	煙灯馬形	掘り方埋土	底径4.4、短軸2.1、孔径0.4、厚さ0.4	B型(?)	R-68
7	提灯底板	掘り方埋土	長軸7.9、短軸6.7、孔径0.5、厚さ0.2	B型(?)	R-69

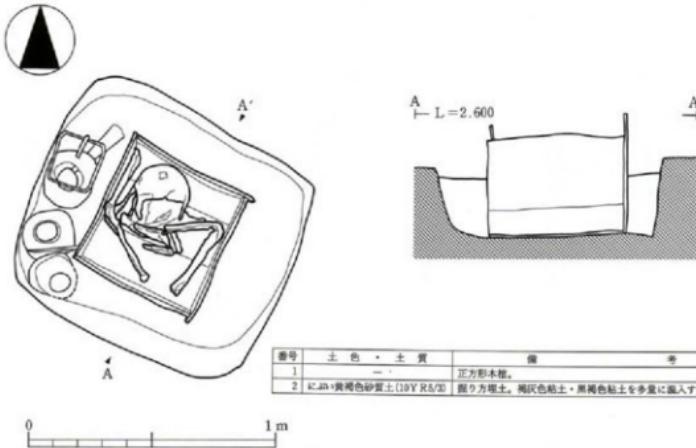
第40図 15号墓出土遺物

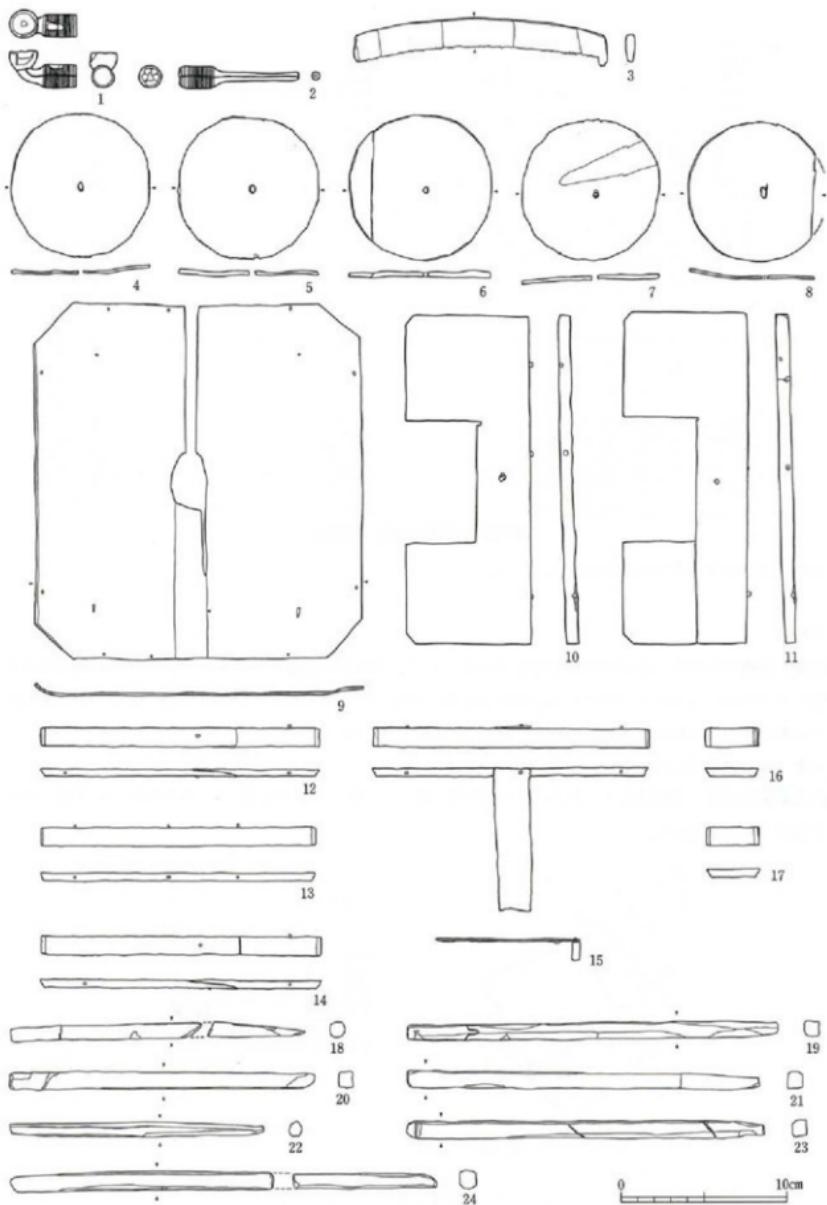
16号墓

形態・規模(第41図) 墓の形態は正方形木棺墓である。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.08m、短軸0.98m、深さ0.32mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は碎けて棺内部に落ち込んでいたが、側板及び底板は良好に残存していた。棺の規模は東西0.52m、南北0.56m、高さ0.52mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は壮年～熟年期の男性と鑑定された。

出土遺物(第42図) 木棺内部より銭貨26枚(古寛永銭2、文銭2、新寛永銭21)、煙管1組、櫛1点、数珠玉37点、掘り方よりかわらけ灯明皿破片、提灯3点、提灯底板2点、箸状木製品7点、膳が出土した。このうち、煙管については人骨の上面から出土しており、銭貨、櫛、数珠玉については人骨を取り上げた後に棺底面で確認している。提灯については掘り方の西側底面から3点、東側の埋土中から2点出土している。特に西側から出土したものについては、3点とも提灯枠が良好に残存していた。膳については北西側





第42図 16号墓出土遺物

番号	遺物名	出土層位	計 面 積 体 積	備 考	登録番号
1	縫合棺板	木棺内部	長さ6.1、高さ1.6、縫合部幅6.9	2 個	R-8(A)
1	縫合棺板	木棺内部	長さ6.1、高さ1.6、縫合部幅6.9	縫合部に細かい縫糸あり、2 個	R-13(A)
2	縫合棺口	木棺内部	長さ7.1、縫合部幅6.5、奥行き6.5	縫合部に細かい縫糸あり、2 個	R-13(B)
3	木製櫛	木棺内部	長さ(15.5)、高さ(A)12.5、高さ(B)11.3、厚さ3(5.5)、曲数81、曲数/1cm 5.63	B個	R-38
4	提灯灰板	掘り方埋土	長径6.7、短径8.4、丸径0.3~0.5、厚さ0.2	A個、提灯灰あり	R-1113
5	提灯灰板	掘り方埋土	直径5.5、孔径0.4、厚さ0.25	A個、提灯灰あり	R-1114
6	提灯灰板	掘り方埋土	長径6.7、短径8.4、丸径0.2~0.3、厚さ0.3~0.5	A個	R-61
7	提灯灰板	掘り方埋土	直径5.5、短径8.2、丸径0.35、厚さ0.2~0.3	A個、提灯灰あり	R-1115
8	提灯灰板	掘り方埋土	直径(8.4)、孔径3.5、厚さ0.1~0.2	A個	R-167
9	膳の台	掘り方埋土	長径11.4、短径21.9、厚さ0.1~0.15		R-63
10	膳の脚	掘り方埋土	長さ29.4、厚さ0.8、高さ2.6		R-62(A)
11	膳の脚	掘り方埋土	長さ29.0、厚さ0.8、高さ2.5		R-62(B)
12	膳の枠	掘り方埋土	長さ36.9、幅1.2、厚さ0.6~0.5		R-1119 (A)
13	膳の枠	掘り方埋土	長さ36.6、幅1.1、厚さ0.5		R-1119 (B)
14	膳の枠	掘り方埋土	長さ36.9、幅1.1、厚さ0.5		R-1119 (C)
15	膳の枠	掘り方埋土	長さ36.6、幅1.1、厚さ0.5	中央部に長さ8.6以上、幅2.1、厚さ0.1の板材が取り付く	R-1119 (D)
16	膳の枠	掘り方埋土	長さ33.2、幅1.1、厚さ0.5		R-1119 (E)
17	膳の枠	掘り方埋土	長さ32、幅1.1、厚さ0.5		R-1119 (F)
18	箸状木製品	掘り方埋土	最大径0.9	断面内形	R-64
19	箸状木製品	掘り方埋土	長さ22.2、厚さ0.9×0.9	断面方形	R-1128
20	箸状木製品	掘り方埋土	厚さ1.0×0.8	断面方形	R-1129
21	箸状木製品	掘り方埋土	長さ21.1、厚さ1.0×0.9	断面方形	R-1130
22	箸状木製品	掘り方埋土	長さ15.3、最大径0.9	断面内形	R-1131
23	箸状木製品	掘り方埋土	長さ21.5、厚さ1.0×0.9	断面方形	R-1132
24	箸状木製品	掘り方埋土	厚さ1.2×1.0	断面方形	R-1133

第42図 16号墓出土遺物(観察表)

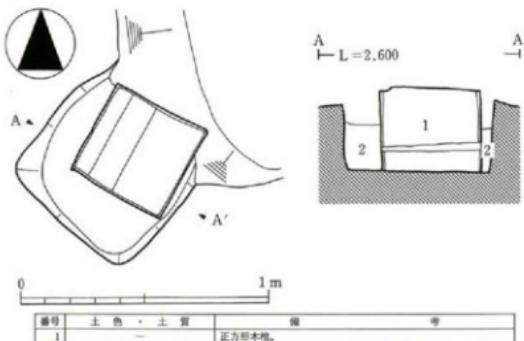
の提灯と重なるような状態で出土している。

17号墓

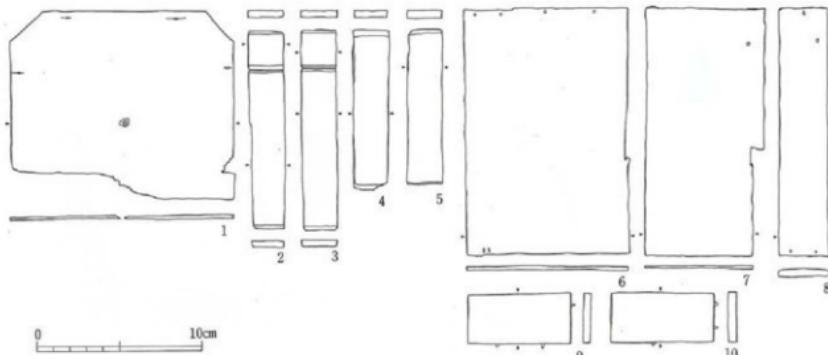
形態・規模(第43図) 墓の形態は正方形木棺墓である。東半部が破損しているが、残存部から判断すると掘り方の平面形は方形と考えられる。規模は長軸0.7m以上、短軸0.64m、深さ0.28mである。木棺は掘り形の東壁寄りで発見した。棺の規模は、底辺で一辺0.40mである。

人骨 人骨は発見していない。

出土遺物(44図) 木棺内部より銭貨5枚(古銭寛永銭2、文銭2、新寛永銭1)、掘り方埋土より膳、棒状木製品3本が出土した。



第43図 17号墓平面図・断面図



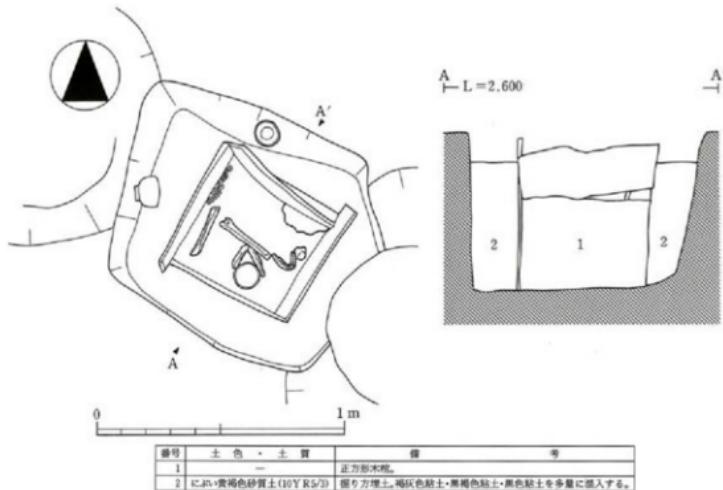
第44図 17号墓出土遺物

18号墓

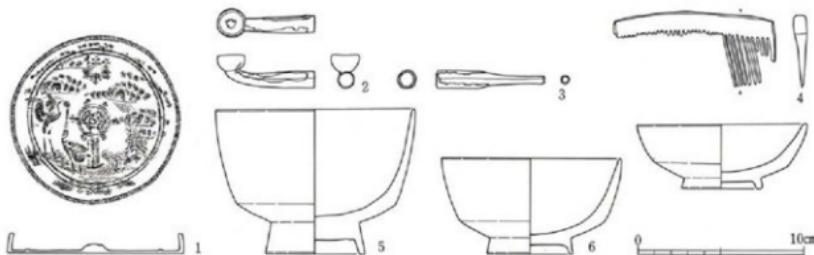
形態・規模(第45図) 墓の形態は正方形木棺墓である。14・36号墓と重複し、それらよりも新しい。掘り方の平面形は不整方形であり、東側は14号墓の木棺を避けて掘り込まれている。規模は長軸1.10m、短軸0.94m、深さ0.64mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。蓋は破損していたが、側板及び底板は良好に残存していた。棺の規模は東西0.58m、南北0.56m、高さ0.58mである。

人骨 頭蓋骨、四肢骨が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は壮～熟年の女性と鑑定された。

出土遺物(第46図) 木棺内部より銭貨57枚(渡来銭1、古寛永銭25、文銭14、新寛永銭17)、鏡1枚、煙管1組、櫛1点、数珠玉77点、掘り方より漆器碗3点が出土した。木棺内部から出土したものうち、銭貨は西側底面の側板に添って並列した状態で出土しており、和鏡は棺底面の南側から鏡背を上に向かた状態で出土している。数珠玉は棺底面に散在してた。煙管については中央部の人骨の下から、櫛については北西部の人骨の下からそれぞれ出土している。漆器碗については、すべて掘り方底面から出土している。B I a類(5)は掘り方西壁側から、内面を木棺側に向けた状態で出土しており、B I c類(7)は棺西側の側板に口縁部が接するような状態で出土している。B I b類(6)については掘り方北壁側から、内面を上に向けた状態で出土している。



第45図 18号墓平面図・断面図



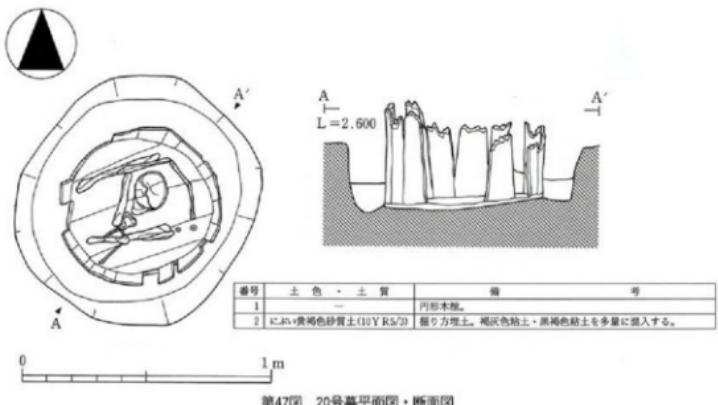
番号	遺物名	出土層位	計画的	備考	登録番号
1	和鏡	木棺内部	直径10.6、縁高1.15、厚さ0.3	縁間に二重外縁有り、龟形紐と松・桜・双鶴を配する	R-3
2	椎管頭部	木棺内部	長さ9.9、火焔形1.7、頭字接合部径1.0	5個	R-14(A)
3	椎管竪口	木棺内部	長さ6.1、頭字接合部径1.1、頭字径0.4	6個	R-14(B)
4	木製帶	木棺内部	高さ(4.2)、高さ(A1)7.5、高さ(B1)1.0 厚さ0.8、曲数34、巻数/1cm 3.74	B類	R-42
5	漆器碗	木棺内部	口径12.1、底径6.0、器高6.6	体部内外面・高台前面漆色薄、口縁端部・高台前面漆色濃、底部外面に赤色縦で櫛刺の記号有り、B 1-a類	R-39
6	漆器碗	木棺内部	口径11.9、底径5.2、器高5.8	体部内外面・高台前面漆色薄、口縁端部・高台前面漆色濃、底部外面に赤色縦で櫛刺の記号有り、B 1 b類	R-40
7	漆器碗	木棺内部	口径10.3、底径4.9、器高3.9	体部内外面・高台前面漆色薄、口縁端部・高台前面漆色濃、底部外面に赤色縦で櫛刺の記号有り、B 1 c類	R-41

第46図 18号墓出土遺物

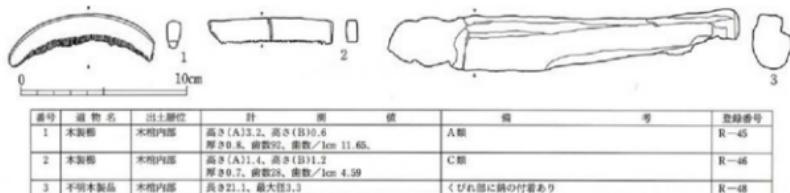
20号墓

形態・規模(第47図) 墓の形態は円形木棺墓である。後世の削平を強く受けており、掘り方及び木棺の大部分が破損していた。掘り方の平面形は円形であり、規模は長径0.98m、短径0.89m、深さ0.28mである。木棺は掘り方のほぼ中央部で発見した。棺の規模は底径0.58m、高さ0.40m以上である。

人骨 頭蓋骨、四肢骨片が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人で、男性的であると鑑定された。



第47図 20号墓平面図・断面図



第48図 20号墓出土遺物

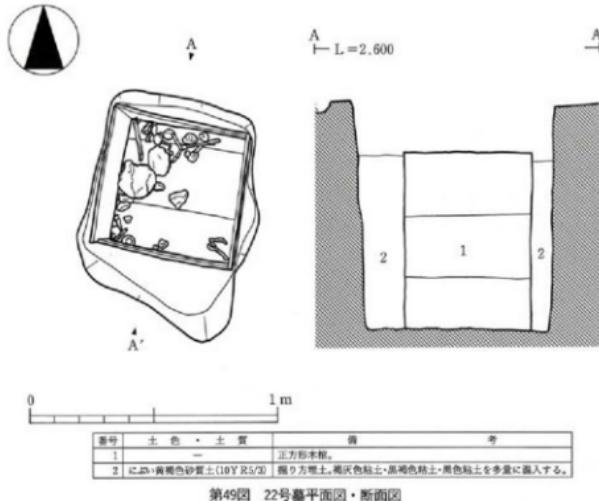
出土遺物(第48図) 木棺内部より銭貨6枚(古寛永銭5、文銭1)、櫛2点、数珠玉91点、不明木製品1点が出土した。このうち銭貨は棺東側底面と頭骨の下から出土している。櫛についてはC類(2)が下顎骨の内面から、A類(1)が頭骨の下から出土している。数珠玉は棺底面に散在していた。

22号墓

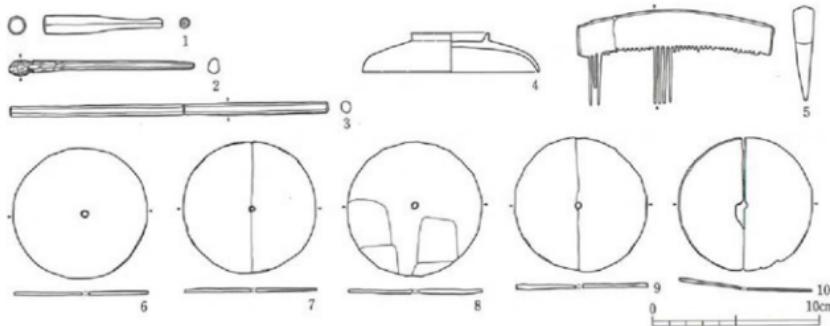
形態・規模(第49図) 墓の形態は正方形木棺墓である。掘り方の平面形は不整形であり、規模は長軸1.02m、短軸0.66m、深さ0.92mである。木棺は掘り方の北壁寄りで発見した。棺蓋、側板ともに良好に残存しており、埋葬当時の状態が保たれていた。棺の規模は東西0.58m、南北0.56m、高さ0.70mである。

人骨 頭蓋骨、体幹骨、四肢骨が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は熟年の女性と鑑定された。

出土遺物(第50-1・2図) 棺内部より銭貨41枚(古寛永銭10、文銭5、新寛永銭26)、煙管吸口1点、漆器蓋1点、櫛1点、不明木製品1点、数珠玉30点、掘り方よりヘラ状木製品1点、提灯の底板5点、膳、箸状木製品が出土した。このうち、銭貨、数珠玉については棺底面に散在しており、煙管、櫛、不明木製品は人骨を取り上げた後に出土している。提灯底板は棺蓋上面から1点、それと同じ高さの埋土中から1点、埋土下層から3点が出土している。ヘラ状木製品、膳については、棺蓋上面から出土している。



第49図 22号墓平面図・断面図

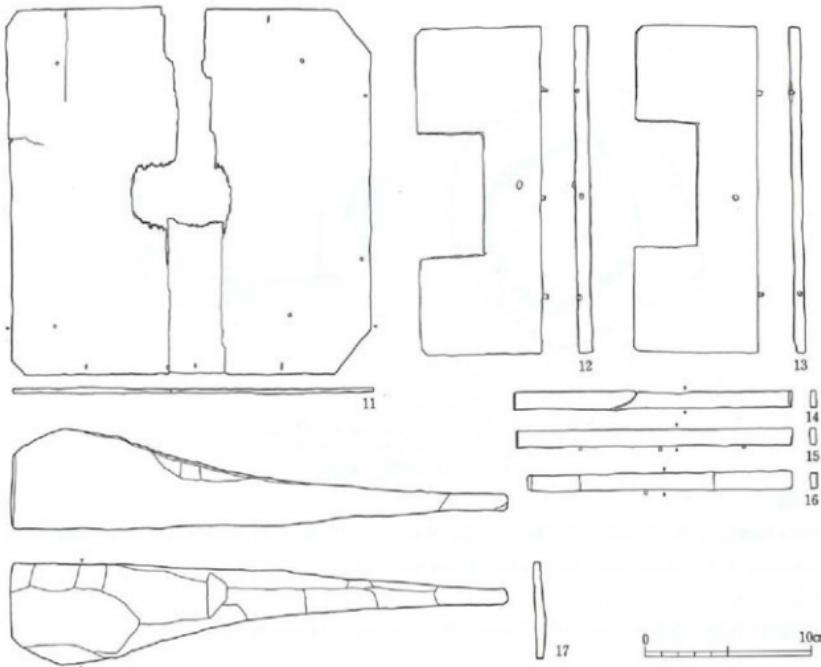


第50-1図 22号墓出土遺物(I)

23号墓

形態・規模(第51図) 本造構では木棺自体は検出していないが、掘り方の中央部には正方形の痕跡を確認していることから、墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸0.93m、短軸0.91m、深さ0.42mである。痕跡の規模は東西0.60m、南北0.52m、深さ0.42mである。

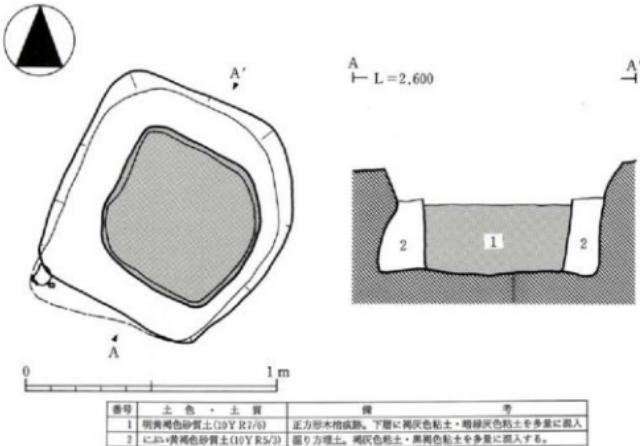
人骨 指骨と尾椎骨の一部が出土したが、保存状態は非常に悪い。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明であった。



番号	遺物名	出土部位	計 量 規 格	備 考	登録番号
1	漆菅菅口	木棺内部	高さ2.7、腹字縫合側縁1.1、楕口径9.6		R-16
2	不明木製品	木棺内部	高さ11.2		R-56
3	漆碗木製品	掘り方埋土	高さ19.2、最大径0.7	断面8角形	R-163
4	漆漆蓋	木棺内部	口径10.5、底径4.7、厚さ2.3		R-56
5	木製桶	木棺内部	高さ11.8、底径5.7、高さ(A)12.8、高さ(B)11.9	B類	R-97
6	提灯底板	掘り方埋土	底径8.0、丸周0.4、厚さ0.2	A類	R-162
7	提灯底板	掘り方埋土	底径8.0、丸周0.25、厚さ0.2	A類	R-81
8	提灯底板	掘り方埋土	底径8.0、丸周0.3、厚さ0.3	A類	R-93
9	提灯底板	掘り方埋土	底径8.0、丸周0.35、厚さ0.2~0.3	A類	R-98
10	提灯底板	掘り方埋土	底径8.0、丸周0.3、厚さ0.2	A類	R-32
11	鏡の台	掘り方埋土	高さ22.0、幅約21.8、厚さ0.22~0.3		R-94
12	鏡の脚	掘り方埋土	高さ19.8、厚さ0.9、高さ7.5		R-95
13	鏡の脚	掘り方埋土	高さ19.7、厚さ0.7、高さ7.5		R-54
14	鏡の枠	掘り方埋土	長さ16.8、幅1.0、厚さ0.4		R-53(A)
15	鏡の枠	掘り方埋土	長さ16.5、幅1.0、厚さ0.4		R-53(B)
16	鏡の枠	掘り方埋土	長さ16.0、幅1.0、厚さ0.4		R-96
17	圓状木製品	掘り方埋土	長さ30.0、寬部幅5.5、厚さ0.9		R-92

第50-2 22号墓出土遺物(2)

出土遺物(第52図) 木棺痕跡から銭貨9枚(古寛永銭2枚、新寛永銭7枚)、数珠玉1点、掘り方より陶器碗1点、提灯の底板2枚、膳が出土した。このうち銭貨については痕跡の底面に散在していた。陶器丸椀は掘り方南西隅の底面から倒位の状態で出土している。その他のものはいずれも埋土中から出土している。



第51図 23号墓平面図・断面図

24号墓

形態・規模(第53図) 墓の形態は直葬墓である。S P 40・60と重複し、それらよりも新しい。墓壙の平面形は方形であり、長辺0.66m、短辺0.64m、深さ0.42mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(54図) 墓壙埋土から赤絵磁器小皿、鉄製金具(?)、提灯の底板が出土した。

25号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。38号墓、52号墓と重複しそれらよりも新しい。墓壙の平面形は円形であり、直径0.85m、深さ0.42mである。

人骨の保存状態 人骨は出土していない。

出土遺物(第55図) 墓壙埋土からかわらけ灯明皿1点が出土した。

26号墓

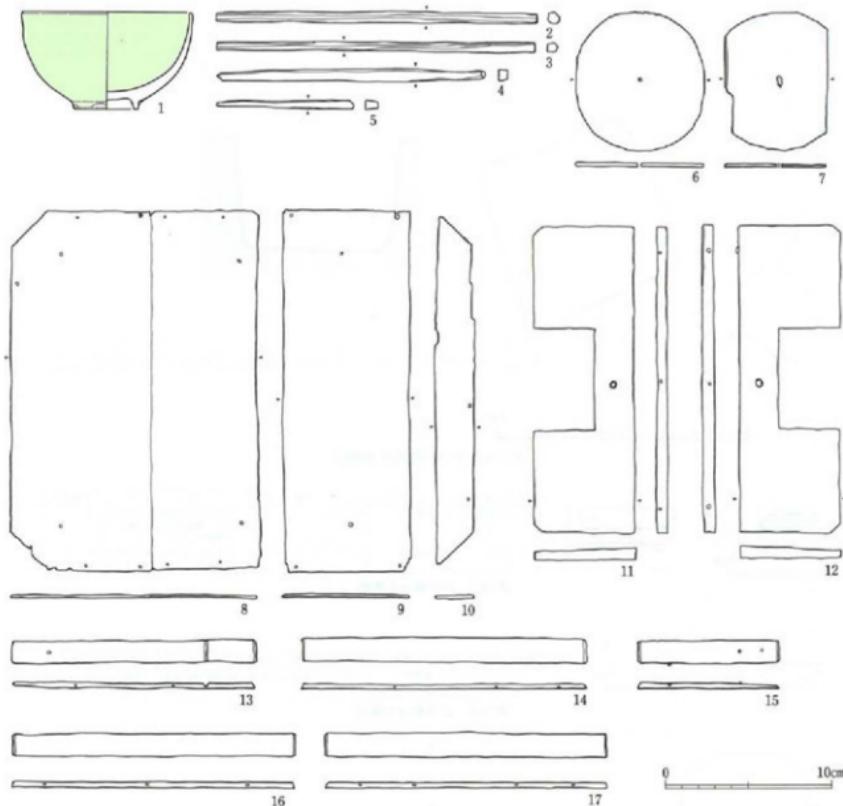
形態・規模(第33図) 後世の削平のため底面付近まで破壊されており、残存状況は非常に悪い。48・59・63号墓と重複し、それらよりも新しい。木棺自体は検出していないが、掘り方の南壁寄りにほぼ正方形の痕跡を確認していることから、墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.24m、短軸1.06m、深さ0.13mである。痕跡の規模は一辺0.57m、深さ0.13mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第56図) 掘り方から提灯の底板1点が出土した。

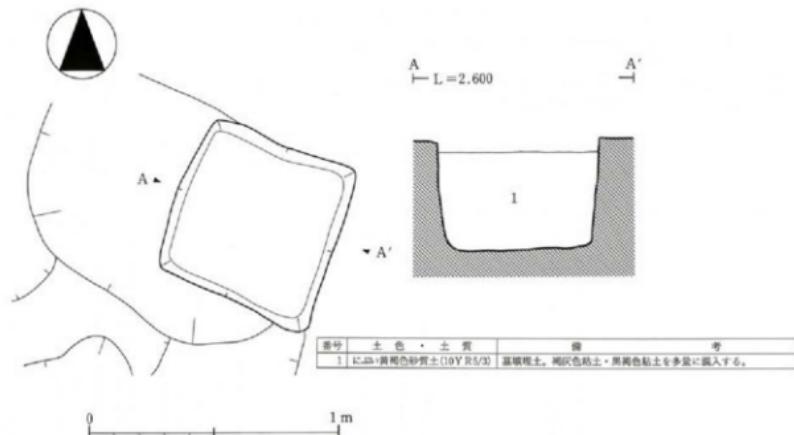
27号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。後世の削平のため底面付近まで破壊されており、残存状

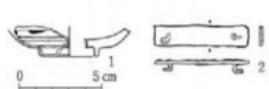


番号	遺物名	出土層位	計 長 幅 厚	特 徴	復 号	登録番号
1	陶器丸鉢	基壇底面	口徑(10.4)、底径3.8、高さ5.9	体部全面に淡い緑色釉、高台内部露胎、大底相馬系、18C	R-16	
2	埴状木製品	基壇底面	長さ19.4、最大径0.7		R-86	
3	埴状木製品	基壇底面	長さ19.3、最大径0.6		R-88	
4	埴状木製品	基壇底面	長さ16.2、最大径0.9		R-89	
5	埴状木製品	基壇底面			R-92	
6	燈籠芯板	基壇埋土	長径5.4、短径7.3、孔径0.2、厚さ0.25	A板	R-79	
7	燈籠芯板	基壇埋土	長径5.3、孔径0.3、厚さ0.2		R-91	
8	縄の台	基壇埋土	縄さ0.3	R-84・85と同一固体と思われるが、接合点が不明確	R-90	
9	縄の台	基壇埋土	縄さ0.3		R-84	
10	縄の台	基壇埋土	縄さ0.3		R-85	
11	縄の鉢	基壇埋土	長さ15.6、厚さ0.6、高さ6.2		R-82	
12	縄の鉢	基壇埋土	長さ15.0、厚さ0.8、高さ6.1		R-83	
13	縄の鉢	基壇埋土	長さ14.5、幅1.4、厚さ0.3	割みのある部分で折れ曲がる	R-1120 (A)	
14	縄の鉢	基壇埋土	長さ17.2、幅1.5、厚さ0.3		R-1120 (B)	
15	縄の鉢	基壇埋土	長さ8.6、幅1.4、厚さ0.3		R-1120 (C)	
16	縄の鉢	基壇埋土	長さ15.1、幅1.5、厚さ0.4		R-1120 (D)	
17	縄の鉢	基壇埋土	長さ17.2、幅1.4、厚さ0.3		R-1120 (E)	

第52図 23号墓出土遺物



第53図 24号墓平面図・断面図



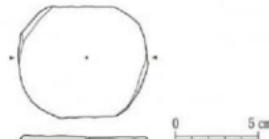
番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	漆绘磁器小皿 (?)	基礎埋土	直径(3.4)	体部内外面透明白、外沿赤 絞、底腹部有り、瓶口・ 美濃系、19C	R-7
2	金具	基礎埋土	長さ5.7、幅1.3、厚さ0.2	両端に高さ0.5cm程の突出 部有り	R-28

第54図 24号墓出土遺物



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	かわらけ灯明皿 1点	基礎埋土	口径(6.2)、直徑3.6、幕高1.4	底部凹船あきり、体部ロク ロナデ、口縁部に細網付帯	R-11

第55図 25号墓出土遺物



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	銅打洗板	張り方埋土	長軸7.8、短軸6.2、孔径0.1、 厚さ0.25	B類	R-114

第56図 26号墓出土遺物

況は悪い。35・43・51号墓と重複し、35号墓よりも古く、43・51号墓よりも新しい。墓壙の平面形は不整形であり、長軸1.00m、短軸0.91m、深さ0.05mである。

人骨 遊離歯が出土した。被葬者は成人と鑑定されたが、性別は不明である。

出土遺物(第57図) 墓壙底面から銭貨1枚(新寛永錢)、かわらけ灯明皿1点が出土した。

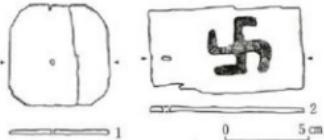
28号墓

形態・規模(第32図) 57・60・61・69号墓と重複し、それらよりも新しい墓である。木棺自体は検出して



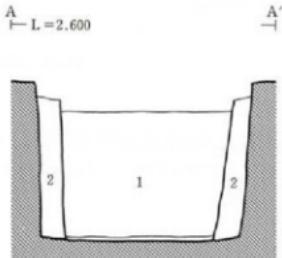
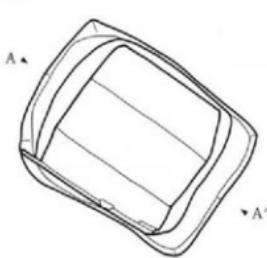
番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	かわらけ灯明	墓壁埋土	口径6.7、底径4.2、高さ1.9	底部側面斜切り後ナギ。体部外面ナギ、内側に油煙付着	R-3

第57図 27号墓出土遺物



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	提灯底板	墓壁埋土	長軸6.1、短軸6.0、孔径0.2、厚2.0-2.5	C類	R-140
2	有孔板状木製	墓壁埋土	長軸9.2、孔径0.5、厚0.2-0.3	墨書(卍の変形)	R-151

第58図 28号墓出土遺物



番号	土色・土質	備考
1	灰白色・黄褐色砂質土 (10YR 8/3)	正方形木棺底跡、褐灰色粘土・黒褐色粘土を側入する。底板あり。
2	灰褐色・黄褐色砂質土 (10YR 5/3)	掘り方埋土、褐灰色粘土・黒褐色粘土を多量に側入する。

第59図 29号墓平面図・断面図

いないが、掘り方の北壁寄りで梢円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には輪がほぼ円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は梢円形であり、規模は長径0.86m、短径0.67m、深さ0.54mである。痕跡の規模は長径0.60m、短径0.48m、深さ0.52mである。

人骨 人骨は出土していない。

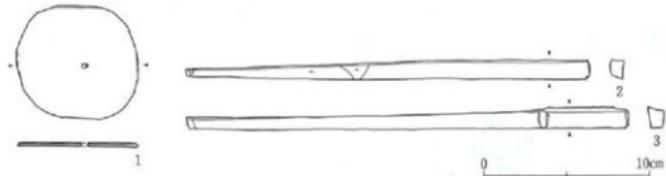
出土遺物(第58図) 掘り方埋土より提灯の底板1点、墨書(卍の変形)のある板片1枚が出土した。

29号墓

形態・規模(第59図) 本遺構では木棺自体は検出していないが、掘り方の中央部で正方形の痕跡を確認している。痕跡の底面には同様の底板が残存していたことから、墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸0.87m、短軸0.68m、深さ0.63mである。痕跡の規模は一边0.68m、深さ約0.60mである。

人骨 頭蓋骨片、上腕骨、脛骨体の破片が出土した。被葬者は成人で、男性的と鑑定された。

出土遺物(第60図) 掘り方埋土より箸状木製品2点、提灯の底板1枚が出土した。



第59図 29号墓出土遺物



第60図 31号墓出土遺物

31号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。後世の削平により、上面の大半が破損している。37・51・53・54・55・66・68号墓と重複し、それらよりも新しい。墓壙の平面形は不整形であり、規模は長軸1.28m、短軸1.25mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第61図) 墓壙底面より漆塗りの櫛1点が出土した。

33号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。後世の削平により、上面の大半が破損している。墓壙の平面形は方形であり、規模は長軸0.68m、短軸0.56m、深さ0.03mである

人骨 大腿骨、脛骨体片が出土した。保存状態は不良であったが、被葬者は成人男性と鑑定された。

出土遺物 なし。

37号墓

形態・規模(第32図) 後世の削平のため上面の大部分が破壊されている。31・53・54・59・62・66・70号墓と重複し、31・53・54号墓よりも古く、59・62・66・70号墓よりも新しい。木棺自体は検出していないが、掘り方の中央部で不整形な痕跡と多量の木片を発見している。しかし、痕跡の歪みが著しいため、墓の形態については明らかではない。掘り方の平面形は不整形であり、規模は長軸1.36m、短軸1.17m、深さ0.18mである。痕跡の規模は長軸1.04m、短軸0.74m、深さ0.2mである。

人骨 頭蓋骨・四肢骨が出土したが、保存状態は不良である。残存歯から頭蓋が3個体分からなることが判明し、主体となる人骨は壮年の女性と鑑定された。

出土遺物 木棺痕跡より銭貨9枚(古寛永銭3、文銭2、新寛永銭4)と数珠玉17点が出土した。これらは痕跡底面および人骨の下に散在していた。

42号墓

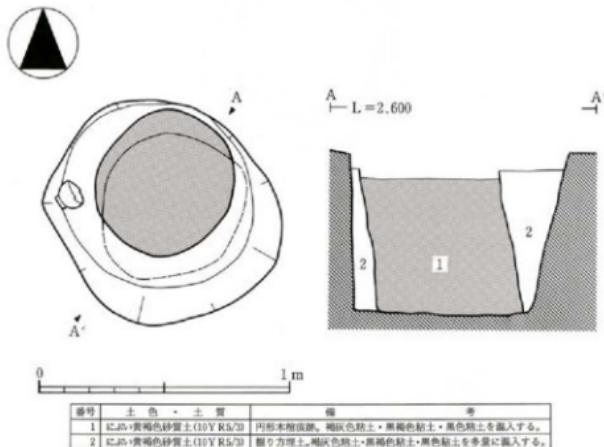
形態・規模(第62図) 51号墓と重複しそれよりも新しい墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方のほぼ中央部で円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には箒が円形に残存していることから、墓の形態は円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は梢円形であり、規模は長径0.94m、短径0.81m、深さ0.70mである。痕跡の規模は、口径0.64m、底径0.62m、深さ0.64mである。

人骨 頸椎、胸椎等が出土した。保存状態は不良であり、被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。
出土遺物(第63図) 掘り方から漆器椀1点が出土した。西壁側から、内面を木棺側に向かって出土している。

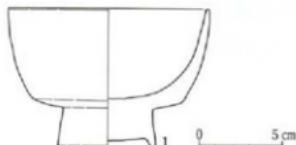
43号墓

形態・規模(第32図) 27・47・50・58号墓と重複し、27号墓よりも古く、47・49・50・58号墓よりも新しい墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方の北壁寄りで梢円形の痕跡を確認している。しかし土圧のためか痕跡内部の形状も著しく歪んでおり、墓の形態については明らかでない。掘り方の平面形は梢円形であり、長径1.08m、短径0.95m、深さ0.56mである。痕跡の規模は長径0.90m、短径0.60m、深さ0.56mである。

人骨 寽骨が出土したが保存状態は非常に悪く、年齢・性別は不明である。



第62図 42号墓平面図・断面図



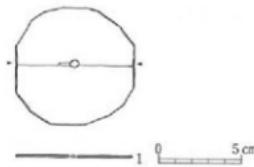
番号	遺物名	出土樹位	計測値	備考	登錄番号
1	漆器椀	掘り方裏面	口径12.2、底径5.5、深さ8.4	漆器外表面、裏面の外縁部 は赤褐色、口縁部・舟台部 は黒褐色、裏面は赤褐色 で「全」字有り、B1=漆	K-116
2					

第63図 42号墓出土遺物

出土遺物(第64図) 木棺痕跡の底面より銭貨4枚(文銭1、新寛永銭3)、掘り方より提灯底板の破片が出土した。

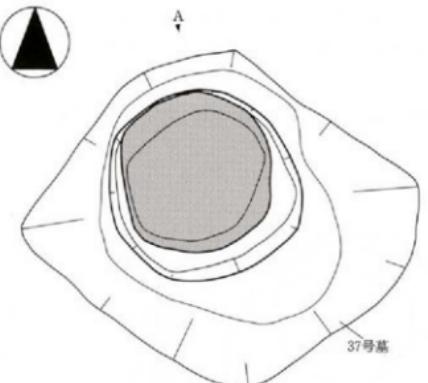
46号墓

形態・規模(第65図) 37号墓と重複し、それよりも古い墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方の北壁寄りで円形の痕跡を確認している。痕跡の底面には瘤が円形に残存していることから、墓の形態は

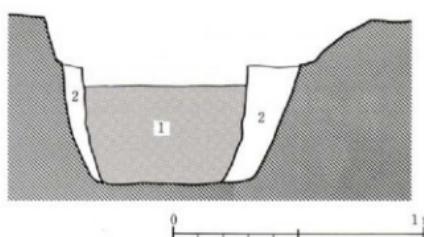


番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	提灯底板	墓壁埋土	長軸7.1、短軸7.0、孔径0.5、厚さ0.15	B類か	R-122

第64図 43号墓出土遺物



A
A'-L=2.600
A'
A'



番号	土色・土質	備考
1	明黄褐色砂質土(DY R7/6)	円形木棺痕跡。暗灰色粘土・黒褐色粘土・暗緑灰色粘土を混入する。
2	にじみ黄褐色砂質土(DY R5/3)	掘り方埋土。暗灰色粘土・黒褐色粘土・灰色粘土を多量に混入する。

第65図 46号墓平面図・断面図

円形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は円形であり、規模は直径約0.76m、深さ0.45mである。木棺は掘り方の北側でその痕跡を発見した。痕跡の規模は口径0.64m、底径0.58m、深さ0.45mである。

人骨 四肢骨と遊離歯1本が出土した。保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物 本棺痕跡底面より銭貨5枚(渡米銭1、古寛永銭1、文銭2、新寛永銭1)、数珠玉7点が出土した。

47号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。43・50号墓と重複し、前者よりも古く、後者よりも新しい。墓壇の平面形は方形であり、規模は長辺0.80m、短辺0.76m、深さ0.30mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第66図) 墓壇埋土より煙管の吸口1点が出土した。

50号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。43・47号墓と重複し、それらよりも古い。墓壇の平面形は方形であり、規模は長軸1.00m以上、短軸0.90m、深さ0.30mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第67図) 墓壇埋土より提灯底板1点が出土した。

51号墓

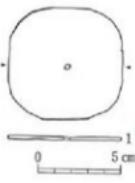
形態・規模(第32図) 後世の削平により大半が破損している。27・31・42・55・65号墓と重複し、27・31・42・55号墓よりも古く、65号墓よりも新しい。木棺自体は検出していないが、掘り方の南壁寄りで正方形の痕跡を発見していることから、墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は不整形であり、規模は長軸1.30m、短軸1.08m、深さ0.15mである。痕跡の規模は長軸0.60m、短軸0.58m、深さ0.18mである。

人骨 遊離歯、四肢骨片が出土したが、保存状態は非常に悪い。被葬者は成人で男性的と鑑定された。



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	煙管吸口	墓壇埋土	長さ6.2、羅字接合部径1.6、吸口径0.4	羅字接合部に0.5~1.0mm程の隙あ	R-18

第66図 47号墓出土遺物



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	提灯底板	墓壇埋土	長軸6.9、短軸6.7、孔径0.3、厚30.2	C類	R-127

第67図 50号墓出土遺物

出土遺物(第68図) 木棺痕跡より銭貨1枚(古寛永銭)、煙管吸口1点、掘り方より棒状木製品が出土した。このうち銭貨は北東側の底面から、煙管は北西側の底面からそれぞれ出土している。

53号墓

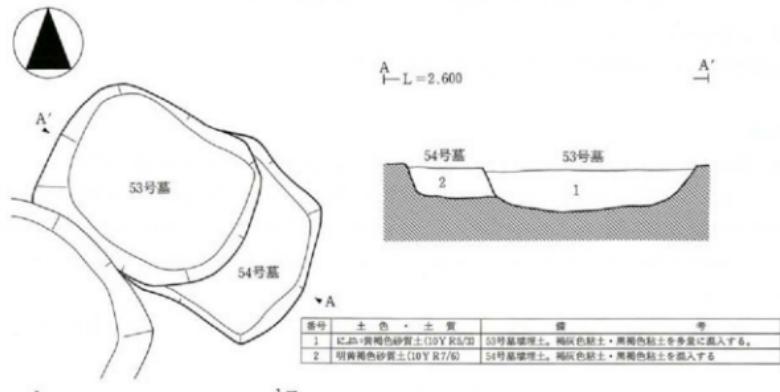
形態・規模(第69図) 墓の形態は直葬墓である。12・31・37・54・62号墓と重複し、12・31号墓よりも古く、37・54・62号墓よりも新しい。墓壙の平面形は方形であり、規模は長軸0.85m、短軸0.58m、深さ0.20mである。

人骨 人骨は出土していない。

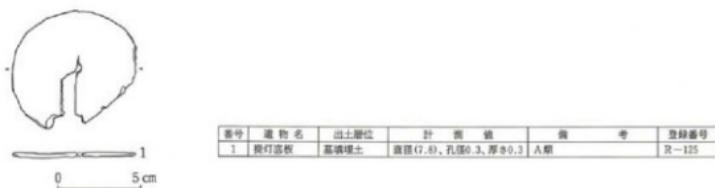
出土遺物(第70図) 墓壙埋土より提灯底板1点が出土した。

番号	遺物名	出土層位	計面積	備考	登録番号
1	煙管吸口	墓壙埋土	長さ5.5、羅字聯合部径1.0、吸口径0.5		R-19
2	棒状木製品	墓壙埋土	長さ16.2、最大径1.0		R-158

第68図 51号墓出土遺物



第69図 53・54号墓平面図・断面図



第70図 53号墓出土遺物

54号墓

形態・規模(第69図) 墓の形態は直葬墓である。12・31・53・55・62・68号墓と重複し、12・31・53号墓よりも古く、55・68号墓よりも新しい。53号墓によって大半が壊されているが、残存状況から判断すると墓壙の平面形は方形と考えられる。残存する規模は長軸0.68m、短軸0.60m、深さ0.16mである。

人骨 四肢骨片が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物(第71図) 墓壙埋土より陶器丸碗1点、陶器小皿1点が出土した。陶器丸碗については底面付近に細かい破片で散在していたが、これらはすべて接合することができた。

55号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。31・51・54・68号墓と重複し、31・54号墓よりも古く、51・68号墓よりも新しい。墓壙の平面形は不整形であり、規模は長軸0.61m、短軸0.24m、深さ0.25mである。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第72図) 墓壙底面から陶器灯明皿1点、埋土から提灯底板の破片が出土した。

56号墓

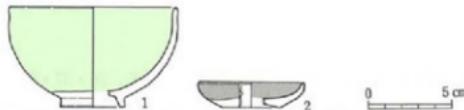
形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。35・61・65号墓と重複し、35よりも古く、61・65よりも新しい。墓壙の平面形は楕円形であり、規模は長径1.10m、短径0.84m、深さ0.47mである。

人骨 遊離歯、頭蓋、四肢骨片が出土したが、保存状態は悪い。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物(第73図) 墓壙埋土より錢貨4枚(新寛永銭)、煙管1組、提灯の底板2点、数珠玉44点が出土した。このうち、数珠玉については墓壙南側の埋土を20cmほど掘り下げた部分からまとまって出土している。

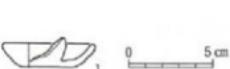
57号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。28・40・41・60・61号墓と重複し、28・40・41号墓よりも古く、60・61号墓よりも新しい。28・41号墓にその大半を破壊されているため、詳細については不明である。



番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	陶器丸碗	墓壙埋土	口径10.1、底径3.8、高さ6.0	全体全面に灰い緑色釉、萬古御高胎、圓戸・萬鏡系、16C	R-15
2	陶器皿	墓壙埋土	口径(6.4)、底径(3.4)、高さ1.6	全体に褐色釉、大胡相馬系、19C	R-10

第71図 54号墓出土遺物



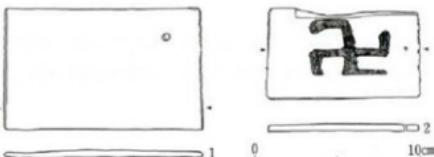
番号	遺物名	出土層位	計測値	備考	登録番号
1	陶器灯明皿	墓壙埋土	口径5.6、底径2.8、高さ1.5	全面に透明釉、底部回転布切り後ナメ 内面の中央部に香呑の灯芯受け有り、提系、19C	R-2

第72図 55号墓出土遺物



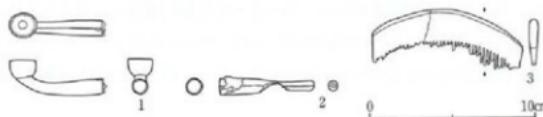
番号	遺物名	出土場所	計 測 値	類 型	備 考	登録番号
1	骨管吸音	墓壙埋土	長さ5.2、火焔径1.6、羅字接合部径1.0	S類		R-20(A)
2	骨管吸口	墓壙埋土	長さ6.3、羅字接合部径1.6、吸口徑0.5			R-20(B)
3	骨打音板	墓壙埋土	長さ7.6、幅6.6、孔径0.4、厚さ0.3	C類		R-139
4	骨打音板	墓壙埋土	直径7.4、孔径0.3、厚さ0.3	A類		R-138

第73図 56号墓出土遺物



番号	遺物名	出土場所	計 測 値	類 型	備 考	登録番号
1	板状木製品	墓壙埋土	長辺12.0、短辺7.8、厚さ0.3~0.5			R-179
2	板状木製品	墓壙埋土	長辺29.3、短辺25.5、厚さ0.4	墨書き(凸)あり		R-150

第74図 57号墓出土遺物



番号	遺物名	出土場所	計 測 値	類 型	備 考	登録番号
1	骨管吸音	木棺内部	長さ5.2、火焔径1.6、羅字接合部径0.9	S類		R-21(A)
2	骨管吸口	木棺内部	長さ5.8、羅字接合部径0.9、吸口径0.6			R-21(B)
3	櫛	木棺内部	長さ9.1、高さ(A)3.6、高さ(B)1.3、厚さ0.4、齒数34、齒距/1cm 7.48	A類		R-159

第75図 59号墓出土遺物

人骨 遊離歯、四肢骨片が出土したが、保存状態は非常に悪い。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物(第74図) 墓壙埋土より墨書き(凸)のある板片1点が出土した。

59号墓

形態・規模(第32図) 後世の削平により、上面の大半が破損している。26・37・63号墓と重複し、26・37号墓よりも古く、63号墓よりも新しい。木棺自体は検出していないが、掘り方の中央部で長方形の痕跡を確認していることから、墓の形態は長方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は長方形であり、規模は長軸0.84m以上、短軸0.72m、深さ0.12mである。痕跡の規模は長軸0.70m、短軸0.51m、深さ0.12mである。

人骨 四肢骨片が出土した。保存状態は非常に悪く、被葬者の年齢・性別は不明である。

出土遺物(第75図) 棺内部より煙管1組、櫛1点が出土した。煙管は痕跡中央部の底面から出土しており、櫛は北東壁の底面から出土している。

60号墓

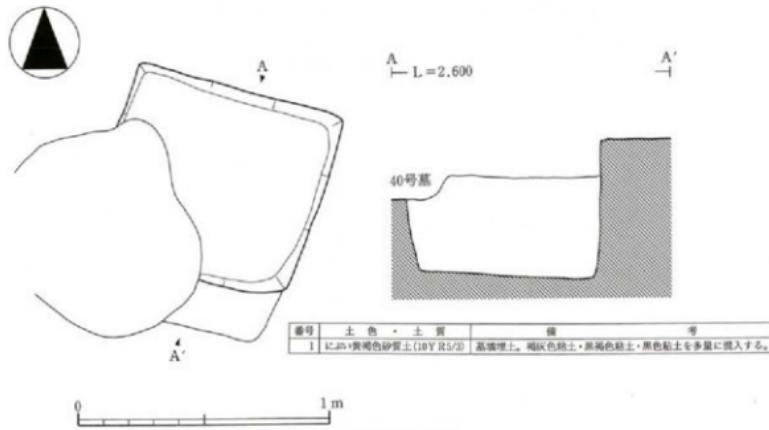
形態・規模(第76図) 墓の形態は直葬墓である。24・28・40・57・61・69号墓と重複し、24・28・40・57号墓よりも古く、61・69号墓よりも新しい。墓壙の平面形は方形であり、規模は長軸0.82m、短軸0.78m、深さ0.58mである。

人骨 遊離歯、四肢骨片が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

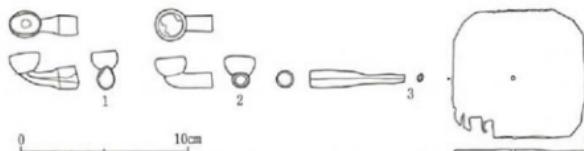
出土遺物(第77図) 墓壙底面から銭貨26枚(渡米銭2、古寛永銭5、文銭4、新寛永銭14)、埋土上半部から煙管1組(雁首のみ2点)、提灯底板2点が出土した。このうち、銭貨については墓壙北西部からまとまって出土している。

61号墓

形態・規模(第78図) 28・35・41・56・57・60号墓と重複し、それらよりも古い墓である。本造構では木棺自体は検出していないが、掘り方の南壁寄りで方形の痕跡を確認している。底面にも方形木棺の底板と

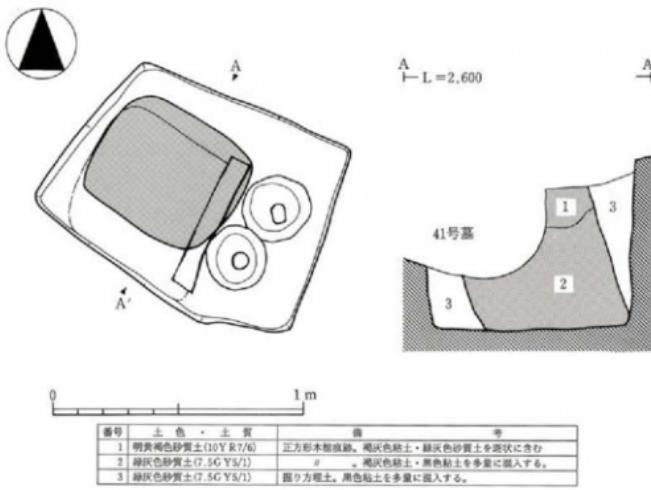


第76図 60号墓平面図・断面図

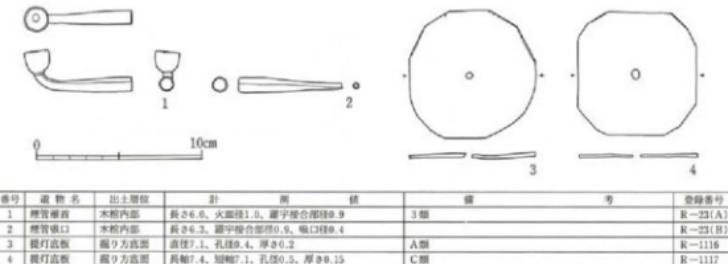


番号	遺物名	出土部位	計	測	備	参考	登録番号
1	煙管雁首	墓壙底面	長さ3.9、火鉢径1.8、雁字接合部径1.3		2個		R-27
2	煙管雁首	墓壙底面	長さ2.9、火鉢径1.9、雁字接合部径0.9		5個		R-722
3	煙管吸口	墓壙底面	長さ5.1、雁字接合部径1、吸口径0.4				R-722 (B)
4	提灯底板	墓壙底面	長幅7.9、短幅7.5、孔径0.2、厚さ0.15~0		C類		R-160

第77図 60号墓出土遺物



第78図 61号墓平面図・断面図



第79図 61号墓出土遺物

思われる板材が一部残存していたことから、墓の形態は方形木棺(正方形?)墓であると考えられる。掘り方の平面形は方形であり、規模は長軸1.16m、短軸0.88m、深さ0.68mである。痕跡の規模は長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.56mである。

人骨 遊離歯、手・足根骨、指骨、四肢骨片が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物(第79図) 棺内部より銭貨18枚(新寛永錢)、煙管1組、数珠玉1点、掘り方より提灯2点が出土した。このうち、銭貨、煙管については、いずれも底面付近から出土している。提灯は掘り方北壁側の底面から2点並んで出土しており、ともに底板と枠が良好な状態で残存していた。

62号墓

形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。12・37・53号墓と重複し、これらよりも古い。墓壙の大半を12・37・54号墓に破壊されているため、規模についての詳細は不明である。

人骨 人骨は出土していない。

出土遺物(第80図) 墓壙埋土より銭貨4枚(古寛永銭1、新寛永銭2、不明1)、煙管雁首1点が出土している。

65号墓

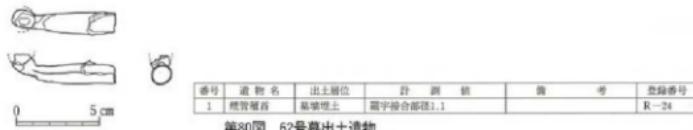
形態・規模(第32図) 墓の形態は直葬墓である。27・51・56と重複し、それらよりも古い。墓壙の平面形は方形であり、規模は長軸0.76m、短軸0.64m、深さ0.46mである。

人骨 上顎骨、頸椎等が出土したが、保存状態は不良である。被葬者は熟年と鑑定されたが、性別は不明である。

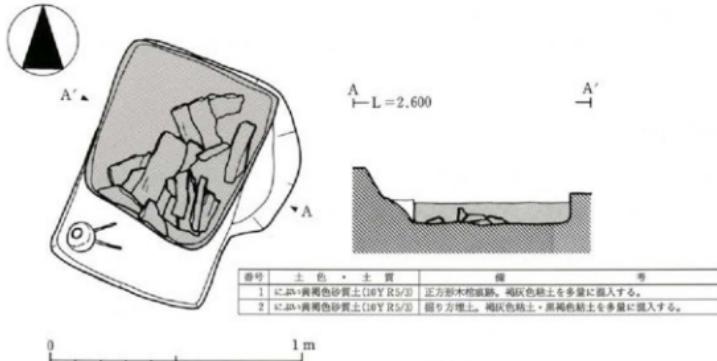
出土遺物 墓壙埋土銭貨3枚(古寛永銭)、数珠玉16点が出土した。

66号墓

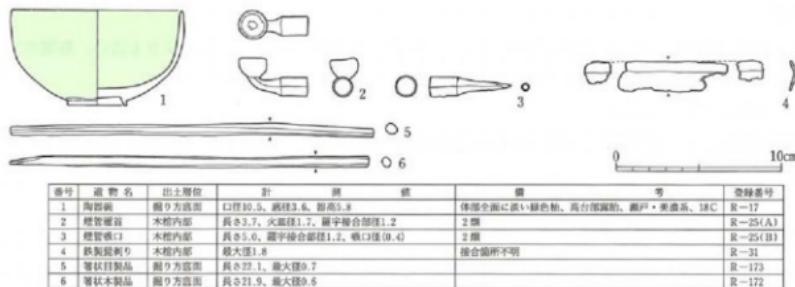
形態・規模(第81図) 31・37号墓と重複し、それらよりも古い墓である。木棺自体は検出していないが、掘り方の北壁ではほぼ正方形の痕跡と、その内部から多数の木片を発見している。木片は粉々に碎けており復元することは出来なかったが、痕跡の形状からみて墓の形態は正方形木棺墓であると考えられる。掘り方の平面形は長方形であるが、北東部がやや外側に膨らんでいる。規模は長辺0.97m、短辺0.64m、深さ0.21mである。痕跡の規模は長辺0.73m、短辺0.60m、深さ0.21mである。



第80図 62号墓出土遺物



第81図 66号墓平面図・断面図



第82図 55号墓出土遺物

人骨 遊離歯、頸椎骨、指骨、楔状骨、中足骨、その他骨細片が多数出土した。保存状態は不良である。被葬者は成人と鑑定されたが性別は不明である。

出土遺物(第82図) 棺内部より銭貨4枚(古寛永銭1、新寛永銭3)、煙管1組、剃刀1点、数珠玉47点、掘り方より陶器丸椀1点、箸箸状不整品2点が出土した。このうち、銭貨、煙管、剃刀、数珠玉については、痕跡底面に散乱する木棺の破片と重なりあって出土している。陶器丸椀は掘り方南西隅の底面から倒位の状態で出土しており、その下からは箸状木製品2本が鋭角に交わるような状態で出土している。

IV 墓の形態と遺物の分類

1 墓の形態

今回の調査で発見した墓はすべて土葬墓であり、埋葬施設の違いから以下のように分類できる。

- 1 円形木棺墓：早桶を棺として使用した墓。
- 2 方形木棺墓：腰箱を棺として使用した墓。正方形木棺墓と長方形木棺墓に細分できる。
- 3 直葬墓：木棺を伴わない墓。

これらの内訳は、円形木棺墓—21基、正方形木棺墓—15、長方形木棺墓—3、直葬墓—29、形態不明のもの—2基である。

2 遺物の分類

今回の調査で出土した遺物には銭貨、煙管、和鏡、火打鉄、剃刀、金具、磁器、陶器、かわらけ、漆器椀・蓋・鏡入れ、櫛、提灯底板、数珠玉、膳、竜形木製品、ヘラ状木製品、箸状木製品等がある。このうち銭貨、煙管、漆器椀、櫛、提灯底板については、以下のように分類できる。

1) 銭貨

36基の墓から合計685枚の銭貨が出土した。銭貨の種類別では渡来銭が14枚、本邦銭が667枚、鎌の付着が著しく判断できなかったものが4枚である。

渡来銭 輸入銭を総称して渡来銭とする。渡来銭については国内で鋳造された模鋳銭(私鋳銭)との判

別についても検討する必要がある。しかし両者を厳密に区分することが困難であることや、今回出土した渡来銭（模鋳銭・私鋳銭も含む）には例外なく寛永通宝が共存していることから、本書ではすべて渡来銭として扱うこととする。

出土した渡来銭には、祥符元宝〔1014初鋳〕・天禧通宝〔1017初鋳〕・景祐元宝〔1034初鋳〕・嘉祐通宝〔1056初鋳〕・熙寧元宝〔1068初鋳〕・元豐通宝〔1078初鋳〕・元祐通宝〔1086初鋳〕・紹聖元宝〔1094初鋳〕・政和通宝〔1111初鋳〕（以上北宋銭）、永樂通宝〔1408初鋳〕（明銭）、康熙通宝〔1661初鋳〕（清銭）がある。

本邦銭 国内で鋳造された銭貨であり、今回の調査で確認したものは全て寛永通宝である。寛永通宝の分類及び鋳造銭座については早くから泉貨学の分野で調査・研究が行われており、文字の書体や材質等の違いから千数百種類にも細分されるといわれている。しかし近世遺構の調査例が増加するに伴い、年代的に泉貨学の成果と矛盾する出土状況を示すものも確認されている。したがって、今回出土した寛永通宝については、初鋳年代がほぼ確定しているa)古寛永銭、b)文銭、c)新寛永銭の大分類を基本に選別を行ない、泉貨学の提示する細分類については、これまでの考古学的な調査成果と比較しながら、考古資料として活用可能とされているものに限って選別を行なった。^②

a)古寛永銭 1638(寛永13)年～1659(万治2)年頃まで鋳造された、いわゆる「ス宝銭」を称する。合計285枚が出土しており、出土した銭貨中最多を占める。

b)文銭 1668(寛文8)年～1683(明和3)年に武蔵国江戸亀戸で鋳造された、背に「文」字を配する「ハ宝銭」を称する。今回の調査では合計142枚出土している。

c)新寛永銭 1697(元禄10)年～1781(天明元)年まで鋳造された「ハ宝銭」である。今回の調査では合計241枚が出土している。細分類の可能な新寛永銭では、1741(寛保元)～1745(延享2)年鋳造の下野国足尾銭が最も新しいものである。^③

2) 煙管

計21基の墓から雁首17点、吸口20点が出土した。

煙管の分類については、すでに古泉弘氏によって各部の形態の違いから6段階に区分されており（古泉・1985）、最近では小川望氏が東京大学本郷構内遺跡医学部付属病院地点および御殿下記念館地点出土の資料をもとに再考を行なっている（小川・1992）。それらの分類に従うと、今回出土した煙管は以下のように分類できる。

2類：首部に肩が付くものである。火皿と首部の間に補強帯が巡るものと巡らないものがある。今回出土したものはすべて後者である。

3類：脂返しが湾曲し、補強帯が巡るもの。肩は付かない

4類：脂返しは湾曲するが、補強帯が巡らないもの。肩は付かない

5類：脂返しの湾曲が少なく、補強帯が巡らないもの。肩は付かない

各分類ごとの出土数は2類—5点、3類—4点、4類—2点、5類—7点、その他—6点である。

② 東京都港区増上寺子院群の発掘調査では、宝永の火山灰（1707年降下）に覆われる江戸初期の墓跡を多数検出している。しかし、墓壇内からは銭貨学の分類で1708年鋳造をしている「江戸亀戸銭（四ツ宝銭）」や1738年鋳造とされる「出羽秋田銭」が含まれていた。

③ 古寛永銭の細分については発掘調査で銭座及び铸造銭が明らかにされている長門赤村銭、備前岡山銭をその対象とし、それ以外のものについては古寛永とのみ記載した。一方、新寛永銭の細分については考古資料として活用可能とされている小川吉儀編『新寛永銭鑑識と手引き』（1966）を基に、墓の年代が限定化されている増上寺子院群の成果や、兵庫県穴粟郡山崎町教育委員会編『山崎町の中世・近世銭貨』一中世大量供奉銭と近世銭貨の調査報告（1994）などを比較しながら区分した。

3) 漆器椀

11基の墓から18点の漆器椀が出土した。形態および漆の色調の違いから、以下のように分類できる。

A類：体部下半が内外面ともに曲線的なもの。

 A I類—内外面赤色(系)漆を施したもの

 A II類—内面赤色(系)漆、外面黒色(系)漆を施したもの。

B類：体部下半外面に縹があるもの。

 B I類—内外面赤色(系)漆を施したもの。

これらは器高差から、さらにa(器高8cm以上)、b(器高4~8cm)、c(器高4cm以下)に細分できる。

各分類ごとの出土数はA I類—4点、A II類—3点、B I類—11点である。

なお、今回出土した漆器椀にはいずれも文様が記されている。その位置や形態を見ると、A I・B I類では高台内面に徳利を記号化したものや文字を記すものが多いのに対して、A II類では体部外面に植物紋をあしらった紋章的なものが3カ所に記されている。

4) 檄

15基の墓から26点の櫛が出土した。親歯の付け根を基準としたときの背の高さ(A)と肩の高さ(B)の比率から、次のように分類できる。

A類 背部分が大きく湾曲するもの(AとBの比率が50%以上のもの)。

B類 背部分が僅かに湾曲するもの(AとBの比率が20~50%内のもの)。

C類 背部分が直線的なもの(AとBの比率が0~20%内のもの)。

各分類ごとの出土数A類—15点、B類—8点、C類—4点である。

なお、これらは歯数の多いものと少ないものとに区分できる可能性もあるが、分類する上で明確な基準を示すことができなかつたため、今回は1cmあたりの歯数を提示するにとどめた。

5) 提灯底板

23基の墓から計51点が出土した。形態の違いから、次のように分類できる。

A類：円形のもの。

B類：円形の両側端を切り落としたもの。

C類：方形のもの。

各分類ごとの出土数はA類—25点、B類—13点、C類—13点である。

V 考 察

今回の調査で発見した遺構には近世墓70基とそれ以前の水田跡がある。近世以前の水田跡については詳細が明らかでないため、以下近世墓群についてのみ検討を加える。

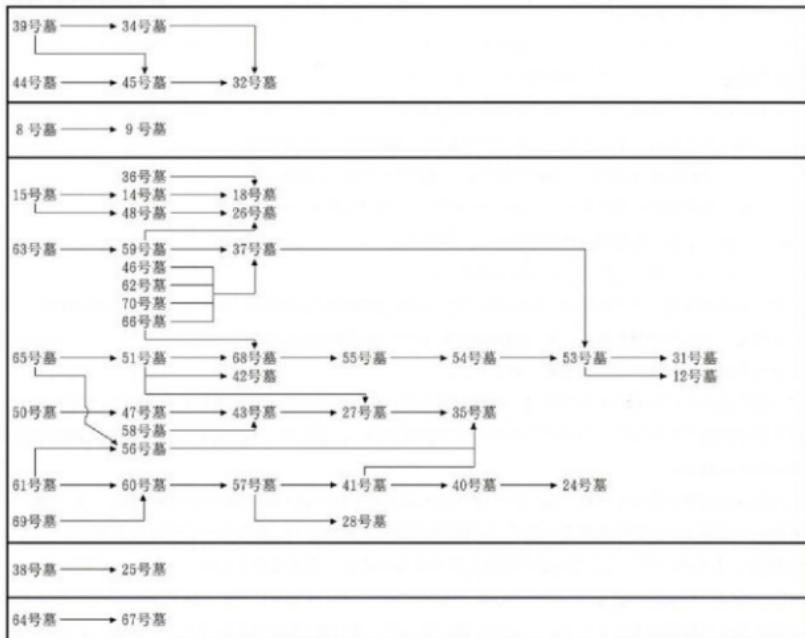
1 墓の年代と時期区分

ここでは、発見した遺構の新旧関係と年代および時期区分について検討した後で、各時期の概要と墓域の変遷についてまとめてみたい。

1) 遺構の新旧関係

今回発見した近世墓では、47基の墓に重複関係が認められ、表1のような新旧関係を確認することができた。

表1 遺構の新旧関係



2) 遺構の年代と時期区分

今回の調査では、発見した墓の半数以上から多量の銭貨が出土している。したがって、ここでは銭貨の組み合わせをもとに各遺構を区分し、表1に示した新旧関係をふまえながら遺構の年代について検討してみる。年代決定に際しては、銭貨の組み合わせの中に必ず寛永通宝が共伴していることから、古寛永銭、文銭、新寛永銭の大分類による区分と、その鋳造年代をもとに行なうこととする。

新旧関係が明らかな墓のうち、銭貨が出土しているものには9・14・15・18・27・32・36・37・39・43・44・45・46・51・56・60・61・62・65・66号墓がある。これらは銭貨の組み合わせより、以下のように区分できる。

A：古寛永銭のみが出土する墓—51・65号墓

B：古寛永銭と文銭が共伴する墓—39・44

C：新寛永銭が共伴する墓—9・14・15・18・27・32・36・37・43・46・56・60・61・62・66号墓
また、これらの新旧関係を比較すると、判明しているものでは以下のようになる。

15号墓(C)→14号墓(C)→18号墓(C)

46・62・66号墓(C)→37号墓(C)

36号墓(C)→18号墓(C)

39号墓(B)→34号墓→32号墓(C)

39号墓(B)→45号墓(C)

44号墓(B)→45号墓(C)→32号墓(C)

43号墓(C)→27号墓(C)

65号墓(A)→51号墓(A)→27号墓(C)

65号墓(A)→56号墓(C)

61号墓(C)→56・60号墓(C)

これをみると、AはCよりも古く、BもCよりも古いことが明らかである。A・Bに関しては、遺構の重複関係を確認していないため、新旧関係については明らかではない。

A・B・Cの上限年代については、銭貨の鋳造年代より、次のような年代が与えられる

A—古寛永銭の鋳造年代より1636(寛永13)～1659(万治2)年以降

B—文銭の鋳造年代より1668(寛文8)～1683(天和2)年以降

C—新寛永銭の鋳造年代より1697(元禄10)～1781(元明1)年以降

このことは、上記した遺構の新旧関係とも一致する。

次に、これらの下限年代についてふれてみたい。

まず、Aの組み合わせである51・65号墓については、枚数的には非常に少ないものの、古寛永銭のみが出土するという点を重視すれば、Bの組み合わせよりも古い墓である可能性が考えられる。したがって、ここでは文銭鋳造以前の年代を考えておきたい。

Bの組み合わせである39・44号墓は、銭貨の組み合わせに新寛永銭を全く共伴しない点を考慮すると、新寛永銭が鋳造される1697年以前のものである可能性が高い。したがって、ここでは新寛永銭鋳造以前の年代が与えられる。

Cの組み合わせである9・14・15・18・27・32・36・37・43・46・56・60・62・66号墓については、新寛永銭の細分類で得た鋳造年代をみると、18世紀後半以降に鋳造された銭貨が全く出土していない(銭貨拓本図参照)。したがって、ここでは19世紀代には下らないものと考えておきたい。

一方、遺構に重複関係はないものの、1・2・3・4・5・7・10・11・13・16・17・19・20・21・22・23号墓からも銭貨が出土している。上記の区分に従うと、A)古寛永銭のみが出土するもの—5号墓、B)古寛永銭と文銭が共伴するもの—1・3・4・7・20・21号墓、C)新寛永銭を共伴するもの—2・10・11・13・16・17・19・22・23号墓とに区分することができ(表3)、年代についてもそれらと同時期のものと考えられる。

8・12・24・26・28・31・34・40・41・47・48・50・53・54・55・57・58・59・63・68・69・70号墓については、いずれもCとの重複関係は確認しているものの、銭貨が全く出土していない。そのため、ここではCよりも古い8・34・47・50・58・59・63・69・70号墓と、それよりも新しい12・24・26・28・31・35・40・41・48・53・54・55・57・68号墓とに区分し、以下これらの年代について検討してみたい。

まず、重複関係で32号墓(C)よりも古い34号墓は、39号墓(B)とも重複関係があり、これよりも新しいことを確認している。したがって、34号墓の年代は17世紀末～18世紀後半頃と考えられる。

同じく37号墓(C)よりも古い59号墓からは、煙管5種類が出土している。最近の煙管の編年案に当てはめると、17世紀末以降の年代が与えられているものと類似している。したがって、59号墓については17世紀末以降という年代が推測でき、Cに近い年代と考えられる。

一方、Cよりも新しい墓では、24・54・55号墓から陶磁器類が出土している。それらの中には、生産年

表2 新旧関係が明らかな墓の銭貨の組み合わせ

遺構	出土した銭貨	上限年代
9号墓	古寛永銭21枚、文銭5枚、新寛永銭11枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
14号墓	渡来銭2枚、古寛永銭68枚、文銭29枚、新寛永銭37枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
15号墓	渡来銭1枚、古寛永銭7枚、文銭2枚、新寛永銭2枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
18号墓	渡来銭1枚、古寛永銭25枚、文銭14枚、新寛永銭17枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
27号墓	新寛永銭1枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
32号墓	古寛永銭2枚、新寛永銭4枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
36号墓	渡来銭3枚、古寛永銭44枚、文銭25枚、新寛永銭31枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
37号墓	古寛永銭3枚、文銭2枚、新寛永銭9枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
39号墓	古寛永銭2枚、文銭1枚	文銭の鋳造年代から、1668(寛文8年)以降
43号墓	文銭1枚、新寛永銭3枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
44号墓	古寛永銭4枚、文銭8枚	文銭の鋳造年代から、1668(寛文8年)以降
45号墓	古寛永銭11枚、文銭7枚、新寛永銭12枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
46号墓	渡来銭1枚、古寛永銭1枚、文銭2枚、新寛永銭1枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
51号墓	古寛永銭1枚	古寛永銭の鋳造年代から1636(寛永13年)以降
56号墓	新寛永銭4枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
60号墓	渡来銭2枚、古寛永銭5枚、文銭4枚、新寛永銭15枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
61号墓	新寛永銭18枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
62号墓	古寛永銭1枚、新寛永銭3枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
65号墓	古寛永銭3枚	古寛永銭の鋳造年代から、1636(寛永13年)以降
66号墓	古寛永銭1枚、新寛永銭3枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降

表3 新旧関係がない墓の銭貨の組み合わせ

遺構	出土した銭貨	上限年代
1号墓	渡来銭3枚、古寛永銭18枚、文銭10枚	文銭の鋳造年代より1688(寛文8年)以降
2号墓	古寛永銭27枚、文銭8枚、新寛永銭8枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
3号墓	古寛永銭1枚、文銭5枚	文銭の鋳造年代より1688(寛文8年)以降
4号墓	古寛永銭4枚、文銭4枚	文銭の鋳造年代より1668(寛文8年)以降
5号墓	古寛永銭1枚	古寛永銭の鋳造年代から、1636(寛永13年)以降
7号墓	文銭1枚	文銭の鋳造年代より1668(寛文8年)以降
10号墓	古寛永銭2枚、文銭2枚、新寛永銭2枚	新寛永銭の鋳造年代から1697(元禄10年)以降
11号墓	古寛永銭3枚、新寛永銭3枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
13号墓	古寛永銭1枚、新寛永銭2枚、不明3枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
16号墓	古寛永銭2枚、文銭3枚、新寛永銭21枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
17号墓	古寛永銭2枚、文銭2枚、新寛永銭1枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
19号墓	古寛永銭4枚、文銭1枚、新寛永銭4枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
20号墓	古寛永銭5枚、文銭1枚	文銭の鋳造年代より1668(寛文8年)以降
21号墓	古寛永銭5枚、文銭1枚	文銭の鋳造年代より1668(寛文8年)以降
22号墓	古寛永銭10枚、文銭5枚、新寛永銭26枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降
23号墓	古寛永銭2枚、新寛永銭7枚	新寛永銭の鋳造年代から、1697(元禄10年)以降

代が19世紀代とされているものが含まれることから、24・54・55号墓はそれ以降の年代と考えられる。重複関係で54・55号墓よりも新しい12・53号墓についても同様である。

28・35・40・41・57号墓については、下野足尾銭(1741～1745鋳造)が出土した60号墓(C)と重複し、それよりも新しい墓であることから、年代については18世紀中頃のものと思われる。

なお、新旧関係でCよりも新しい墓については、すべて調査区南東部に集中しているという特徴があげられる。銭貨が1枚も出土していないこととも合わせて考慮すると、Cとは異なったグループである可能性が高い。したがって、新旧関係でCより新しく、しかも南東部に密集する墓については、それ以降のものとして一連と考えておきたい。

6・25・29・30・33・38・49・64・67号墓については、銭貨が出土した遺構との重複関係がなく、さらに年代を推測できる遺物も全く出土していない。試掘トレーンチ設定時に破損した49号墓については、その周辺から古寛永銭2枚を表探しているものの、サンプリングエラーの可能性も大きく、年代を求めるには限界がある。それ以外のものについても具体的な年代については明らかでない。

以上、各墓の年代を検討してきたが、これらをまとめると本遺跡で発見した近世墓については次のA～D期の時期区分が可能である。

A期：1636(寛永13)～1668(寛文8)年頃の遺構—5・51・65号墓

B期：1668(寛文8)～1697(元禄10)年頃の遺構—1・3・4・7・20・21・39・44号墓

C期：1697(元禄10)年～18世紀後半頃の遺構—2・9・10・11・13・14・15・16・17・18・19・22・
23・27・32・36・37・43・45・46・56・59・60・61・
62・66号墓

D期：C期(18世紀後半)以降の遺構—12・24・28・31・40・41・53・54・55・57・68号墓

3) 各時期の概要

【A期】(第86図・表5)

5・51・65号墓が相当する。

墓の形態は5号墓が円形木棺墓、51号墓が正方形木棺墓、65号墓が直葬墓である。

墓の分布状況についてみると、調査区西側に1基、東側に2基と調査区の東西にやや離れて配置されている。

銭貨以外の遺物は少なく、51号墓から煙管吸口、65号墓から数珠玉が出土するのみである。

【B期】(第87図・表6)

1・3・4・7・20・21・39・44号墓が相当する。

墓の形態は、1・3・4・7・20・44号墓が円形木棺墓、21・39号墓が長方形木棺墓である。

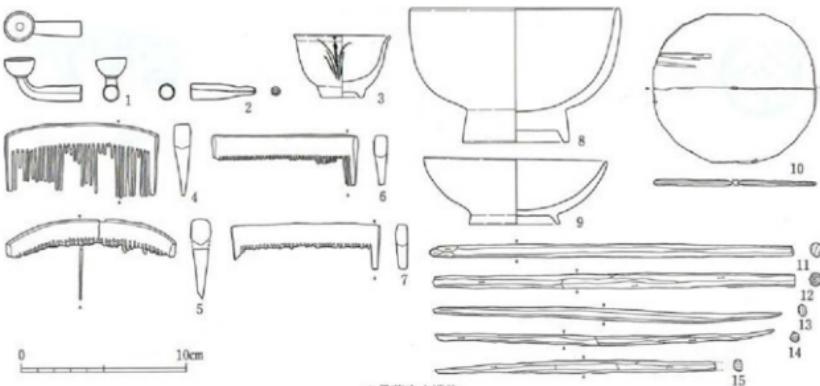
墓の分布状況についてみると、調査区西側に集中して配置されている。

銭貨以外の遺物には和鏡、煙管2・3・4類、染付磁器小杯、漆器椀A I・A II類、櫛A・B・C類、提灯底板A・B類、数珠玉、竜形木製品、ヘラ状木製品、箸状木製品などがある(第83図)。

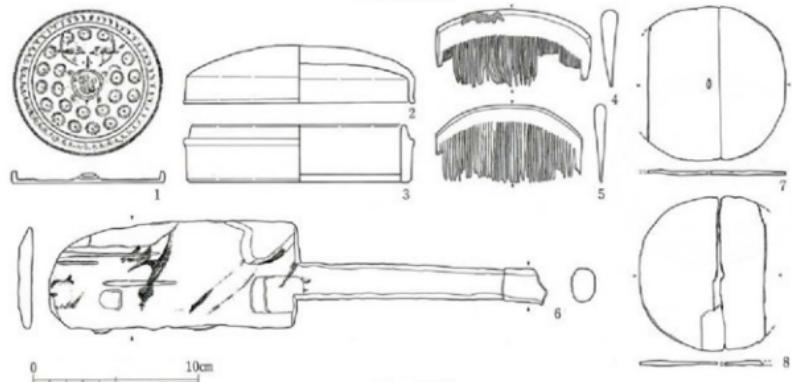
【C期】(第88図・表7)

2・9・10・11・13・14・15・16・17・18・19・22・23・27・32・36・37・43・45・46・56・59・60・
61・62・66号墓が相当する。

墓の形態は、2・9・10・11・14・36・45・46号墓が円形木棺墓、15・16・17・18・19・22・23・61・



1号墓出土遺物



4号墓出土遺物

第83図 B期出土遺物

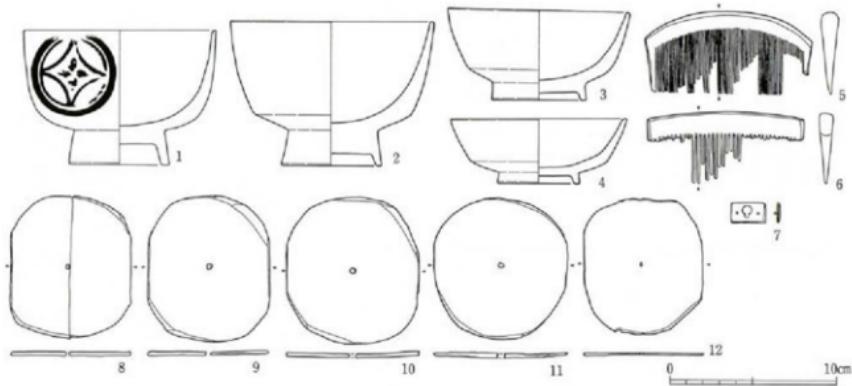
66号墓が正方形木棺墓、59号墓が長方形木棺墓、13・27・32・56・60・62号墓が直葬墓、37・43号墓が形態不明である。

墓の分布状況についてみると、調査区中央部から東側にかけて比較的整然と配置されている。

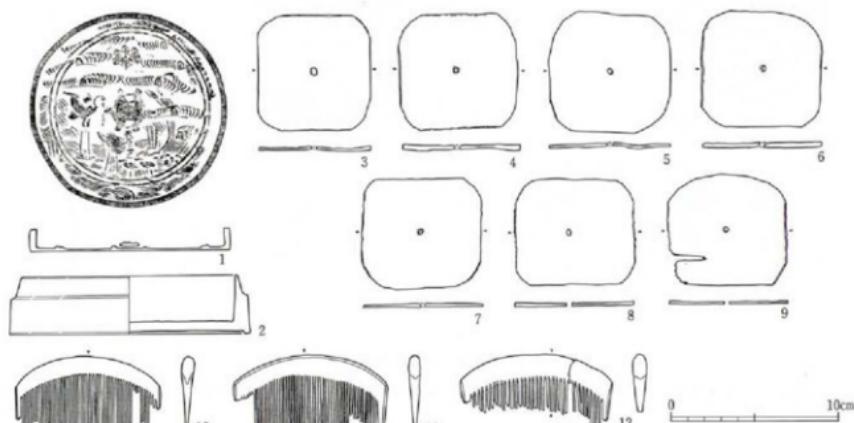
錢貨以外の遺物には和鏡、煙管2・3・4・5類、剃刀、染付磁器小碗、陶器皿・丸椀、漆器椀A I・A II・B I類、櫛A・B類、提灯底板A・B・C類、数珠玉、鏡入れ(身)、膳、箸状木製品などがあり(第84図)、今回の調査で出土した遺物の大半が本期から出土している。

なお、出土遺物についてみると本期では煙管5類、漆器椀B I類、提灯底板C類が新たに出現するようになる。このうち煙管5類の出現時期については、最近の編年案における年代観と共通している。また、漆器椀B I類への変化については、東京都港区増上寺院群等にみられる該期資料の形態的な変化と年代的にも一致するものである。

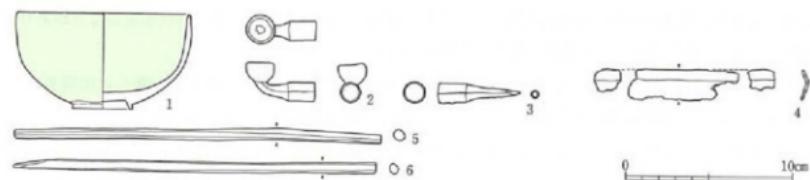
また、本期内における遺構の新旧関係と新寛永銭の細分類による年代観については矛盾するものは確認



14号墓出土遗物

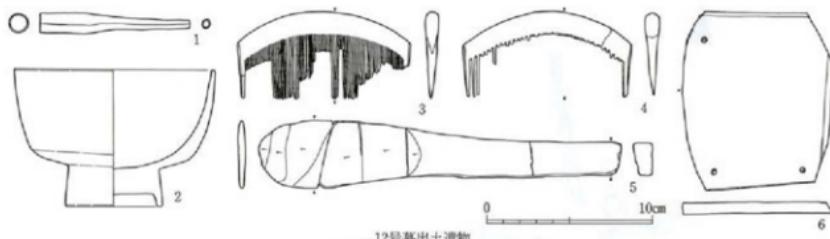


36号墓出土遗物

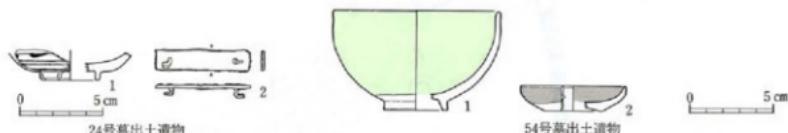


65号墓出土遗物

第84图 C期出土遗物



12号墓出土遺物



第85図 D期出土遺物

していない(銭貨拓本図参照)。

【D期】(第89図・表8)

12・24・28・31・35・40・41・53・54・55・57・68号墓が相当する。

墓の形態は、12・28号墓が円形木棺墓、24・31・35・40・41・53・54・55・57・68号墓が直葬墓である。墓の分布状況についてみると、調査区南東部に密集して配置されている。

出土遺物には煙管、赤絵磁器、陶器丸瓶・小皿・灯明皿、かわらけ、漆器椀B類、櫛A・B類、提灯底板C類、柄杓などがあるが、量的には非常に少ない(第85図)。

4) 墓域の変遷と埋葬方法の変化

ここでは、本地区における墓域の変遷と埋葬方法の変化についてまとめてみたい。

まず、今回発見した近世墓の数を時期区分別にみると、A期—3基、B期—8基、C期—26基、D期—12基であった。その分布状況を各時期ごとに整理すると、A・B期では調査区西側にまとまりが認められるのに対して、C期では中央部から東側にその中心が移動し、さらにD期では南東部に密集して造られるようになる(第89図~92図)。このような状況から判断すると、本調査区では17世紀中頃以降から西側を中心として墓域として使用されはじめ、時期が下るにしたがって東側にその範囲を広げていったことが推測できる。

一方、各時期の墓の分布状況や形態あるいは出土遺物等について改めて整理してみると、C期とD期との間に大きな変化が認められた。まず墓の配置を見ると、B・C期では調査区北西~南東部にかけて列状に比較的整然と配置されているのに対して、D期では南東部の限られた場所に集中して

表4 時期別の埋葬施設一覧

形態	年代					合計
	A期	B期	C期	D期	その他	
円形木棺墓	1	6	8	2	4	21
正下形木棺墓	1		9		5	15
長方形木棺墓		2	1			3
直葬墓	1		6	10	12	29
形態不明			2			2
合計	3	8	26	12	21	70



第86図 A期



第87図 B期



第88図 C期



第89図 D期

表5 A期出土遗物一览

表6 B期出土遗物一览

基盤番号	高の形態	脚輪番号	鏡 貨		鏡 容		鏡 毒		鏡 亂		鏡 乱出		その他の				
			古宮鏡	文鏡	新文鏡	小明鏡	計	2種	3種	4種	5種	不明	A種	B種	C種	D種	
1号鏡	円形片状板鏡	菱形斜面小杯	3	18	10	31	1		2		1	1	2	1			彫形木柄鏡、状木製品等
2号鏡	円形片状板鏡			1	5	6	6	1					7	3			宝形木柄鏡
3号鏡	円形片状板鏡			4	4	8					2		3				金鏡、漆鏡入れ等
4号鏡	円形片状板鏡				1					1							
5号鏡	円形片状板鏡				2	1	6	6				1					後漢工
6号鏡	圓方片状板鏡			2	1	6	6	6	1	1	3						後漢工4
7号鏡	圓方片状板鏡			3	1	3	3	3									
8号鏡	圓方片状板鏡			8	8	12											後漢工5、金具等
合	社		3	20	31	23	3	3	1	3	1	4	2	2	2	2	

表7 C期出土遗物一览

基盤番号	基材の形態	陶磁器系	厚さ										被膜形状		耐候性		その他				
			表裏紙	古式木版	文机	實木版	小字版	計	2倍	3倍	4倍	5倍	千字版	A	B	C	D				
2号基	内折れ板紙	陶磁器系	27	8	6	43	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	等級A			
3号基	内折れ板紙	陶磁器系	21	5	11	32								1				等級B			
10号基	内折れ板紙	實木版小字版	2	2	2	6								1				等級E			
11号基	内折れ板紙	陶磁器系	3	3	3	6								2	2	2		等級C			
11号基	直折れ	實木版直折れ	1	2	2	3	6			1				1				等級D			
14号基	内折れ板紙	陶磁器系	26	28	29	32	136							1	3	1	1	金具、 黒松木製品、 銀葉208			
15号基	正方形木版紙	かわらけ	1	2	2	2	12		1	1								鉛筆刀、 銀葉304			
16号基	正方形木版紙	かわらけ打目版	2	2	22	26	1	1										銀葉308、 有孔板状製品			
17号基	正方形木版紙	陶磁器系	2	2	3	5												等級A			
18号基	正方形木版紙	陶磁器系	1	25	14	17	57							3	3	1		銀葉34			
19号基	正方形木版紙	陶磁器系	2	1	4	9												銀葉35			
22号基	正方形木版紙	陶磁器系	9	5	22	41								1	1	2		銀葉36、 等級A			
23号基	正方形木版紙	陶磁器系	2	2	7	9												等級B			
27号基	直折れ	かわらけ打目版	1	1	1	1												銀葉37			
32号基	直折れ	陶磁器系	2	1	2	6												銀葉38			
33号基	内折れ板紙	かわらけ	2	44	24	31	90							3				銀葉39、 薄型銀版入門、 銀葉403			
42号基	内折れ板紙	陶磁器系	3	2	6	9												銀葉41			
43号基	内折れ板紙	陶磁器系	4	4	4	4															
45号基	内折れ板紙	陶磁器系	11	7	12	20	1	1						3	3	1		銀葉42			
46号基	内折れ板紙	陶磁器系	1	2	1	5												銀葉47			
50号基	直折れ	陶磁器系	1	1	1	1												銀葉44			
50号基	直折れ	陶磁器系	2	5	4	14	25	1	1	1	1							銀葉45			
52号基	正方形木版紙	直折れ	1	18	18	4	1	1										銀葉46			
56号基	直折れ	直折れ	1	2	3	4								1				銀葉47			
合 计	正方形木版紙	陶磁器系	1	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	2	8	9	5	18	7	9	
			11	240	111	329	4	405	3	4	6	5	3	2	2	8	9	5	18	7	9

表 8 D 期出土遗物一览

表9 その他出土遺物一覧

基番号	品目	周辺形態	現実	経済	総合	御影城	橋	現打目次	その他								
			波来枝/古窓木枝/文枝/新窓木枝/不明枝	計	2期	3期	4期	5期/不明	A期/B期/C期	B期/C期	C期	入船	入船	入船	入船	入船	入船
6号船	内形舟檻船																1
8号船	内形舟檻船																
12号船	内形舟檻船		かわらけ竹明田														3
25号船	正方舟檻船																1
29号船	正方舟檻船																
30号船	内形舟檻船																
31号船	舟舟船																
34号船	正方舟檻船	かわらけ竹明田															3
38号船	舟舟船	かわらけ															
40号船	内形舟檻船																1
41号船	舟舟船																
44号船	舟舟船																
47号船	正方舟檻船		3(?)														
50号船	舟舟船																
38号船	舟舟船																1
63号船	舟舟船																
54号船	舟舟船																
47号船	舟舟船																
20号船	正方舟檻船																1
合計			3(?)							1	1				2	2	3

配置されるという傾向が伺える。墓の形態については前者では木棺を伴うものが主流であったのに対し、後者では直葬墓が8割以上を占めるようになる(表4)。遺物ではC期まで多量に出土していた銭貨がD期では皆無になることを始め、その種類や量に極端な減少傾向が認められる。これらのことから、本遺跡ではC期からD期に移行する時点で埋葬方法に大きな変化が生じた可能性が考えられる。

2 出土遺物について

ここでは、遺物の種類ごとに出土状況を整理し、それらの性格について検討してみたい。

金属製品

① 銀貨(表10)

表10 銀貨の出土箇所と被葬者の性別

遺構番号	枚 数	出 土 状 況		被葬者の性別		
		木棺内部	掘り方	男 性	女 性	不 明
14号墓	136	1		1		
36号墓	102	1			1	
18号墓	57	1			1	
2号墓	43	1		1		
22号墓	41	1			1	
9号墓	37	1		1		
1号墓	31	1			1	
45号墓	30		1		1	
16号墓	26	1		1		
60号墓	25	—	—			1
61号墓	18	1				1
15号墓	12	1		1		
44号墓	12	1				1
19号墓	9	1				1
23号墓	9	1				1
37号墓	9	1			1	
4号墓	8	1			1	
3号墓	6	1			1	
10号墓	6	1		1		
11号墓	6	1			1	
13号墓	6	—	—			1
20号墓	6	1		1		
21号墓	6	1		1		
32号墓	6					1
17号墓	5	1				1
46号墓	5	1				1
43号墓	4	1				1
56号墓	4	—	—			1
62号墓	4	—	—			1
66号墓	4	1				1
39号墓	3	1				1
65号墓	3	—	—			1
5号墓	1	1				1
7号墓	1	1				1
27号墓	1	—	—			1
51号墓	1	—	—	1		
49号墓(?)	2	1(?)		1		
合計	685	27(28)	1	10	9	10

(4) 本遺跡では下野国足尾鉢(1741初鋤)以降の銀貨を1枚も確認していないことから、1742(寛保2)年に幕府が発布した六道鉢の基準埋納禁令の影響も考慮する必要がある。

発見した墓の半数を超す37基から銭貨が出土している。

これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴うものが30基、直葬墓が7基であった。今回の調査では、木棺を伴う墓を41基、直葬墓を29基確認していることから、前者については全体の7割以上の墓から銭貨が出土することになる。

出土箇所については、木棺を伴うものでは45号墓以外はすべて木棺内部に埋納されており、特に1・4・10・14・18号墓では木棺底面の北西側からやまとまって出土している。このうち10号墓では四肢骨の下から出土しており、18号墓では西側板に添って出土している。45号墓出土の銭貨については掘り方南東壁寄りの底面から一列に連なった状態で出土しており、袋に入れるか紐で繋ぐかして埋納したことが推測できる。一方、直葬墓から出土した銭貨については、60号墓で墓壙底面の北西部からまとめて出土している以外は、埋土中に散在していた。

墓別の枚数をみると、14号墓の136枚を最高に以下表10のとおりである。江戸時代において最も一般的とされる6枚組の銭貨の出土例は7基を確認するのみであり、銭貨の出土した墓の19%にしかすぎない。

なお、被葬者の性別については、確認できたものに関しては男性10例、女性9例であった。枚数についても、両者ほとんど差が見られないことから、銭貨の墓中埋納に男女差はなかったものと考えられる。

② 鏡

4・18・36号墓から1枚ずつ出土している。これらはすべて木棺を伴う墓であり、鏡はいずれも木棺内部に埋納されていた。

出土状況についてみると、4号墓では漆器鏡入れのなかに納められた状態で出土している。36号墓では木棺底面の東側から鏡入れ(身)に納められて、倒位の状態で出土している。18号墓では鏡入れは伴っておらず、木棺底面の南側から鏡背が上を向いた状態で出土している。

なお、被葬者の性別に関しては、すべて女性であると鑑定されている。

③ 煙管(表11)

合計20基の墓から出土している。

各墓の出土状況をみると、雁首と吸口が1組分出土しているものが13基と非常に多く、他には2組分出土するものが1基、雁首のみのものが1基、吸口のみのものが5基確認できる。

これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴う墓が15基、直葬墓が5基である。このうち木棺を伴うものでは、45号墓以外はすべて木棺内部に埋納されており、ほとんどのものが棺底面より出土している。45号墓では掘り方理土から出土しており、墓壙を埋め戻す際に埋納したものと考えられる。

一方、直葬墓から出土したものについては、すべて埋土中から出土していることから、45号墓と同様に墓壙を埋める際に埋納した可能性が考えられる。

被葬者については、性別が判明したものでは男性6例、女性6例であることから、本遺跡では男女の別なく煙管を墓中に埋納していたことが明らかである。

④ 剃刀

剃刀は9・15・66号墓から1点づつ出土している。墓の形態はすべて木棺を伴うものであり、いずれも棺内部に埋納されていた。15号墓出土のものは木製の容器に納められた状態で出土しており、9・66号墓出土のものについては、木棺の底面で確認している。

被葬者の性別については9・15号墓では男性であると鑑定されている。

表11 煙管の出土箇所と被葬者の性別

墓場番号	出土部位			木棺内部	掘り方	被葬者の性別		
	雁首+煙管	雁首のみ	吸口のみ			男性	女性	不明
1号墓	1			1		1		
2号墓	2			1		1		
3号墓	1			1			1	
11号墓	1			1			1	
12号墓			1	1		1		
13号墓		1						
15号墓	1			1		1		
16号墓	1			1		1		
18号墓	1			1			1	
21号墓	1			1		1		
22号墓			1	1			1	
45号墓	1				1		1	
47号墓			1	—	—			1
51号墓			1	—	—	1		
56号墓	1			—	—			1
59号墓	1			1				1
60号墓	1	1		—	—			1
61号墓	1			1				1
62号墓		1		—	—			
66号墓	1			1				1
合計	15	2	5	13	1	6	6	6

陶磁器

1・2・10・13・15・23・24・54・55・66号墓から11点出土している。これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴うのもが6基、直葬墓が4基である。

木棺を伴うものでは棺内部から出土しているもの(1号墓)、掘り方から出土しているもの(2・10・15・23・66号墓)が確認できる。1号墓出土のものは完形の染付磁器小杯である。木棺底面付近から出土していることから、被葬者と共に埋納されたものと考えられる。2号墓出土のものは陶器皿であり、掘り方底面より約5cm上層から出土している。口縁端部が一部欠損する以外はほぼ完形であることから、破碎した後で埋納されたものと考えられる。23・66号墓出土のものは陶器丸碗であり、いずれも掘り方底面の南西隅から倒位の状態で出土している。66号墓出土のものは完形で出土していることから、埋納されたものであると推測される。23号墓出土のものは全体の約2/3が欠損していたが、掘り方底面から出土していることを考慮すれば、破碎した後で埋納した可能性が考えられる。10・15号墓出土ものは染付磁器であり、いずれも掘り方埋土上層から出土している。2点とも小破片であることから考えると、掘り方を埋める際に混入したものである可能性が高い。

一方、直葬墓出土のものでは、55号墓出土の陶器灯明皿が墓壇底面から完形で出土していることから、埋納されたものであると考えられる。54号墓出土の陶器丸碗に関しては、小破片での出土であったが狭い範囲からまとまって出土していることや、その破片がすべて接合し全体の1/2以上になることから、破碎した後に埋納されたものである可能性が高い。しかし、これら以外のものについてはすべて小破片のみの出土であるため、墓壇を埋める際に混入したものと考えられる。

ところで、2・23・66号墓の掘り方からは箸状木製品が出土している。このうち66号墓では、倒位で出土した碗の下から2本の箸状木製品が鋭角に交わるような状態で出土している。このような碗と箸の出土

状況は、葬送儀礼に見られる一杯飯のあり方と共に共通するものである。箸状木製品との位置関係は明らかでないが、2・23号墓出土のものについても同様であると推測される。

なお、被葬者の性別については、2・10号墓が男性、1号墓が女性と鑑定されている。

かわらけ

15・16・25・27・34・38・44号墓から1点づつ出土している。このうち、16・25・27・34号墓出土のものは、油煙が付着していることから灯明皿と考えられる。これらの残存状況については、27号墓出土のものがほぼ完形に近い以外は、すべて小破片である。

出土した墓の形態についてみると、木棺を伴うものが4基、直葬墓が3基である。前者では、すべて掘り方埋土中から出土しており、後者では、25・27号墓出土のものが墓壙南側の底面から出土している。

木製品

① 漆器椀(表12)

11基の墓から計18点の漆器椀が出土している。小破片での出土を確認していないことから、いずれも埋納されたものと考えられる。

これらの墓を形態別に分けてみると、すべて木棺を伴う墓から出土している。棺内部から出土するものが5点、掘り方から出土するものが13点である。

前者では、14号墓から3点、9・10号墓から各1点づつ出土している。このうち14号墓では3点とも木棺西側に集中しており、B I a類が棺底面から、B I b・B I c類が体幹骨の上面から重なった状態で出土している。

後者では、18号墓から3点、1・11号墓から各2点づつ、7・12・14・21・42・45号墓から各1点づつ出土している。このうち、1・7・12・14・18・21・42号墓出土のものはすべて掘り方底面に、11・45号墓出土のものは掘方埋土でも、棺蓋の上かそれと同じ高さに埋納されていた。また、これらの漆器椀は、掘り方の西壁・北壁側で埋納したが多く、そのほとんどは内面が木棺側に向いていた。

表12 漆器椀の出土箇所と被葬者の性別

遺構番号	出土箇所		被葬者の性別		
	木棺内部	掘り方	男性	女性	不明
1号墓		(A I a)、A I c		1	
7号墓		(A II a)			
9号墓	A II c		1		
10号墓	A I c		1		
11号墓		(B I b)、B I c		1	
12号墓		B I a	1		
14号墓	B I a、B I b、B I c	(A II a)	1		
18号墓		B I a、B I b、B I c		1	
21号墓		A I a?	1		
42号墓		B I a		1	
45号墓		(A I a)		1	
合計	5	13	5	4	1

() は箸状木製品を伴うもの

(5) 一杯飯は、枕板・一膳飯などと称されるもので、一般には死者が生前使用していた茶碗に飯を盛り、箸を2本(あるいは1本)立てて死者の枕元に供えるものとされている。本市においても「炊き上げた飯を高盛りにし、(中略)、箸を十文字に挿して立てる」という事例が確認されている(『多賀城市史・3』)。

一方、木棺内部と掘り方から出土した椀を分類別に比較すると次のような特徴が認められた。

① 1点のみ出土したものについては、棺内部から出土したもの(9・10号墓)はすべて小型のものであるのに対して、掘り方から出土したもの(7・12・21・42・45号墓)は大型のものに限られている。

② 2点以上出土しているものはすべて同種類のものである。これらは木棺内部にのみ埋納されているものと(14号墓)、掘り方にのみ埋納されているもの(1・11・18号墓)がある。

③ 棺内部と掘り方の両方から出土しているものでは(14号墓)、それぞれ形態的に異なるものが出土している。

以上のような状況は、棺内部に埋納された椀と掘り方に埋納された椀の性格の違いを示すものと考えられる。

ところで、掘り方から出土した椀のうち、1・45号墓出土の大型の椀(A I a類)、11号墓出土の中型の椀(B b類)には、箸状木製品が伴って出土している。1号墓では椀の口縁部に横向きに置かれた状態で出土しており、11号墓では椀の内部から碎けた状態で、45号墓では椀内部から折れ曲がった状態で出土している。このような椀と箸の出土状況は、一杯飯のあり方と共に通するものである。椀との位置関係は不明であるが、7号墓でも掘り方から箸状木製品が2本出土していることから、一杯飯に使用されたものと推測される。箸状木製品は出土していないが、12・14・21・42号墓のものについても、大型の椀であり掘り方底面から出土しているという点を考慮すれば、同様である可能性が考えられる。

なお、被葬者の性別が判明したものについては、男性5例、女性4例であり、漆器椀の墓中埋納における男女差は認められない。

② 櫛(表13)

14基の墓から26点の櫛が出土している。

これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴うものが12基、直葬墓が2基であり、前者の占める割合が非常に高い。出土箇所についてみると、木棺を伴うものではすべて棺内部に埋納されていた。棺底面から出土しているものが大部分であるが、12・36号墓では体幹骨の上面から出土しており、21号墓では下顎の内側から出土している。

一方、直葬墓から出土したものでは、2点とも墓壙底面から出土している。

表13 櫛の出土箇所と被葬者の性別

遺構番号	枚 数	出 土 個 所		被葬者の性別		
		木棺内部	掘り方	男 性	女 性	不 明
1号墓	4	1			1	
4号墓	2	1			1	
9号墓	2	1		1		
11号墓	2	1			1	
12号墓	2	1		1		
13号墓	1	—	—			
14号墓	2	1		1		
16号墓	1	1		1		
18号墓	1	1			1	
20号墓	2	1		1		
22号墓	2	1			1	
31号墓	1	—	—			
36号墓	3	1			1	
59号墓	1	1				1
合計	26	12		5	6	1

各墓の出土数については、2点以上出土しているものが9基、1点のみのものが5基ある。このうち前者では、同種類の組み合わせのものが4基(4・9・11・36号墓)、形態の異なる組み合わせのものが3基(1・14・20号墓)と、ほぼ半々の割合で確認できる。歯数については墓ごとに多少のばらつきがみられるものの、11号墓以外は多いものと少ないものの組み合わせで構成されている。⁽⁶⁾

被葬者については、性別が判明したものでは男性5例、女性6例とほぼ同数であり、櫛の埋納に男女差があった形跡は認められない。

③ 提 灯(表14)

23基の墓から5点の提灯と、46点の提灯底板が出土している。

これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴うものが19基、直葬墓が4基であり、前者の占める割合が非常に高い。出土箇所では、木棺を伴うものではすべて掘り方に埋納されていることが特徴的である。これらの大半は埋土中から出土したものであるが、16・61号墓では底面から提灯の枠を伴った状態で出土しており、22・36号墓では棺蓋上面からも1点づつ出土している。一方、直葬墓ではすべて墓壙埋土中から出土している。

墓別の出土数をみると、36号墓の7点を最高に、2点以上出土するものが半数以上を占めている。これらは形態的に同種類のものが出土する傾向が高く、2種類が共伴するものは56・61号墓のみである。

なお、被葬者で性別が判明したものでは、男性4例、女性6例であり、提灯の墓中埋納に男女差は認められない。

表14 提灯(底板)の出土箇所と被葬者の性別

墓壙番号	出土枚数	出 土 箇 所		被葬者の性別		
		木棺内部	掘り方	男 性	女 性	不 明
1号墓	1		1		1	
3号墓	3		1		1	
4号墓	2		1		1	
6号墓	1		1			1
9号墓	2		1	1		
11号墓	2		1		1	
14号墓	5		1	1		
15号墓	2		1	1		
16号墓	5		1	1		
22号墓	5		1		1	
23号墓	2		1			1
26号墓	1		1			
28号墓	1		1			
29号墓	1		1	1		
34号墓	1		1			1
36号墓	7		1		1	
43号墓	1		1			1
44号墓	2		1			1
50号墓	1	—	—			
53号墓	1	—	—			
56号墓	2	—	—			1
60号墓	1	—	—			1
61号墓	2		1			1
合計	5	0	19	5	6	8

(6) このような組み合わせについては、熊り櫛と桃き櫛の機能的な分離を示しているという見解もある(安道広道、上田りえ・1988)

④ 数珠玉(表15)。

21基の墓から916点の数珠玉が出土した。

これらの墓を形態別に分けてみると、木棺を伴うものが17基、直葬墓が4基であり、前者の占める割合が非常に高い。出土箇所については、木棺を伴うものでは45号墓以外はすべて棺内部から出土しているが、棺底面に散在しているものが多く、埋葬当時の状況については明らかでない。一方、直葬墓では、すべて墓壙埋土から出土している。このうち56号墓では墓壙検出面から20cmほど掘り下げたところから集中して出土しており、被葬者に持たせて埋納された可能性が考えられる。

各墓の出土数では、14号墓の198個を最高に以下表15のとおりである。ただし、14号墓では大きさ・材質の異なるものがほぼ半々ずつ出土していることから、2種類の数珠が埋納された可能性が高い。また、珠の数で最も一般的と思われる108個の組み合わせについては本遺跡では確認することができなかった。調査時のサンプリングエラーを考慮する必要もあるが、珠の数がそれ以下のものも埋納されていた可能性が考えられる。⁽⁷⁾

なお、被葬者については性別が判明したものでは男性7例、女性5例であり、数珠の墓中埋納における男女差は認められない。

表15 数珠の出土箇所と被葬者の性別

墓 壙 番 号	出 土 数	出 土 範 所		被 葬 者 の 性 別		
		木 棺 内 部	掘 り 方	男 性	女 性	不 明
9号墓	94	1		1		
10号墓	88	1		1		
13号墓	4	—	—			
14号墓	198	1		1		
15号墓	30	1		1		
16号墓	37	1		1		
18号墓	77	1			1	
20号墓	91	1		1		
21号墓	40	1		1		
22号墓	30	1			1	
23号墓	1	1				1
35号墓	1	—	—			1
36号墓	83	1		1		
37号墓	17	1			1	
44号墓	8	1				1
45号墓	2		1		1	
46号墓	7	1				1
56号墓	44	—	—			1
61号墓	1	1				1
65号墓	16	—	—			1
66号墓	47	1				1
	916	16	1	7	5	8

その他の木製品

柄杓、竜形木製品、ヘラ状木製品、臍がある。

柄杓は12号墓から1点出土している。掘り方北壁側の底面から出土しており、出土状況から柄の部分を人為的に折り曲げた後に埋納したものと思われる。被葬者の性別は男性と鑑定されている。

(7) 宗派によっては数珠玉の数を54・36・27・18個等に細分する場合もあるという(『仏具大事典』)。

竜形木製品は1号墓から大型のものと小型のものが各1点づつ出土している。いずれも掘り方から出土しており、大型のものが南側、小型のものが西側に埋納されていた。被葬者の性別は女性と鑑定されている。

膳は16・17・22・23号墓から各1組づつ出土している。16号墓では掘り方西壁側の底面から、提灯の上に逆さまになった状態で出土しており、22号墓では棺蓋上面に置かれた状態で出土している。17・23号墓では掘り方埋土上半部から出土している。被葬者の性別については、16号墓が男性、22号墓が女性と鑑定されている。

以上、遺物の出土状況について種類別にまとめてきた。その結果、特に木棺を伴う基においては、棺内部から出土するものと、掘り方から出土するものに大きな違いが認められた。

棺内部から出土するものには錢貨、鏡、煙管、剃刀、漆器椀、磁器、櫛、数珠玉がある。これらは遺物は民俗事例を参考にすると、葬送儀礼において副葬品とされているにも多くの類例が認められる。

錢貨は六道銭として埋納されたものであると推測される。枚数が6枚以上出土するものが大半を占めているが、銭6枚以外にも「多少の小遣い」を埋納するう本市の事例と類似している。

鏡、煙管、剃刀、漆器椀、櫛などは死者が生前所有していたものとして共に埋納されたものと考えられる。このうち剃刀が出土した9・15・66号墓では、いずれも被葬者の切歯に特異摩耗が確認されていることから、生前の職業を反映している可能性が考えられる(「VII・出土人骨について」参照)。また、性別については9・15号墓では男性であると鑑定されており、「男性には身の回りの品として剃刀を入れる」という本市の習俗とも共通している。

一方、棺外部から出土した遺物には陶器皿・丸椀、灯明皿、漆器椀、提灯、膳、柄杓、竜形木製品、ヘラ状木製品、箸状木製品などがある。このうち陶器皿・丸椀、大型の漆器椀については、出土状況から一般杯飯椀であると考えられる。上記と同様に民俗事例を参考にすると、これらの遺物は葬列の際に葬具として用いられるものと類似している。⁽⁸⁾このような葬具については、講中の人々によって作られるのが一般的であり、葬送儀礼における地域の特色を示すものと考えられる。また、本遺跡に見られる葬具の埋納状況は、葬送儀礼に使用したものは決して持ち帰らないという風習とも共通するものと思われる。

ところで、45号墓から出土した錢貨や煙管についてはすべて掘り方から出土しており、上記の埋納状況とは異なったあり方を示している。当該墓では出土した人骨が頭蓋骨のみであり、さらにそれが掘り方に埋納されているという特異な埋葬例であることから、これと密接に関係している可能性が高い。

なお、副葬品および葬具の墓中埋納における男女差についてみると、副葬品で鏡が女性にのみ、剃刀が男性にのみ埋納されている以外は、男女差はほとんど認められない。

(8) 本市市川地区の葬列では延、旗、竜頭、提灯、花、枕、団子、香炉鉢、紙花、一杯飯、萬子、水、茶、位牌の順であり、この後に棺や一般の人々が続くとされている(『多賀城市史・3』)。

(9) 本市では、「契約譲」によって葬式の諸役が分担されるのが一般的であった。なお、本市におけるこのような社会組式の成立を示す資料で最も古いものは、1762(宝曆2)年の記載がある留ヶ分地区の帳簿であるが、本遺跡の出土遺物が「譲」の存在を示すものであるならば、それを半世紀以上遡るものである。

3 被葬者の階層について

ここでは、墓の形態や出土した遺物から本遺跡に埋葬された被葬者の階層について若干の考察を行なってみたい。

まず、墓の形態についてみると、今回確認したものはすべて土葬墓であり、円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓によって構成されている。埋葬当時の地表面の状況は明らかではないが、墓の分布状況から判断すると、大規模な塚などは伴わないものであったと考えられる。

一方、出土した遺物には銭貨、和鏡、煙管、剃刀、陶磁器、漆器、櫛、数珠、提灯、その他の木製品などがある。これらの遺物は本墓域を営んだ人々の生活を反映しているものと考えられることから、被葬者の階層を推測する上でも重要である。

次に、県内で確認されている近世墓のうち、多数の墓がまとまって検出されている仙台市新妻家墓地・泉崎浦遺跡、瀬峰町下藤沢II遺跡の調査成果と本遺跡の成果とを比較してみる。

①仙台市新妻家墓地

17世紀後半～19世紀の墓25基が確認されている。墓の形態には甕棺墓、円形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、刀、鏡、煙管、銅鑼、陶器、漆器、櫛、土人形などがある。当該墓地は伊達家の家臣であった新妻家、千葉家の墓域であることから、被葬者の階層は武士階級であるとされている。

②仙台市泉崎浦遺跡

17世紀中頃～19世紀にかけての墓31基が確認されている。墓の形態には円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、柄鏡、煙管、鉄、陶磁器、漆器、櫛、箸、提灯、折敷、数珠などがある。被葬者の階層については明らかにされていない。

③瀬峰町下藤沢II遺跡

17世紀前葉～19世紀後葉の墓が28基確認されている。墓の形態には塚を伴うものと墓壙のみのものがあり、出土遺物には銭貨、和鏡、陶磁器、煙管などがある。当該墓地は瀬峰町藤沢字下藤沢地区の旧家である門脇家の墓地であり、その総本家は「上の庄屋」と呼ばれているという。

さて、本遺跡で検出した墓の形態や出土した遺物を上記遺跡のものと比較すると、泉崎浦遺跡で確認されているものと非常に類似している。また、下藤沢II遺跡とは墓の形態に違いが認められるものの、出土した遺物については本遺跡でも同様に認められる。一方、新妻家墓地では甕棺墓が確認されていることや、刀が出土しているなど、本遺跡のものとは異なったあり方を示している。

被葬者の階層についてみると、泉崎浦遺跡では明らかにされていないが、新妻家墓地では武士階級、下藤沢II遺跡では庄屋クラスの墓域であったことがそれぞれ判明している。

以上のことから、本遺跡に埋葬された被葬者の階層については新妻家墓地にみられるような甕棺墓を検出していないことや、出土遺物にも武士階級を想定させるようなものが認められないことから、庶民階層の墓であったと考えられる。また、遺物の種類やその量を考慮するならば、庶民でも下藤沢II遺跡と同クラスの階層であった可能性が高い。このことは、今回出土した人骨が「江戸時代農村型」に一致するという人類学的な調査結果とも大きく矛盾するものではない。

00 本市内でも山王遺跡で18世紀後半以降の墓を7基発見している。円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓があり、銭貨、煙管、櫛、漆器椀などが出土している。被葬者の階層は明らかでない。

4 銭貨の流通について

東北地方に於いては、近世墓の報告例が少ないこともあり、墓中から出土した銭貨に関する研究は非常に少ない。しかし、墓中に埋納された銭貨の分析は、出土した墓の上限年代を示すばかりではなく、当時の貨幣の流通状況を復元する上でも多くの情報をもたらすものと考えられている。したがって、ここでは宮城・福島・岩手の3県で発見された中世末～近世の墓を対象に銭貨の出土状況を簡単にまとめた後で、本遺跡における銭貨の出土状況と比較してみたい。なお、分析に際しては鈴木公雄氏の方法(鈴木・1988)に従った。

表16は宮城・福島・岩手で発見された19遺跡255例の中世～近世墓を、出土した銭貨の組み合わせ別に集計したものである。また第90図は、6枚組のもの90例を抽出して各銭貨の出現頻度をグラフにしたものである。

まず表16をみると、①渡来銭と寛永通宝(古寛永銭、文銭、新寛永銭)が共伴するものが非常に少ないこと、②それに対して古寛永銭と文銭、文銭と新寛永銭あるいは3種類すべてが共伴するものが圧倒的に多いことが確認できる。このことは第90図ではさらに顕著に現れ、①の組み合わせは僅か3例を確認するのみである。このような状況は、渡来銭から古寛永銭への切り代わりが非常に急激であったのに対して、古寛永銭から文銭、文銭から新寛永銭への変換は緩やかであったことを示しており、江戸府中(鈴木・1988)や九州地方(櫻井・1997)の出土状況とも共通している。したがって、江戸時代においては銭貨の流通に関する地域差は全国的にみてもほとんどなかったものと考えられる。

さて、本遺跡の銭貨の流通状況については、渡来銭のみが出土する墓が存在しないため、古寛永銭への移行状況については定かではない。しかし、古寛永銭の出土が285枚と全体の40%を越すのに対して、渡来銭の出土は僅か14点のみであり、出土した銭貨の2%にしか過ぎない。このような状況からみると、本遺跡でも寛永通宝への切り替わりが迅速に行われた可能性が推測される。

一方、古寛永銭・文銭・新寛永銭の出土状況についてみると、新寛永銭鑄造以後も多量の古寛永銭や文銭が共伴しており、寛永通宝同士の切り替わりについては明確な変化は認められない(表6参照)。

また、本遺跡では渡来銭と新寛永銭が共伴する墓を6基確認している。このような組み合わせは全国的にみても新寛永銭出現以降は減少傾向にあると考えられており、今回取り上げた遺跡でも南諏訪原遺跡、宮脇遺跡、早稲田遺跡(以上福島)、下猿田II遺跡(岩手)で各1基づつを確認するのみである。したがって出土する枚数 자체は少ないものの、本遺跡では18世紀以降においても渡来銭の埋納例が比較的高い確率で認められることが特徴的であると考えられる。

⑩ 本遺跡の西側0.5kmに所在する大日南遺跡では、中世末～近世初頭頃と考えられる墓壙21基を発見しており、そのうち7基の墓から銭貨が出土している。これらはすべて渡来銭のみで構成されており、いずれも6枚組みのものであった。本遺跡とは距離的にも近接していることや、年代的にも近い時期のものであることから、両遺跡の銭貨の出土状況は本遺跡周辺における渡来銭から古寛永銭への移行を端的に示しているものと考えられる。

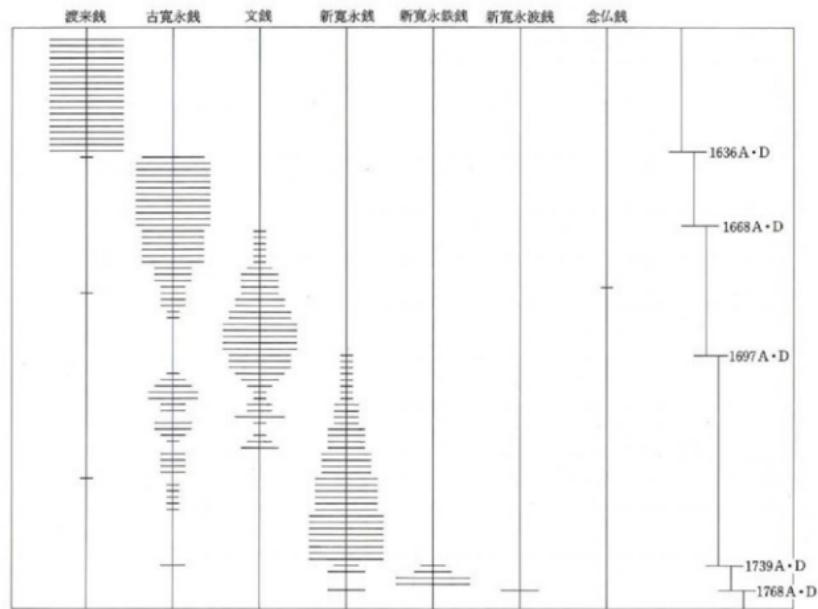
表16 墓中出土鏡貨の組み合せ一覧(宮城・岩手・福島)

宮城—太日堂：太日廟（多賀城）、鳥越城；北船：取；櫛（仙台市）

日出山(木和村)、下高根井(高根村)

福島一南翼站原、五十刃、宮城、早稻田、仙台内野、水無

當手一側在所D，下體用H，下體用III，上體用I，骨頭C



第90図 墓中出土銭貨セリエーショングラフ（宮城・福島・岩手）

VI まとめ

- 1 今回の調査では近世墓70基とそれ以前の水田跡を発見した。
- 2 発見した墓についてはA～D期という時期区分が可能であり、それぞれA期：1636～1668年頃、B期：1668～1697年頃、C期：1697～18世紀後半頃、D期：18世紀後半以降という年代が推定できた。
- 3 墓域の広がりについては、各時期の墓の分布状況から、調査区西側から東側へと展開していくと考えられる。
- 5 出土遺物についてみると、木棺を伴う墓では棺内部と掘り方から出土するもので大きな違いが認められた。民俗事例を参考にすると、前者は副葬品と考えられ、後者は葬具であると推測される。
- 6 被葬者の階層については、埋葬施設や出土した遺物から判断すると豪農クラスであった可能性が考えられる。

参考文献

- 阿部正光・佐藤敏幸 「宮城県の近世墓と六道銭」 兵庫埋蔵銭貨調査会『近世の出土銭 I－論考編－』 1997
 石川長喜 「発掘された墳墓について」 岩手県埋蔵文化財センター『紀要III』 1983
 岩城隆利 「供養具の意味について」『日本民俗学大系－4－』(祖先祭祀と葬墓) 名著出版 1996
 岩崎敏夫編『東北民俗資料集』八 1979

- 魚津市教育委員会 「富山県魚津市一印田近世墓」 1981
江戸遺跡研究会 「江戸の陶磁器」 江戸遺跡研究会第3回大会 1990
江戸遺跡研究会 「考古学と江戸文化」 江戸遺跡研究会第5回大会 1992
江戸遺跡研究会 「江戸時代の墓と葬制」 江戸遺跡研究会第9回大会 1996
大塚民俗学会 「日本民俗事典」 1987
岡崎譲治監修 「仏具大事典」 1982
小川望 「出土遺物からみた江戸の喫煙風習」 江戸遺跡研究会 「考古学と江戸文化」 1992
角田市教育委員会 「角田の通過儀礼」 角田市民俗文化財調査報告書第2集 1994
川根正教 「寛永通宝銭の基礎的研究1(上)」 出土銭貨研究会 「出土銭貨」 第4号 1995
古泉弘 「江戸の街の出土遺物」 「季刊考古学」 13号 雄山閣 1985
古泉弘 「江戸を掘る」 柏書房 1990
櫻木晋一 「九州の近世墓と六道銭」 兵庫埋蔵銭貨調査室 「近世の出土銭I—論考編I—」 1997
佐々木彰 「江戸時代のカワラケの動態と推移」 東京大学遺跡調査室 「医学部付属病院地点」 東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3 1990
新宿区南元町遺跡調査会 「発生寺跡」 1991
新宿区修行寺跡調査団他 「修行寺跡」 1992
新宿区厚生部遺跡調査会 「圓應寺跡」 1993
新宿区法光寺跡調査団 「法光寺跡」 1995
新谷尚紀 「日本人の葬儀」 1992
鈴木公雄 「出土六道銭の分析」 東京都港区教育委員会 「増上寺子院群」 1988
瀬峰町教育委員会 「下藤沢II遺跡」 瀬峰町文化財調査報告書第6集 1988
仙台市教育委員会 「北前遺跡」 仙台市文化財調査報告書第36集 1982
仙台市教育委員会 「富沢遺跡・東崎浦遺跡」 仙台市文化財調査報告書第126集 1989
仙台市教育委員会 「町遺跡」 仙台市文化財調査報告書第158集 1992
仙台市教育委員会 「沼遺跡」 仙台市文化財調査報告書第166集 1992
多賀城市教育委員会 「年報2」 多賀城市埋蔵文化財調査報告書第16集 1988
多賀城市教育委員会 「市川橋遺跡ほか」 多賀城市文化財調査報告書第35集 1994
多賀城市埋蔵文化財調査センター 「多賀城市埋蔵文化財調査センター年報—平成7年度—」 1997
谷川章雄 「江戸の墓の埋葬施設と副葬品」 江戸遺跡研究会 「江戸時代の墓と葬制」 1996
谷川章雄 「江戸の近世墓と六道銭」 兵庫埋蔵銭貨調査室 「近世の出土銭I—論考編I—」 1997
千葉孝弥 「村はすれの墓地」 一山王遺跡八幡地区—多賀城市「多賀城市史2」(近世・近現代) 1992
天徳寺寺域第3遺跡調査会 「天徳寺寺域第3遺跡発掘調査報告書」 1992
東京大学遺跡調査室 「医学部付属病院地点」 東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3 1990
東京都港区教育委員会 「増上寺子院群」 1988
東北大埋蔵文化財調査委員会 「東北大埋蔵文化財調査年報6」 1993
東北大埋蔵文化財調査委員会 「東北大埋蔵文化財調査年報7」 1994
東北大埋蔵文化財調査委員会 「東北大埋蔵文化財調査年報8」 1997
都立一橋高校内遺跡調査団 「都立一橋高校地点発掘調査報告書」 1985
永井久美男編 「近世の出土銭I」 兵庫埋蔵銭貨調査会 1997
長佐古真也 「発掘事例にみる多摩丘陵の墓制」 江戸遺跡研究会 「江戸時代の墓と葬制」 1996
波平恵美子 「異常死者の葬法と習俗」 「日本民俗学大系—4—」(祖先祭祀と葬墓) 名著出版 1996
宮城県教育委員会・日本道路公団 「日光山遺跡」 「東北自動車道遺跡調査報告書V」宮城県文化財調査報告書 第81集 1981
宮城県教育委員会 「上野館跡」 宮城県文化財調査報告書第156集 1993
兵庫県穴粟郡山崎町調査委員会 「山崎町の中世・近世銭貨—中世大量備蓄銭と近世 銭貨の調査報告書—」 1994
福島県教育委員会 「早稻田遺跡」 「母畠地区遺跡発掘調査報告書」 文化財調査報告書第107集 1982
福島市教育委員会他 「五十辻遺跡」 福島市埋蔵文化財報告書第22集 1987
福島市教育委員会他 「仙台内前遺跡」 福島市埋蔵文化財報告書第25集 1988
福島市教育委員会他 「宮監遺跡」 福島市埋蔵文化財報告書第39集
福島市教育委員会他 「南諏訪原遺跡」 福島市埋蔵文化財報告書第44集
藤井正雄編 「仏教儀礼辞典」 1997
藤澤典彦 「六道銭の成立」 出土銭貨研究会 「出土銭貨」 第2号 1994
古川市教育委員会 「鴻ノ巣遺跡」 古川市文化財調査報告書第20集 1997
文化庁文化財保護部監修 「日本民俗資料辞典」 1969
三崎一夫 「人生儀礼」 多賀城市「多賀城市史3—民俗・文学—」 1986

出土人骨について

奈良貴史(1) 渡辺 誠(1) 鈴木敏彦(2) 百々幸雄(1)

(1)東北大学医学部解剖学第1講座

(2)東北大学歯学部口腔解剖学第1講座

本遺跡からは、江戸時代の埋葬施設から多数の人骨が検出されたが、これはその人類学的調査結果の報告である。

計測値と頭骨の形態小変異の出現状態は表1、2に一括して示した。計測法はMartin and Saller(1957)に従った。

人骨発見

1号人骨

保存状態：頭蓋は顔面と頭蓋底を欠落する。下頸は左下頸枝の関節突起の部分と右下頸枝が欠落する。歯は上頸右中切歯、左第2大臼歯、下頸右第1、第2大臼歯が保存される。上肢骨は左右の上腕骨頭、尺骨の遠位端を欠落するものの比較的良好に保存される。下肢骨は左右の大腿骨の遠位端、左右の脛骨の近位端、右の脛骨の遠位端を欠落するものの比較的良好に保存される。寛骨は左右とも大坐骨切痕の部分を中心に保存される。

年齢：下頸歯槽に閉鎖が見られるが、頭蓋の主縫合に癒着傾向がほとんどみられないで、年齢は壮年程度と推測される。

性別：骨格が全体として華奢で小さいこと、そのほか乳様突起の大きさと形態、寛骨大坐骨切痕の形態、大腿骨頭の大きさなどから判断して、女性であることは確実である。

その他：左下頸大臼歯は生前に脱落し、歯槽がほぼ完全に閉鎖している。確認される範囲では齶歯は認められない。

2号人骨（写真1）

保存状態：頭蓋は顔面の一部と頭蓋冠の一部を欠落するものの保存状態は良好である。歯は下頸右大歯、左右第1小白歯、第2小白歯、第1大臼歯、右第2、第3大臼歯が保存される。上肢骨は鎖骨、肩甲骨、橈骨、尺骨が比較的良好に保存されるが、左右の上腕骨頭は欠落する。下肢骨は右の大腿骨の遠位端、脛骨の遠位端、腓骨の遠位端を欠落するが、左はほぼ完全に保存される。寛骨も左右ともほぼ完全である。

年齢：頭蓋の主縫合の度合と寛骨恥骨結合面の形状から判断して、熟年程度と推定される。

性別：乳様突起の大きさと形態、外後頭隆起の発達、寛骨大坐骨切痕の形態、大腿骨頭の大きさ等から判断して、明らかに男性。

その他：上頸右第2、第3大臼歯歯槽が不規則に閉鎖している。確認される範囲では齶歯は認められない。

3号人骨

保存状態：頭蓋は顔面と頭蓋底を欠落する。上肢骨は左右の上腕骨体の下半、右尺骨体上半、左尺骨体

が保存される。下肢骨は左右の大腿骨、脛骨、腓骨とも骨端部を欠き骨体部だけが保存される。その他、右寛骨の大坐骨切痕の破片、左距骨、指骨等が確認される。

年齢：頭蓋の主縫合の癒合の度合いから判断して、壮年程度と思われる。

性別：乳様突起と外後頭隆起の発達が弱いこと、長骨の骨体が比較的華奢な点など全体的印象は女性を思わせる。

4号人骨

保存状態：頭蓋は頭蓋底と右顎面、左右の側頭骨の一部を欠落して保存される。下頸は右下頸枝の関節突起の部分と左下頸枝が欠落する。歯は上顎左中切歯、左右犬歯、第1、第2小白歯、第1、第2大臼歯、右第3大臼歯、下顎左第1、第2小白歯、左右の第1大臼歯、右第2、第3大臼歯が保存される。上肢骨は左右の上腕骨の下半部、左尺骨の上半部が保存される。下肢骨は右において大腿骨、脛骨の遠位端、腓骨遠位端が欠落するものの比較的良好に保存される。左は大腿骨頭、大腿骨体部、脛骨体部の破片のみである。右距骨、足根骨、指骨が保存される。

年齢：頭蓋の主縫合の癒合の度合いと、歯の咬耗度からみて、壮年程度と思われる。

性別：眉弓、外後頭隆起の発達が弱いこと、大腿骨頭の大きさや、四肢長骨の骨体が比較的華奢なことから女性と推定される。

その他：前頭縫合が認められる（写真6-1）。確認される範囲では齶歯は認められない。

6号人骨

保存状態：頸椎1点、第5腰椎、右肋骨体1点、左距骨、右第5中手骨が保存される。

年齢：成人

性別：不明

9号人骨（写真2）

保存状態：頭蓋は顎面の一部を欠落するものの保存状態は良好である。体幹・四肢骨はほぼ完全。

年齢：頭蓋の主縫合の癒合の度合い、恥骨結合面の形状等から判断して、熟年程度と推定される。

性別：大坐骨切痕、恥骨下角の形状、大腿骨頭の大きさ、乳様突起、外後頭隆起の発達程度からみて、明らかに男性。

その他：前頭縫合が認められる。上顎左中・側切歯切縁が凹状に咬耗（写真6-2、3）。確認される範囲では齶歯は認められない。第5腰椎に脊椎分離症が認められた。（写真5-2）。

10号人骨

保存状態：頭蓋は頭蓋冠および下顎の破片と下顎右第2小白歯が保存される。上肢骨は左右の上腕骨体部下半、遠位端を欠く左尺骨、右尺骨体部、近位端を欠く右橈骨が保存される。下肢骨は左右の大腿骨体部、左右の膝蓋骨、左右の脛骨上半部、左腓骨の骨体部が保存される。右距骨、指骨が確認される。

年齢：確認される頭蓋の縫合の度合いから判断して、明らかに熟年段階には達していると思われる。

性別：骨の大きさと厚さからみると男性的である。

11号人骨

保存状態：頭蓋は前頭骨、左右の頭頂骨、側頭骨、後頭骨の一部を残すが、保存状態は不良であり計測是不可能である。下顎骨は右側の破片が残存する。歯は、上顎では右第2小白歯、第1大臼歯と左右の第3大臼歯以外はすべて保存される。下顎歯は第3大臼歯まですべて保存される。肋骨は断片的であるが、椎骨は腰椎が比較的良好に保存される。上肢骨は左側が比較的良好に保存され尺骨は完全であるが、上腕骨と橈骨は近位端を欠く。右側は鎖骨、上腕骨、橈骨の破片が残るのみである。下肢骨は左右の寛骨の一部、大腿骨の上半部、脛骨、腓骨の一部が保存される。

年齢：確認される範囲で四肢骨骨端の骨化が終了している点、下顎の第3大臼歯が既に崩出終了していることからみて未成熟個体でないことは明らかである。上顎、下顎とも歯の咬耗はほとんど進んでいないので、青年期から壮年期前半にかけての年齢段階にあったものと思われる。

性別：眉間の突出が弱く、大坐切痕が広く開いて、大腿骨頭が比較的華奢なことから判断して、女性と推定される。

その他：前頭縫合が認められる。左右の上顎中切歯に発達の良いシャベル型が認められる。齶触は認められない。

12号人骨（写真3）

保存状態：頭蓋は顔面の一部を欠落するもののほぼ完形。下顎もほぼ完全。歯は、上顎左側切歯、左右犬歯、第1小白歯、右第2小白歯、右第3大臼歯、下顎左中、側切歯、左右犬歯、左第2小白歯が保存される。体幹・四肢骨も総じて良好に保存される。

年齢：頭蓋の主縫合の癒合の度合い、恥骨結合面の形状等から判断して、熟年程度と推定される。

性別：頭骨の乳様突起、外後頭隆起、寛骨の大坐骨切痕、恥骨下角、大腿骨頭等の大きさと形状からみて明らかに男性。

その他：上顎、下顎とも大臼歯歯槽はほぼ完全に吸収、閉鎖している。下顎左中・側切歯が癒合している。確認される範囲では齶触は認められない。環椎の軸椎歯突起との関節面、及び第1～5腰椎に加齢的な骨増殖が見られる。上顎左側切歯に特異な咬耗が認められる（写真6-4）。

14号人骨

保存状態：頭蓋は頭蓋冠と上顎骨が保存される。下顎は右下顎枝を欠落するものの比較的保存状態は良好である。歯は、上顎右犬歯、左第1、第2小白歯、左右の第3大臼歯以外は全て保存される。体幹、四肢骨は長骨を中心比較的良好に保存される。

年齢：頭蓋の縫合の癒合度、歯の咬耗度、四肢長骨関節面の形状から総合的に判断すると壮年程度と思われる。

性別：大坐骨切痕の形状、大腿骨頭の大きさ等から判断して男性と推定される。

その他：確認される範囲では齶触は認められない。右脛骨内果後面の内果溝が著しく発達する（写真5-3）。

15号人骨

保存状態：頭蓋は左頭頂骨、後頭骨を中心に保存されるが、顔面、頭蓋底部の破損が著しく計測は不可能である。歯は上顎右犬歯、第1、第2小白歯、第3大臼歯、下顎左中切歯、右犬歯以外は全て保存される。四肢骨は長骨を中心に比較的良好に保存される。

年齢：遺存する頭蓋骨の主縫合に癒合がみられないこと、歯の咬耗が僅であることなどから判断して、青年～壮年期前半と思われる。

性別：大腿骨頭の大きさ等から見て、男性と思われるが、女性である可能性も否定できない。

その他：上顎左中切歯に僅かながら特異な磨耗が認められる。確認される範囲では齶歯は認められない。

16号人骨

保存状態：頭蓋は頭蓋底、顔面、左側頭骨を欠落する。歯は上顎左第1小白歯、右第1～第3大臼歯、下顎右第1～第3大臼歯以外は全て保存される。上肢骨は左右の上腕骨体、尺骨体中央部、右桡骨体下半部が保存される。下肢骨は左右大腿骨、脛骨の骨体部が保存される。

年齢：頭蓋主縫合の癒合の度合い、歯の咬耗度から判断して、壮・熟年程度と思われる。

性別：眉弓、乳様突起と外後頭隆起の形状と大きさから男性と判定される。

その他：確認される範囲では齶歯は認められない。

18号人骨

保存状態：頭蓋は後頭骨の後頭鱗部を中心に左右の側頭骨乳様突起部片、頭頂骨片が保存される。下顎は左右の下顎枝が欠落するものの下顎体は比較的良好に保存される。歯は上顎右側切歯、犬歯、左右の第1、第2小白歯、下顎左中、側切歯、第3大臼歯以外全て保存される。下肢骨は概して保存状態不良で、上肢は右上腕骨遠位部、尺骨近位端、左桡骨近位端、下肢では左右の大腿骨体、右舟状骨等が確認される。

年齢：確認できる頭蓋主縫合の癒合の度合いと歯の咬耗度からみて、壮年ないし熟年と思われる。

性別：乳様突起の発達が弱いこと、大腿骨体が比較的華奢な点など全体的印象は女性を思わせる。

その他：上顎右中切歯に軽度の特異な磨耗が認められる。確認される範囲では齶歯は認められない。

19号人骨

保存状態：頭蓋骨片、四肢骨片、遊離歯1本（上顎右第1小白歯）のみ保存される。

年齢：成人

性別：不明

20号人骨

保存状態：頭蓋は保存状態不良で復元・計測不可能。歯は上顎左右中、側切歯、犬歯、第1小白歯、左第2小白歯、下顎左中切歯、左右側切歯、左犬歯、左第1小白歯、左右第2小白歯、左右第1～第3大臼歯が保存される。下肢骨も保存状態不良で、左右の大腿骨体部が確認されるが、後は細片化している。

年齢：成人

性別：大腿骨体の太さからみると、どちらかといえば男性的。

その他：上顎左中切歯および右側切歯、下顎左中切歯、左右側切歯に特異な磨耗が認められる。確認される範囲では齶歫は認められない。

21号人骨

保存状態：頭蓋骨と四肢骨の破片である。

年齢：成人

性別：遺存する大腿骨頭の破片は頑強で男性的であるが、これだけで断定はできない。

22号人骨

保存状態：頭蓋は顔面、頭蓋底を欠落し保存されるが、変形が著しく計測は不可能。下顎は下顎体の正中部が保存される。歯は上顎右犬歯、第1、第2、第3大臼歯、下顎左中切歯、右第2小白歯、第1、第2大臼歯、左右の大臼歯以外が保存される。体幹・四肢骨は概して保存状態不良だが、環椎、胸椎、腰椎、左上腕骨体下半等が確認される。

年齢：頭蓋主縫合の癒合の度合い等から判断して、熟年以上と思われる。

性別：乳様突起の発達程度等から見て、女性と判定される。

その他：上顎左第1、第2、第3大臼歯に齶歫が認められる。

23号人骨

保存状態：左足母指基節骨と第1尾椎のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

27号人骨

保存状態：遊離歯1本（下顎左第1大臼歯）のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

29号人骨

保存状態：頭蓋骨片、上腕骨、脛骨体の破片のみが保存される。

年齢：成人

性別：脛骨体が頑強で、どちらかといえば男性的。

33号人骨

保存状態：右大腿骨体と右脛骨体の破片が保存される。

年齢：成人

性別：大腿骨の大きさと太さからみて、おそらく男性であろう。

34号人骨

保存状態：下顎骨と四肢骨の破片が保存される。

年齢：成人

性別：不明

35号人骨

保存状態：遊離歯 4 本（上顎右中切歯、左犬歯、左第 1 小臼歯、右第 2 大臼歯）と四肢骨の破片のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

36号人骨（写真 4）

保存状態：頭蓋は顔面の一部を欠落するものの保存状態は良好。下顎は完形。歯は上顎右側切歯、下顎右側切歯、左右犬歯、左第 1 小臼歯、左右第 1 、第 2 小臼歯、右第 1 大臼歯以外は保存される。上下とも第 3 大臼歯は未萌出である。体幹・四肢骨は左右の上腕骨頭、左尺骨上半部、左橈骨下半部、左脛骨近位端等を欠落するものの保存状態は良好である。

年齢：頭蓋主縫合の癒合の度合い、体幹・四肢骨の関節面の形状から判断して、熟年程度と思われる。

性別：寛骨大坐骨切痕の形状、および頭蓋の眉弓、乳様突起、外後頭隆起の形状と発達程度から見て、女性と判断される。

その他：下顎の左第 1 、第 2 小臼歯、右第 2 小臼歯、右第 1 大臼歯は生前に脱落し歯槽閉鎖。下顎の左右の中切歯の咬耗が、上顎中切歯に比較して著しく進んでいる。第 5 腰椎の上下の椎体の上面および下面に加齢的な骨増殖が見られる（写真 5-1）。

37号人骨

保存状態：頭蓋は左側頭骨、上顎骨、下顎骨の破片が残存するが、残存歯からみると頭蓋は 3 個体分からなることが分かる。このうち四肢骨とともに主体をなすのは右の上顎骨とそれに植立する歯および遊離した左の上顎歯であろう。主体となる人骨の保存状態は、頭蓋において顔面の一部（左上顎骨）を中心いて保存される。歯は左右の上顎第 1 、第 2 小臼歯、第 1 大臼歯、左第 2 、第 3 大臼歯が保存される。体幹は頸椎 1 点、胸椎 2 点、腰椎 2 点、肋骨片が保存される。四肢骨は左上腕骨が完形、左尺骨上半部、恥骨枝を除いた左寛骨、左膝蓋骨等、左側が比較的良好に保存される。

年齢：保存状態の良い左上腕骨の骨端は全て化骨が終了しており、成人段階に達しているが、加齢的骨増殖がまったく観察されない。また歯の咬耗状態からみても壮年程度と思われる。

性別：大坐骨切痕の形状から見て女性と判定される。

その他：確認される範囲では齶歯は認められない。

42号人骨

保存状態：完形に近い第 7 頸椎と胸椎椎体 1 個、及び右第 5 中足骨、左第 3 中足骨が保存される。

年齢：成人

性別：不明

43号人骨

保存状態：寛骨の断片のみ。

年齢：不明

性別：不明

44号人骨

保存状態：遊離歯 7 本（上顎左犬歯、上顎左第 2 小臼歯、第 1 大臼歯、第 2 大臼歯、下顎右中、側切歯、およびほとんど歯冠部が擦り減った下顎右側切歯と思われる歯根が 1 本）と左右の膝蓋骨と手根骨、足根骨、指骨の一部が保存される。

年齢：成人

性別：不明

その他：下顎右側切歯に特異な磨耗が認められる。確認される範囲では齶歯は認められない。

45号人骨

保存状態：左右頭頂骨、前頭骨と顔面の左上半が保存される。

年齢：成人

性別：顔面骨はどちらかといえば女性的。

46号人骨

保存状態：遊離歯 1 本（上顎左中切歯）と四肢骨片のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

47号人骨

保存状態：骨細片のみが保存される。

年齢：不明

性別：不明

49号人骨

保存状態：頭蓋は左右の頭頂骨、後頭骨、左右の側頭骨を中心に保存されるが顔面を欠落する。下顎は左右の関節突起を欠落して保存される。歯は下顎右犬歯、左第 2 小臼歯、第 1 大臼歯が保存される。体幹・四肢骨において、肋骨、椎骨は保存状態不良である。寛骨は左右とも寛骨臼、大坐骨切痕の部分を中心に保存される。上肢は右上腕が骨両骨端、左上腕骨上半、左尺骨上半、右尺骨両骨端、左右の橈骨の遠位部が欠落して保存される。下肢は右大腿骨頭、左大腿骨遠位端、右脛骨近位端、左脛骨上半部を欠落して保

存される。

年齢：頭蓋主縫合の癒合の度合いから判断して、熟年程度と思われる。

性別：頭蓋および寛骨の大坐骨切痕の形状から見て男性と判断される。

その他：下顎右第1大臼歯部は歯槽が半分閉鎖、左右第2、第3大臼歯部はほとんど閉鎖している。確認される範囲では齶歯は認められない。

51号人骨

保存状態：遊離歯1本（上顎左犬歯）と四肢骨断片のみが保存される。

年齢：成人

性別：上顎犬歯は大きく、どちらかといえば男性的。

54号人骨

保存状態：四肢骨片のみが保存される。

年齢：成人と思われる。

性別：不明

56号人骨

保存状態：遊離歯5本（上顎右犬歯、下顎右中切歯、左犬歯、右第2、第3大臼歯）と頭蓋、四肢骨片のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

その他：下顎右第1大臼歯に齶歯が認められる。また上顎右犬歯は近心から遠心に向かって約45°の急傾斜な咬耗面を示し、遠心側はエナメル質部分が凹状になっている。

57号人骨

保存状態：遊離歯1本（上顎左犬歯）と四肢骨片のみが保存される。

年齢：成人

性別：不明

59号人骨

保存状態：四肢骨片のみが保存される。

年齢：不明

性別：不明

60号人骨

保存状態：遊離歯6本（上顎左中切歯、右第1小白歯、左第2小白歯、右第1大臼歯、左第2大臼歯、下顎第1小白歯）と四肢骨片が保存される。

年齢：成人

性別：不明

その他：確認される範囲では齶歫は認められない。

61号人骨

保存状態：遊離歯 8 本（上顎右中切歯、左側切歯、右第 1 大臼歯、右第 3 大臼歯、下顎右側切歯、左第 1 小臼歯、右第 2 大臼歯、左第 2 大臼歯）と手・足根骨、指骨、及び四肢骨片が保存される。

年齢：成人

性別：不明

その他：確認される範囲では齶歫は認められない。

64号人骨

保存状態：骨細片のみが保存される。

年齢：不明

性別：不明

65号人骨

保存状態：左上顎大臼歯冠 1 点、頸椎 1 点のほかに手根・足根骨および指骨の一部が保存される。

年齢：熟年程度か。

性別：不明

66号人骨

保存状態：遊離歯 11 本（上顎左右中切歯、右側切歯、犬歯、第 2 小臼歯、第 2 大臼歯、下顎左側切歯、犬歯、左第 1、第 2 大臼歯、下顎小白歯歯根）、頸椎 1 点、指骨 1 点、右第 1 楔状骨、左第 2 中足骨、その他、骨細片が保存される。

年齢：成人

性別：不明

その他：上顎右中切歯に特異な磨耗が認められる。齶歫が上顎右中切歯、下顎小白歯歯根、下顎右第 1 大臼歯の 3 本にみられる。

人骨の年齢と性別の構成

人骨の推定年齢を未成年、成人 3 段階〔壮年（20—40才）、熟年（40—60才）、老年（60才以上）〕と分類した場合、これらにあてはめることのできる 37 個体において、年齢構成は未成年 0 個体、成人 37 個体。そのうち成人 3 段階に明確に分類されるのは、壮年 6、熟年 7 個体であり、未成年と老年が確認されていない。東京都江東区霊光院出土人骨による江戸時代人の平均死亡年齢は男性 45.5 歳、女性 40.6 歳とされており（菱沼 1978）、本遺跡における老年が 0 と云う数字は許容範囲内と思われる。一方、幼小児の死亡率の高かった当時において、本遺跡で未成年者が確認されなかつたと云うことは注目すべきことと思われる。

本遺跡出土の人骨の保存状態からみて、一般的に遺存状態の悪い幼小児骨と云えども全てが消滅するとは考えられず、発掘区域外に幼小児骨が埋葬された可能性を想定できる。

男女の比については、性別が推定できた21個体中、男性11体、女性10体であり、ほぼ1:1で片寄りはみられない。江戸府内では男性が極端に多く出土する例が多いが、一般的に農村地帯から出土する人骨は男女同数に近く、江戸時代の農村型とみなされる（森本 1991）。本遺跡も同様の傾向が窺える。

頭蓋骨の形態について

表1に示したように主要計測値が満足に計測できた個体は極めて少ない。顔面が比較的良く保存されている2号（写真1）、9号（写真2）、12号（写真3）、36号人骨（写真4）でみると、全体的に顔面は平坦で、顎が低く広い低広顎である。これらの特徴は徳川将軍家にみられるような、顎が狭く、鼻が高いという貴族的形質（鈴木 1985）ではなく、当時の庶民的な形質に属するものと思われる。

身長推定

計測可能な四肢長骨から、ピアソンの推定法により男性5体、女性4体の身長を推定できた。

男性	2号人骨（5式平均）	161.3cm
	9号人骨（2式平均）	155.4cm
	12号人骨（6式両均）	152.8cm 平均156.4cm
	14号人骨（6式平均）	160.5cm
	15号人骨（6式平均）	151.8cm
女性	1号人骨（1式）	147.4cm
	36号人骨（5式平均）	152.0cm 平均147.9cm
	37号人骨（1式）	144.2cm

従って男性で平均156.4cm、女性で147.9cmとなり、他の江戸時代人（男性156cm、女性147cm、平本 1972）とほぼ同様の傾向を示す。

病変

加齢的やものと思われる骨増殖が12号人骨、36号人骨の椎骨（写真5-1）に認められた。

齶歯は、欠落歯が多く正確な数は不明だが、少なくとも22、56、66号人骨の3例に7本に認められた。本遺跡から墓の帰属が明確な308本の歯が出土しており、齶歯率は2.3%であり、同時期の江戸府内出土人骨20.4%（佐倉 1964）よりもかなり低い数値である。農村地帯からの出土人骨は齶歯率が低い傾向にあり、当時の都市と農村の食生活の違いによるものと考えられている（佐倉 1985）。本遺跡も同様の傾向を示すものと思われる。

9号人骨第5腰椎に脊椎分離症が認められた（写真5-2）。脊椎分離症とは椎体と椎弓が分離しているもので、本例では両側の関節突起部でおこり、もっとも一般的な症例である。これの出現頻度は日本人において4~7%で、男性が女性のほぼ2倍で発生し、80%以上が第5腰椎におこる。この脊椎分離症は脊

椎すべり症の原因になるという（森崎 1979）。

14号人骨の右脛骨内果後面の後脛骨筋が通る内果溝が幅8mm、長さ35mm、深さ4mmに著しく発達する。これは変形性関節症の一端によるものと思われる（写真5-3）。

いくつかの非計測的形質について

前頭縫合

前頭骨の残る14個体中、3個体（4号：写真6-1、9号：写真2-1、11号）21.5%に前頭縫合がみられた。森田（1950）によれば現代関東地方人における出現率は5.4%である。資料数が少ないので単純には比較できないが、本遺跡はこの形質の出現頻度が高く、その成因はこの集団が血縁的に近いものによる可能性が考えられる。この可能性は推測の域を出ない程度であるが、この3個体いずれも西側の早桶群に位置していて、9号、11号が隣接していることは興味深い事実である。

横後頭隆起

本遺跡の出土人骨の中には、他の歴史時代や現代人にはあまりみられない程に発達した横後頭隆起がみられた。横後頭隆起とは一般的に上項線と最上項線間に発達した隆起である。ホモ・エレクストス等に著しく発達したものが観察されることから、古代型特徴の一つと考えられるが、現代人にも発達の程度は弱いながらもみられることがある。本報告では横後頭隆起を発達の段階によって以下の3つに分類した。

①軽度。外後頭隆起部を中心に僅かな隆起がみられる（写真7-1）。

②中度。はっきりとした隆起が後頭骨の半分以上に渡ってみられる。

③強度。隆起が乳様突起まで達して、特に外後頭隆起部は著しく発達している（写真7-2）。

後頭部が観察された13個体において4例（4号、18号、29号、36号）が①型に、2例（10号、14号）が②型、4例（2号、9号、12号、16号）が③型に分類され、横後頭隆起がみられないのは僅か2例で全体の15%でしかない。いずれも女性である。また、③型は4例とも全て男性であり、横後頭隆起は特に男性に発達する傾向が強い。分類基準が同一ではないが、赤堀（1933）によれば20才以上の成人男性で約30%、成人女性で約42%にみられることから、観察した全ての男性に横後頭隆起が発達する本遺跡は、他の現代日本人よりも強くこの形質を形成させる要因があったと思われる。しかしながら、それが遺伝的によるものなのか、機能的によるもののか、環境的によるもののか、現時点では明らかにすることはできない。

切歯の特異磨耗について

いくつかの個体が切歯において、通常の咬耗とは異なり切縁の一部の磨耗が進んでいるものが観察された。僅に認められるものを含めて集計すると9、12、15、18、20、22、44、66号人骨の8個体にのぼる。切歯が一本でも残っている17個体の半数近くに認められ、かなり頻度の高いものである。特異磨耗の観察された歯は12本で、内訳は上顎右中切歯1本、左中切歯4本、右側切歯1本、左側切歯3本、下顎左中切歯1本、右側切歯1本、左側切歯1本であり、上顎左中・側切歯で半数以上を占める。特異磨耗の形態については、前方からみた切縁の形態によって凹型（写真6-2）と片寄り型（写真6-3）に大別できる。

残念ながら欠損歯が多いとの歯槽部の遺存状態が良好なものが少ないため、これらの磨耗が歯の噛み合わせにおいてどの様な役割を果たしていたのかを考察するのは容易ではない。本報告においては比較的状

態の良い9、15、20号人骨で検討してみる。9号人骨においては右の切歯4本とも欠損しているので左側しか確認できない。上顎中・側切歯の2本とも中央部にかなりはっきりとした凹型の磨耗が発達してみるが、下顎中・側切歯は通常の水平に咬耗が進んでおり、線状に象牙質があらわれている。15号人骨においては下顎左中切歯が欠損する。特異磨耗は上顎左側切歯近心側に僅かに凹型がみられる。対咬する下顎左側切歯は、特異磨耗には分類されないが、遠心方向に斜めに咬耗が進んでいる。20号人骨においては下顎右中切歯が欠損するものの他の7本は遺存する。特異磨耗は上顎では左中切歯近心部に片寄り型、右側切歯近心部に片寄り型、下顎では左中切歯近心部に凹型、左側切歯近心部に凹型、右側切歯遠心部に凹型が観察される。従って、9号人骨や20号人骨の上顎左中切歯の様に対向歯に同じような磨耗がみられないことや、20号人骨上顎左中切歯の様に近心部には半円状の磨耗が発達しているが、これと隣接する右中切歯近心部には磨耗がみられない点などから、この様な特異磨耗の成因には、キセルの吸い口等の硬い円形の金属を習慣的に同一箇所にくわえた結果によるものとは考えにくい。おそらく切歯の一箇所に集中的に摩擦を加えて形成されたものと思われる。

この様な、異常磨耗については既に森本岩太郎（1984、1992、1995）が報告している。関東、甲信越地方の飛鳥時代から室町時代の限られた女性だけにこの様な磨耗が見られることと、この磨耗の分布が上質な苧麻布の産地と重なり合うことから、森本は、この磨耗の原因を、苧積み作業の際、切歯を道具的に使用した結果によるものだと考察している。苧麻は、木綿が普及する以前に一般に衣服に用いられたものである。室町時代末期に木綿が日本に伝えられたが、急速に日本各地に木綿栽培が広がり、江戸時代中期頃には、東北地方以北を除いて全国的に普及していた。東北地方以北に普及が遅れたのは、當時木綿の栽培の北限が東北地方南部までであり、自給自足の生活の度合いが高かったと思われる東北地方農村には商品としての木綿が流通しにくかったためと思われる。よって本遺跡の例が苧積み作業に因るものと推察しても矛盾はしないが、森本の報告によれば、この様な磨耗は右側中切歯に多く、しかも女性のみに観察されるにされているが、本遺跡においては性別が推定できた異常磨耗を持つ人骨5体のうち半数以上の3体が男性であり、女性だけに見られる現象ではないことと、上顎左切歯に多くみられるなど相違点もある。現時点において、近世に多賀城市周辺で麻が栽培されていた文献記録は確認されていない。また、現代において、大工職人や美容師のように釘やピンを口にくわえる職業の人々にも特異磨耗がみられると云う（津田 1952 1954）。従って、本遺跡の特異な磨耗は苧積み作業による可能性が高いものの、他の要因による可能性をも考慮してみる必要もあるものと思われる。

まとめ

大日北遺跡出土人骨は男性11体、女性10体、不明21体である。年齢構成は成人37個体のうち年齢を明確にすことができたのは、壮年6個体、熟年7個体であり、未成人骨は検出されなかった。推定身長は男性平均156.4cm、女性平均147.9cmで、他の江戸時代人と大差がない。男女比が1：1に近いことや齶歯率が低い点など從来から指摘されている江戸時代農村型に一致する傾向にある。被葬者を特定し得る痕跡等は確認できなかったが、特異な咬耗が8個体に認められた。その成因について解明することは今後の課題である。

謝辞：本稿の作製に当たり、貴重な御助言を賜った日本赤十字看護大学森本岩太郎先生、人骨の復元、写

真撮影第で御協力頂いた、北里大学医学部学生田中健太郎氏、東北大学医学部解剖学第1講座末田輝子技官に厚くお礼を申し上げたい。

参考文献

- AKABORI, E. 1933 Crania Nipponica Recentia. Jpa. J. Med. Sci. Sectionl Anatomy 4 61—315
佐倉明 1964 日本人における歯齒頻度の時代的推移 人類学雑誌 71—3 153—177
佐倉明 1985 お寺山遺跡出土の人骨と歯 お寺山遺跡 241—262 鶴ヶ島町教育委員会
鈴木尚 1985 骨は語る徳川将軍家・大名家の人々 東京大学出版会
津田稔 1952 特理的障害による歯牙の職業性疾患(第1報) 四国医誌 3—4 42—45
津田稔 1952 特理的障害による歯牙の職業性疾患に関する研究(第2報) 四国医誌 5—4 29—33
菱沼從 1978 寿命の限界をさぐる 東洋経済新報社
平本嘉助 1972 總文時代から現代に至る関東人身長の時代的変化 人類学雑誌 80 221—236
Martin, R. and Saller K. 1957 Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. G. Fischer, Stuttgart.
森崎直木 1979 脊椎分離・すべり症 新整形外科学 上巻 548—577 医学書院
森田茂 1950 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究 慎恵医科大学大解剖学業績集 3 1—59
森本岩太郎 1995 苦積み作業によると思われる飛鳥・室町時代女性切歯の磨耗 Anthropological Science 103—5 447—455
森本岩太郎 平田和明 1991 町田市広袴・向遺跡出土人骨について 真光寺・広袴遺跡群V 鶴川第2地区遺跡調査会 513—543
森本岩太郎 平田和明 1992 上の山遺跡出土人骨について 上の山遺跡 横浜市埋蔵文化財センター 183—195
森本岩太郎 吉田俊爾 1984 横浜市熊ヶ谷横穴墓出土人骨について 横浜市奈良地区発掘調査報告書2 熊ヶ谷横穴墓調査団・奈良地区遺跡調査団 165—168

表1 人骨計測値

	1号 女性	2号 男性	4号 女性	9号 男性	10号 女性	11号 男性	12号 女性	14号 男性	15号 男性?	36号 女性	37号 女性	49号 男性
1. 頸蓋最大長	168	186	180	178	179		195			171		
5. 頸蓋基底長		102		103								
8. 頸蓋最大幅	137	146		140			148			135		149
9. 最小前頭幅		95	93	98			99			87		
17. バジオンーブレグマ高		139		141			139			136		
40. 顎長		96					90			98		
45. 頸骨弓幅										125		
46. 中顎幅								84		97		
48. 上顎高			72					67		68		
51. 眼窩幅 (右)			36							33		
52. 眼窩高 (右)			32							36		
54. 鼻幅			26							25		
55. 鼻高		49	52					49			52	
70. 下顎枝高 (右)		71		63			63			53		
(左)		68		64			61			57		
71. 下顎枝幅 (右)		35		34			40			31		
(左)		35		33			40			30		
1. 頸骨最大長 (右)									306	287		
(左)		155							290	284	264	
1. 上腕骨最大長 (右)									22	21	19	
(左)			22	20					23	21		
6. 上腕骨中央最大径 (右)										18		
(左)			22	20						18		
1. 尺骨最大長 (右)				19	19			18	19	18		
(左)			18	19							18	
1. 様骨最大長 (右)	198		238	221								
(左)			236	214							218	
1. 尺骨最大長 (右)			257	230					237	226	233	
(左)			257	236			219					
1. 大腿骨最大長 (右)									434	382	401	
(左)			429						381	382	404	
6. 大腿骨中央矢状径 (右)	22.8	30		29	25				27	24	27	
(左)	22.5	30	27	29	24				27	27	25	28
7. 大腿骨中央横径 (右)	22.8	27		26	27				29	24	26	
(左)	24.6	25	25	26	27				26	29	23.5	26
1. 脛骨最大長 (右)			341	311					313	302	329	
(左)				312					313			
8. 脛骨骨体中央矢状径 (右)		29	23	26					31	26	24	26
(左)		29		24					31	28		25
9. 脛骨骨体中央横径 (右)		28	19	20					21	19	18	19
(左)		29		21					21	20		19
1. 腓骨最大長 (右)			345	306					309	335	317	
(左)									308			

(註) 番号はマルチ L による

(mm)

表2 頭骨の形態小要異

Variants	1号人骨	2号人骨	4号人骨	9号人骨	12号人骨	36号人骨
	R.L.	R.L.	R.L.	R.L.	R.L.	R.L.
Metopism	0	0	1	1	0	0
Supraorbital nerve groove	0 0	0 0	0 1	1 1	0 0	1 1
Supraorbital foramen	/ /	/ 0	1 0	0 1	/ 0	0 0
Ossicle at the lambda	0	0	0	1	0	0
Biasteric suture vestige	0 /	0 0	/ /	0 0	0 0	0 0
Asterionic bone	0 /	0 0	/ /	0 0	0 0	0 0
Occipito-mastoid wormians	/ /	0 0	/ /	0 0	0 0	1 0
Parietal notch bone	0 /	0 0	/ /	0 1	0 0	1 0
Condylar canal patent	/ /	0 0	/ /	0 0	1 0	1 0
Precondylar tubercle	/ /	0 0	/ /	0 0	0 0	0 0
Paracondylar process	/ /	0 0	/ /	0 0	0 /	0 0
Hypoglossal canal bridging	/ /	0 0	/ /	0 0	1 0	0 0
Foramen of HUSCHKE	/ /	0 0	/ /	0 0	0 0	0 0
For. ovale incomplete	/ /	0 0	/ /	1 0	0 0	0 0
Foramen of VESALIUS	/ /	0 1	/ /	0 0	0 /	1 0
Pterygo-spinous foramen	/ /	0 0	/ /	0 0	0 0	0 0
Medial palatine canal	/ /	1 1	0 0	/ /	/ /	0 0
Transv.zygomatic suture vestige	/ /	0 /	/ /	/ /	0 0	0 0
Clinoid bridging	/ /	? 0	/ /	/ /	/ /	0 0
Mylohyoid bridging	/ 0	0 0	0 /	0 0	0 0	0 0
Jugular foramen bridging	/ /	0 0	/ /	0 0	0 ?	0 0
Sagittal groove left	0	0	0	0	0	1

1：あり 0：なし /：不明

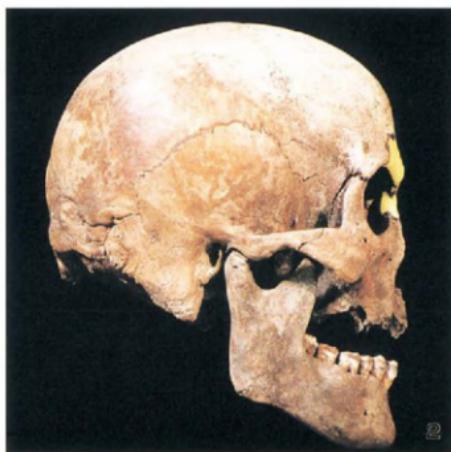
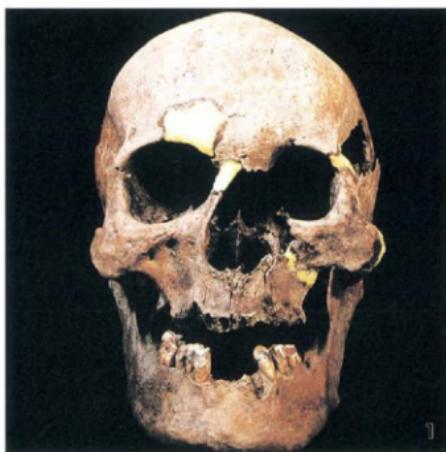
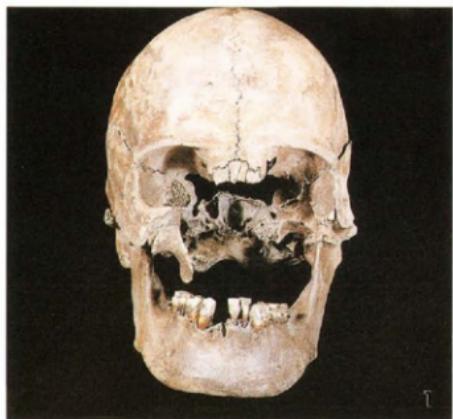
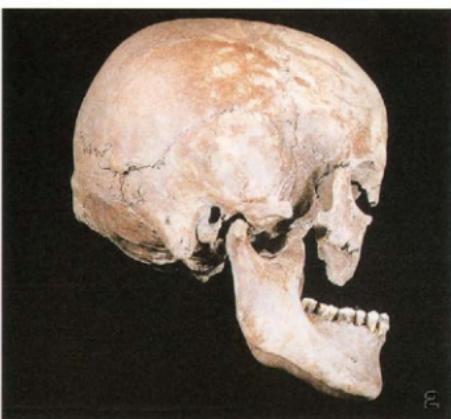


写真1 2号人骨



1



2



3



4

写真2 9号人骨

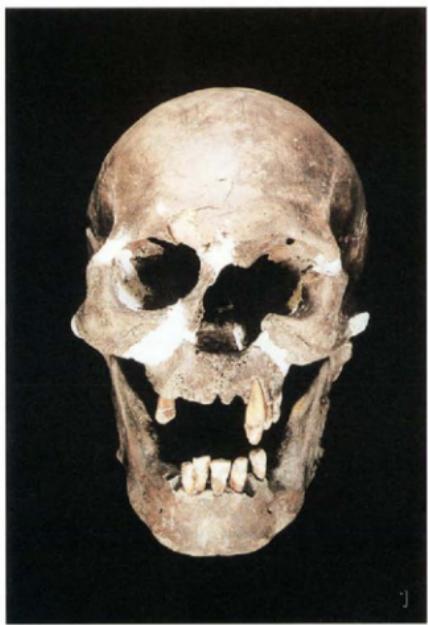


写真3 12号人骨



1



2

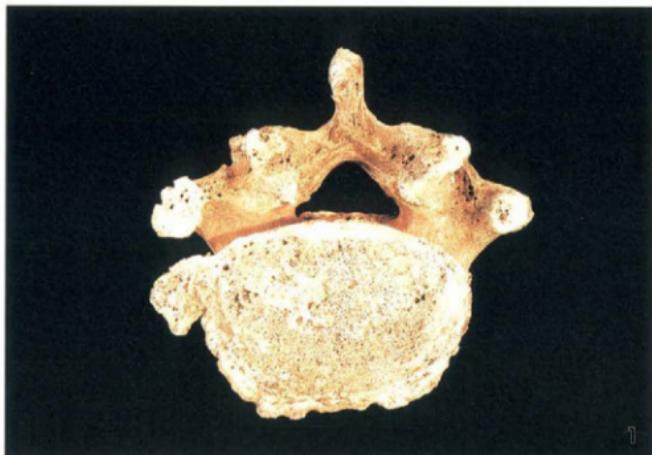


3

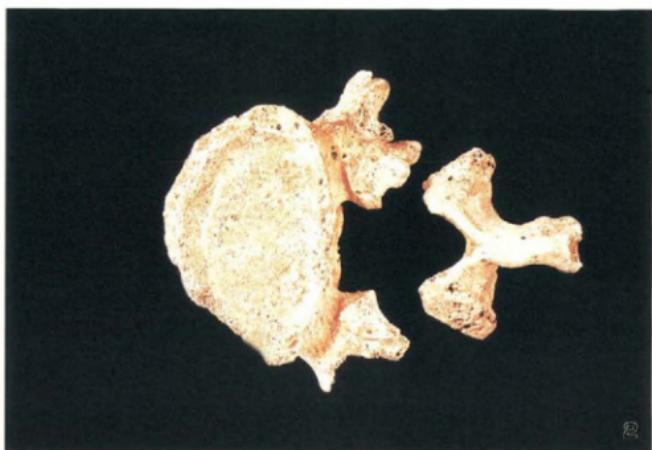


4

写真4 36号人骨



1



2



3

写真5 1. 骨増殖 (36号人骨) 2. 脊椎分離症 (9号人骨) 3. 变形关节症 (14号人骨)



写真6 1. 前頭縫合（4号人骨） 2. 特異磨耗凹型（9号人骨、脣側）
3. 特異磨耗凹型（9号人骨、舌側） 4. 特異磨耗片寄り型（12号人骨）

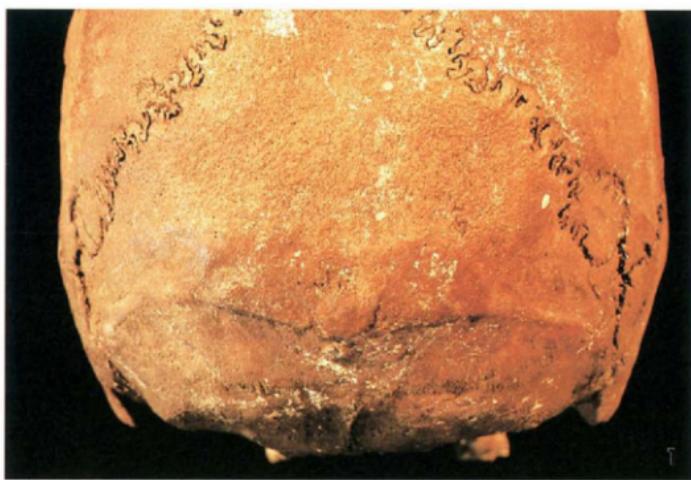


写真7 1. 横後頸隆起①型 (36号人骨) 2. 横後頸隆起②型 (12号人骨)

錢 貨 拓 本 図

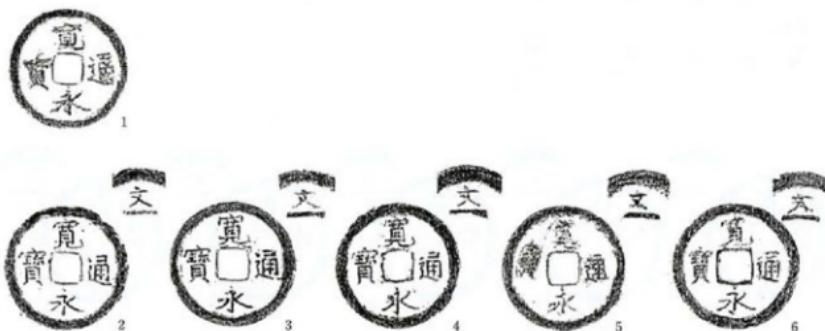
(S : 1/1)



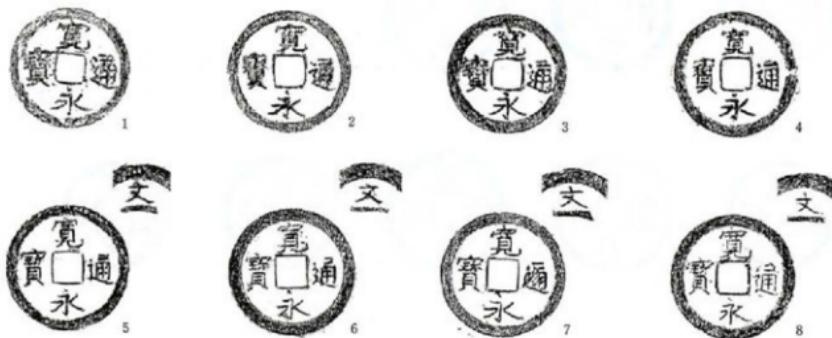
2号墓



3号墓



4号墓

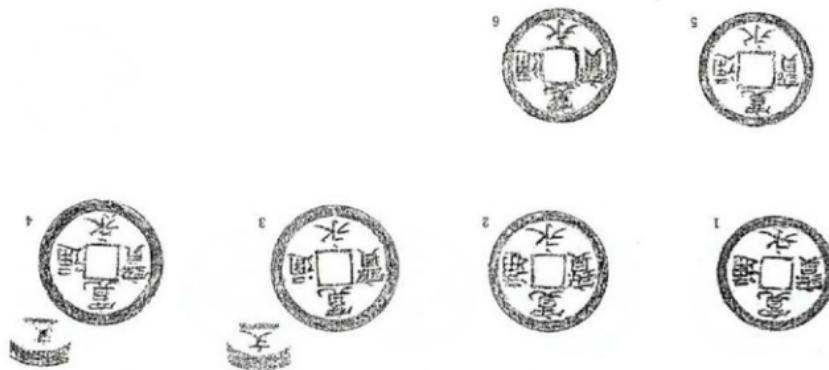


5号墓

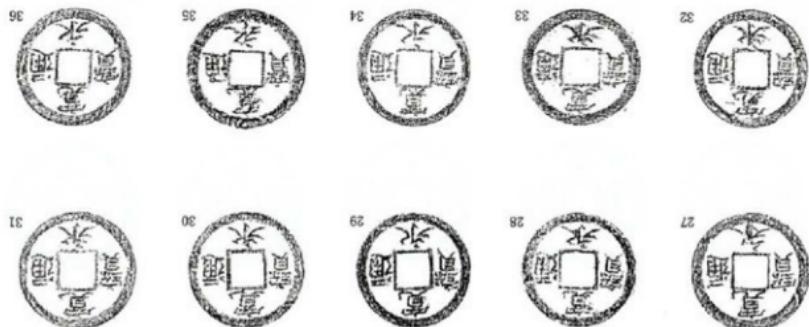


7号墓





10 号 章



11号墓



13号墓



14号墓





13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70

	71
	72
	73
	74
	75
	76
	77
	78
	79
	80
	81
	82
	83
	84
	85
	86
	87
	88
	89
	90
	91
	92
	93
	94
	95
	96
	97
	98
	99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136

15号墓



1



2



3



4



5



6



7



8



9



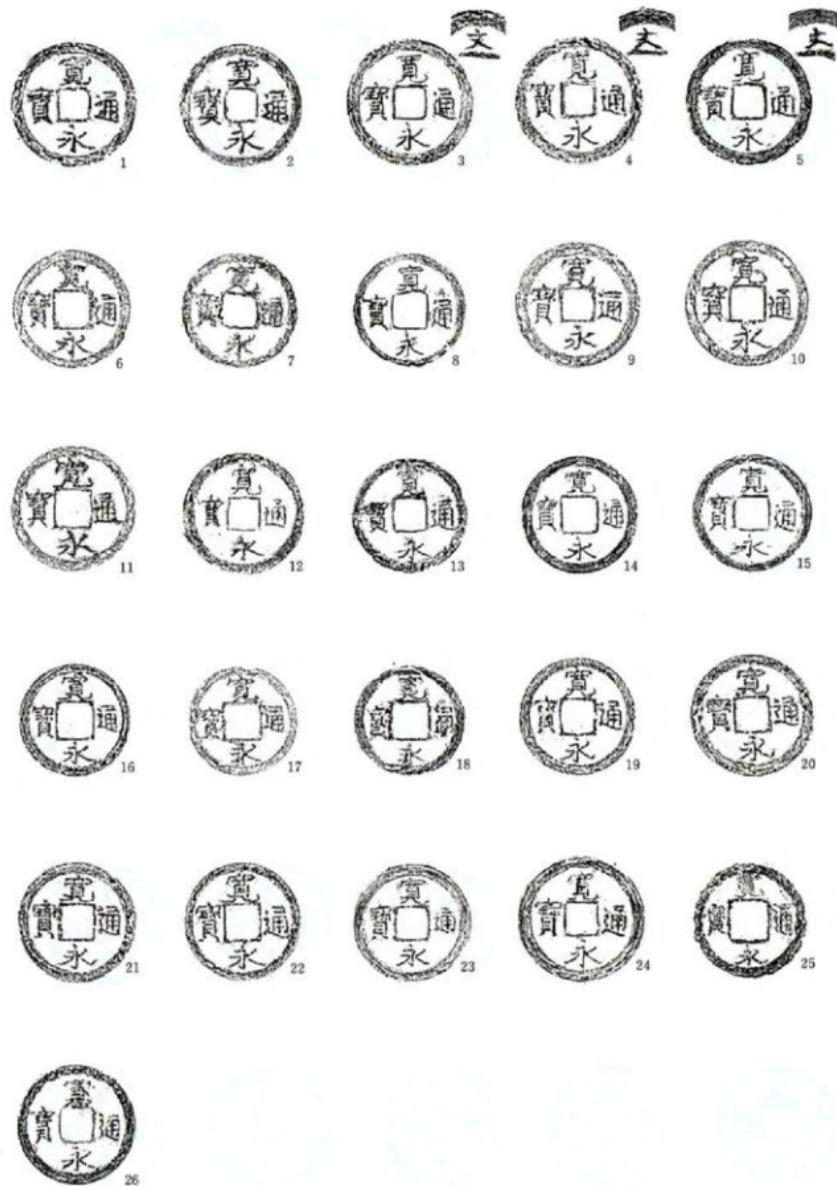
10



11



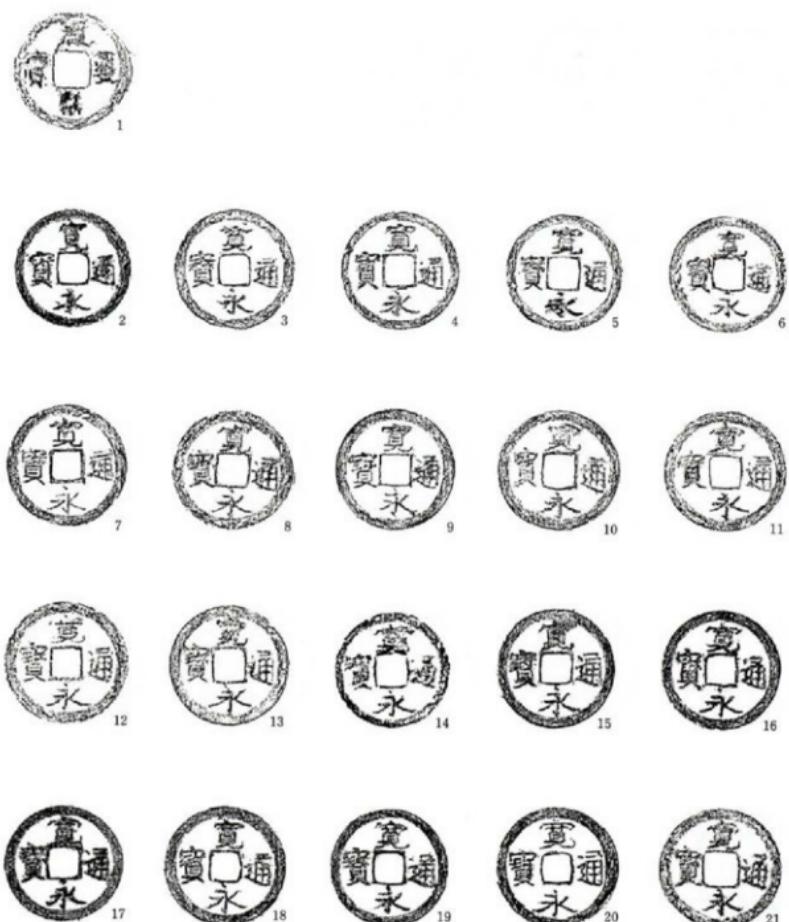
12



17号墓



18号墓





22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57

19号墓



1



2



3



4



5



6



7



8



9

20号墓



1



2



3



4

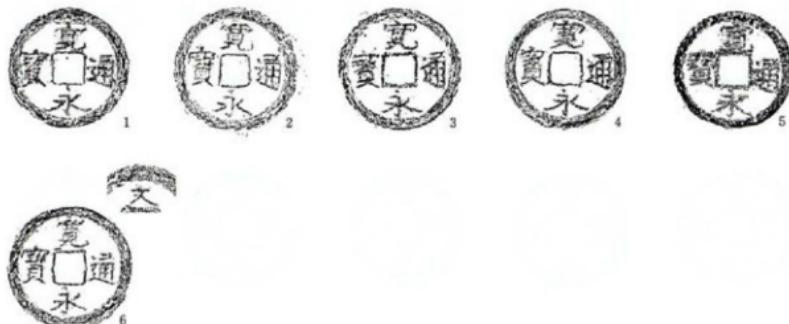


5

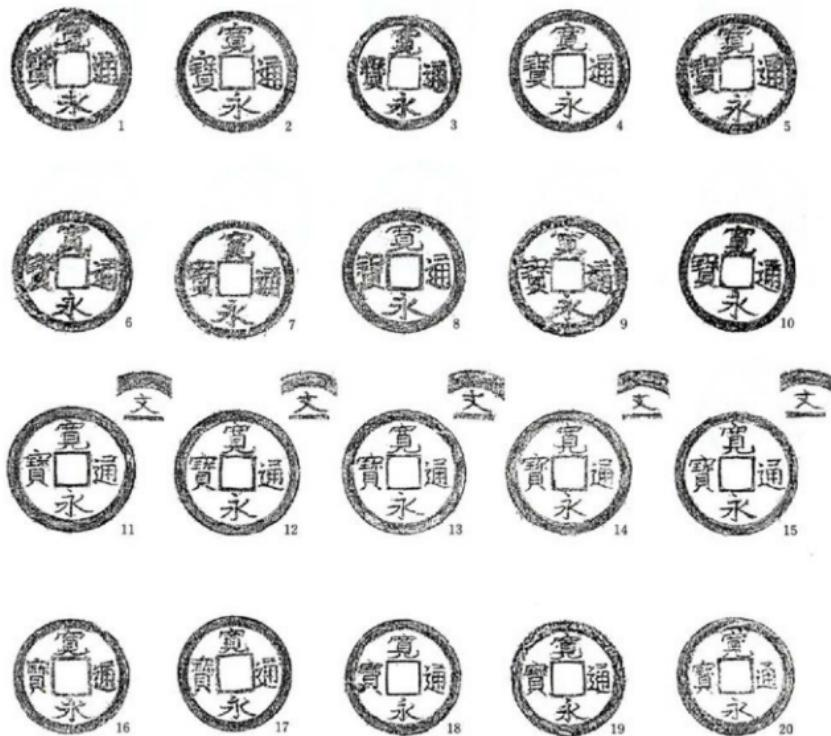


6

21号墓



22号墓





21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41

23号墓



27号墓



32号墓



36号墓



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28







98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112

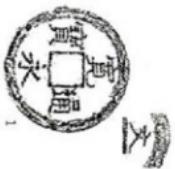


113

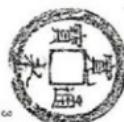
37 号 墓



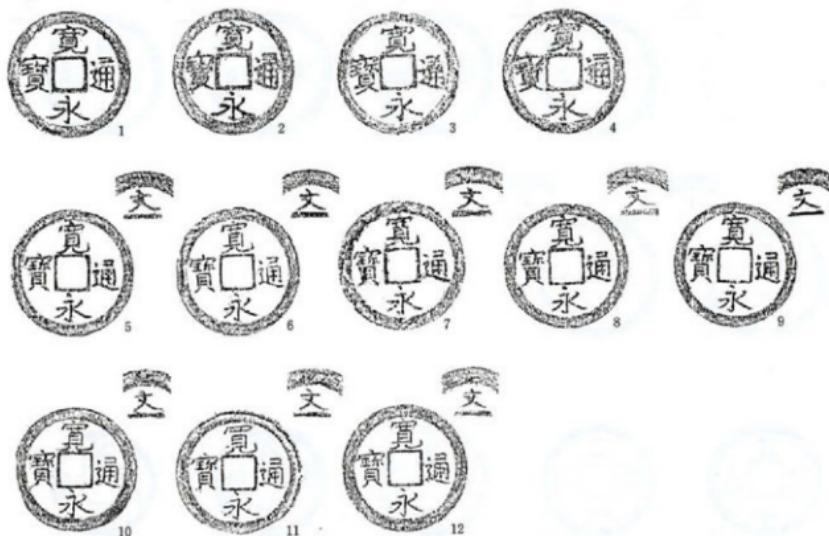
39 号 墓



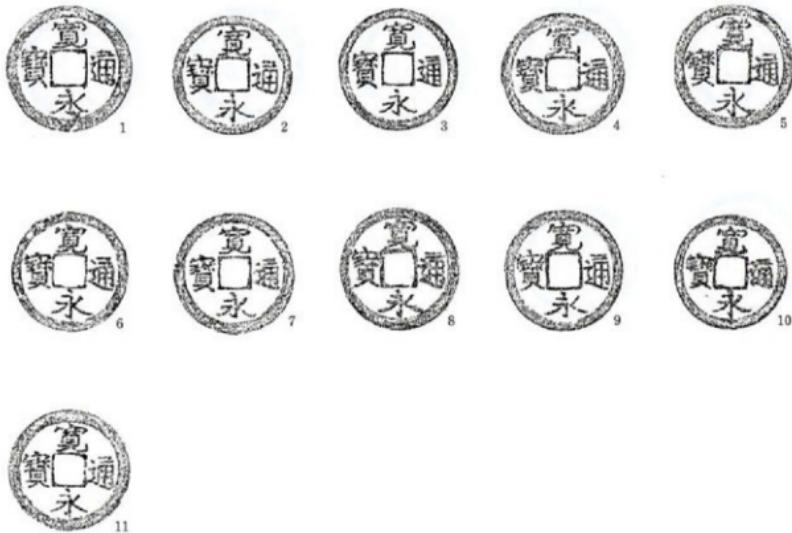
43 号 墓

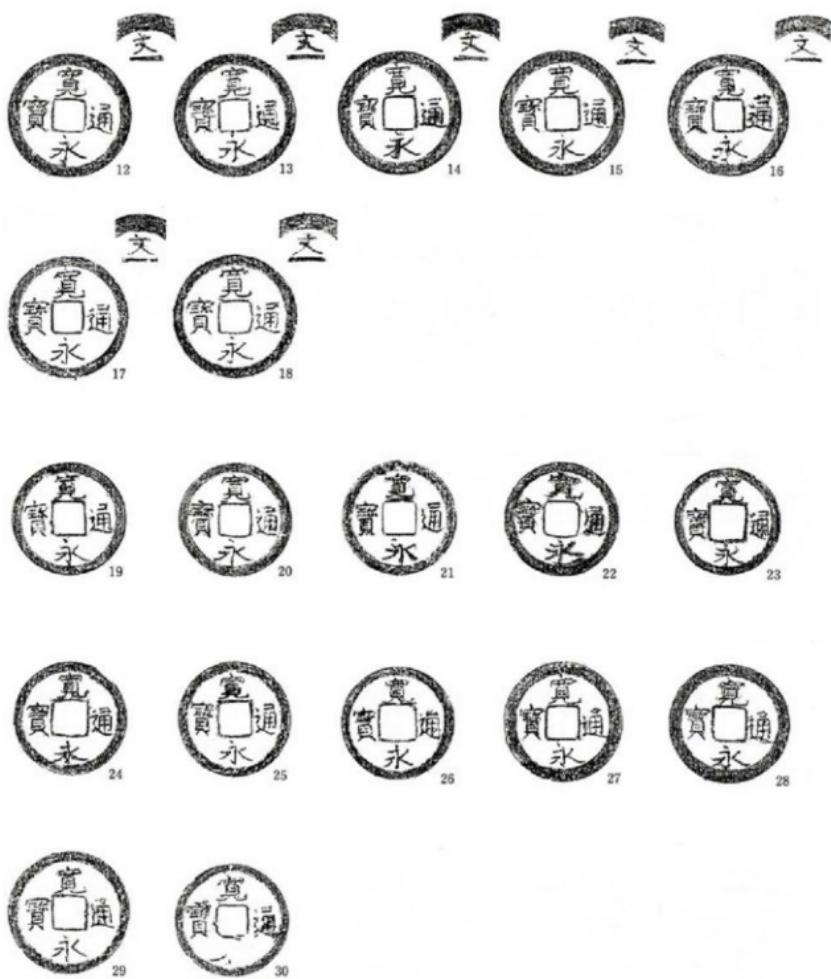


44号墓



45号墓





46号墓



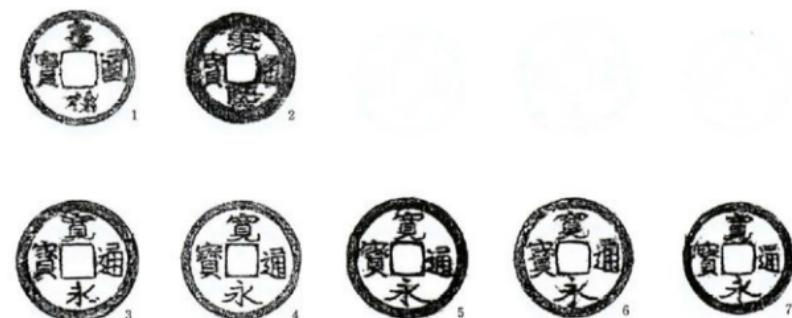
51号墓

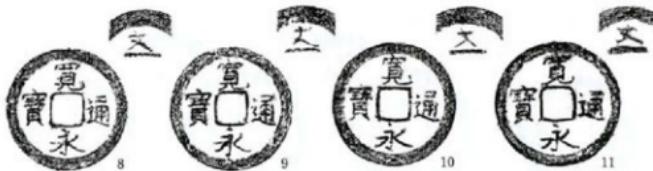


56号墓



60号墓





61号墓





11



12



13



14



15



16



17



18

62号墓



1



2



3



4

65号墓



1



2



3

66号墓



1



2



3



4

表 採 (49号墓出土錢貨?)



1



2

1号墓

番号	銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	天祐通宝		北宋錢(1017初鑄)	R-33
2	元祐通宝		北宋錢(1086初鑄)	R-32
3	永業通宝		明錢(1408初鑄)	R-34
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-49
5	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-35
6	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-36
7	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-42
8	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-43
9	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-44
10	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-45
11	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-50
12	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-46
13	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-47
14	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-48
15	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-37
16	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-40
17	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-41
18	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-38
19	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-39
20	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-61
21	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-62
22	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-51
23	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-52
24	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-53
25	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-54
26	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-55
27	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-56
28	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-57
29	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-58
30	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-59
31	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-60

2号墓

番号	銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-67
2	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-68
3	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-69
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-70
5	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-82
6	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-83
7	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-71
8	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-72
9	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-89
10	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-73
11	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-74
12	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-75
13	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-76
14	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-77
15	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-78
16	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-79
17	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-80
18	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-81
19	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-86
20	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-88
21	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-99
22	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-104
23	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-102

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
24	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋤造、1636～1659	R-84
25	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋤造、1636～1659	R-85
26	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋤造、1636～1659	R-87
27	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋤造、1636～1659	R-90
28	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-91
29	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-92
30	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-93
31	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-94
32	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-95
33	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-96
34	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-97
35	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-98
36	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-64
37	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-101
38	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋤造、1726～1732	R-63
39	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋤造、1726～1732	R-103
40	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋤造・1736～1743	R-65
41	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-100
42	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-66
43	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-719

3号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-106
2	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-105
3	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-107
4	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-108
5	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-109
6	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-110

4号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-115
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-111
4	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-118
3	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋤造、1637～1640	R-112
5	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-113
6	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-114
7	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-116
8	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-117

5号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-718

7号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-119

9号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-124
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-125
3	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-126
4	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-127
5	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-134
6	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-135
7	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-136
8	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-137
9	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-138

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
10	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-139
11	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-140
12	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-133
13	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-120
14	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-121
15	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-122
16	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-123
17	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-128
18	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-129
19	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-130
20	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-131
21	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-132
22	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-141
23	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-142
24	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-143
25	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-144
26	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-145
27	寛永通宝	新寛永銭	萩原銭、京都七条鋳造、1700~1707	R-147
28	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-148
29	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-149
30	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-150
31	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-151
32	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-153
33	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-155
34	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-154
35	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-156
36	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-152
37	寛永通宝	新寛永銭	1697~	R-146

10号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-157
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-162
3	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-159
4	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-161
5	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-158
6	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-160

11号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-163
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-164
3	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市鋳造、1637~1640	R-165
4	寛永通宝	新寛永銭	萩原銭、1700~1707	R-166
5	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-167
6	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-168

13号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-171
2	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造・1707~1745	R-169
3	寛永通宝	新寛永銭	1697~	R-170
4	寛永通宝(?)			R-172
5	寛永通宝	新寛永銭	2枚施着、1697~	R-173

14号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	景祐元宝		北宋銭、1054初鋳	R-175
2	聖宋元宝		北宋銭、1101初鋳	R-182
3	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-205

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
4	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-213
5	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-219
6	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-233
7	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-234
8	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-236
9	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-240
10	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-243
11	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-250
12	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-278
13	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-280
14	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-286
15	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-288
16	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-293
17	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-300
18	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-206
19	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-208
20	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-211
21	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-239
22	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-257
23	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-263
24	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-264
25	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-291
26	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-305
27	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-306
28	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-275
29	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-276
30	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-283
31	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-290
32	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-271
33	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-296
34	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-298
35	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-301
36	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-304
37	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-245
38	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-209
39	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-308
40	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-309
41	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-226
42	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-212
43	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-269
44	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-207
45	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-258
46	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-221
47	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-222
48	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-231
49	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-242
50	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-244
51	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-246
52	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-249
53	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-255
54	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-259
55	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-266
56	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-267
57	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-274
58	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-277
59	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-282
60	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-292
61	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-294
62	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-310

番号	銘	分類	鑄造年代	登録番号
63	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-177
64	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-218
65	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-235
66	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-237
67	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-265
68	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-272
69	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-273
70	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-289
71	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-176
72	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-178
73	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-179
74	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-180
75	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-181
76	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-183
77	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-184
78	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-185
79	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-186
80	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-187
81	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-188
82	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-189
83	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-190
84	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-191
85	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-192
86	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-193
87	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-194
88	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-195
89	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-196
90	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-197
91	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-198
92	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-199
93	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-200
94	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-201
95	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-202
96	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-203
97	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-204
98	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-224
99	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-260
100	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-208
101	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-230
102	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-215
103	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-220
104	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-223
105	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-225
106	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-227
107	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-229
108	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-232
109	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-241
110	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-247
111	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-252
112	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-253
113	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-256
114	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-261
115	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-262
116	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-268
117	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-270
118	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-279
119	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-281
120	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-284
121	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋤造、1707以前～1713	R-285

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
222	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-287
123	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-297
124	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-299
125	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-302
126	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-303
127	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-307
128	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-210
133	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-251
134	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-254
135	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-295
129	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-216
130	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-217
131	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-238
132	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-248
136	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-214

15号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	祥符元宝		北宋銭、1014初鋳	R-315
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-313
3	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-314
4	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-311
5	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-312
6	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-318
7	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-319
8	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-321
9	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-317
10	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-322
11	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-316
12	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-320

16号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1663～1659	R-335
2	寛永通宝	古寛永銭	1663～1659	R-336
3	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-332
4	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-342
5	寛永通宝	文銭	1668～1683	R-348
6	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-323
7	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-331
8	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-333
9	寛永通宝	新寛永銭	丸星銭(?)、江戸亀戸村鋳造、1714～1718	R-327
10	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-328
11	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-330
12	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-340
13	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-339
14	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736～1740	R-337
15	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736～1740	R-346
16	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736～1743	R-325
17	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736～1743	R-326
18	寛永通宝	新寛永銭	日光銭、下野久次良村鋳造、1737～1738	R-347
19	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造、1707以前～1745	R-324
20	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造、1707以前～1745	R-334
21	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造、1707以前～1745	R-341
22	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-329
23	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-338
24	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-343
25	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-344
26	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-345

17号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-349
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-350
3	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-352
4	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-353
5	寛永通宝	新寛永銭	丸屋銭(?)、江戸亀戸鋳造・1714~1718	R-351

18号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	元豊通宝	北宋銭・1078		R-400
2	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-386
3	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-394
4	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-404
5	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-405
6	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-408
7	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-402
8	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-398
9	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-401
10	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-403
11	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-406
12	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-407
13	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-409
14	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-410
15	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-381
16	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-382
17	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-383
18	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-384
19	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-385
20	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-387
21	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-388
22	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-389
23	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-390
24	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-391
25	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-392
26	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-393
27	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-356
28	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-357
29	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-358
30	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-359
31	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-361
32	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-362
33	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-365
34	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-369
35	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-376
36	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-377
37	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-378
38	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-379
39	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-380
40	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-395
41	寛永通宝	新寛永銭	荻原銭、1697~1704	R-366
42	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-354
43	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-367
44	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-368
45	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-372
46	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-373
47	寛永通宝	新寛永銭	丸屋銭(?)、江戸亀戸村鋳造、1714~1718	R-375
48	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-355

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
49	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-396
50	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-379
51	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-399
52	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-363
53	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-370
54	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-371
55	寛永通宝	新寛永錢	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-374
56	寛永通宝	新寛永錢	1697~	R-360
57	寛永通宝	新寛永錢	1697~	R-364

19号基

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-413
2	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-418
3	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-411
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-412
5	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-419
6	寛永通宝	新寛永錢	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-417
7	寛永通宝	新寛永錢	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-415
8	寛永通宝	新寛永錢	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-416
9	寛永通宝	新寛永錢	1697~	R-414

20号基

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-420
2	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-421
3	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-422
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-423
5	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-424
6	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-425

21号基

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-429
2	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-426
3	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-427
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-428
5	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-431
6	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-430

22号基

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-433
2	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-436
3	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-432
4	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-434
5	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-437
6	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-438
7	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-439
8	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-435
9	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-440
10	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-457
11	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-455
12	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-456
13	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-458
14	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-459
15	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-460
16	寛永通宝	新寛永錢	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-443
17	寛永通宝	新寛永錢	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-446
18	寛永通宝	新寛永錢	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-462

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
19	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-465
20	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-442
21	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-445
22	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-467
23	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-447
24	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-452
25	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-463
26	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-464
27	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-451
28	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-466
29	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736～1740	R-468
30	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-444
31	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-469
32	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-471
33	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-472
34	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造・1707以前～1745	R-441
35	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造・1707以前～1745	R-449
36	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造・1707以前～1745	R-453
37	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造・1707以前～1745	R-454
38	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-448
39	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-450
40	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-461
41	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-470

23号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-481
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-477
3	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726～1732	R-480
4	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-478
5	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-473
6	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造(?)・1707以前～1745	R-474
7	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-475
8	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-476
9	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-479

27号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-482

32号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	R-483	
2	寛永通宝	古寛永銭	R-484	
3	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-487
4	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-488
5	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-485
6	寛永通宝	新寛永銭	1697～	R-486

36号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	元豊通宝		北宋銭、1078初鋳	R-490
2	紹聖元宝		北宋銭、1094初鋳	R-491
3	政和通宝		北宋銭、1111初鋳	R-489
4	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-534
5	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-561
6	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-562
7	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-563
8	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-571
9	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637～1640	R-582

番号	錢銘	分類	鑄造年代	登録番号
10	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-530
11	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-533
12	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-539
13	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-560
14	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-519
15	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-520
16	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-522
17	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-523
18	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-531
19	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-532
20	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-556
21	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-557
22	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-558
23	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-570
24	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-576
25	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-577
26	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-578
27	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-579
28	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-569
29	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-521
30	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-524
31	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-526
32	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-529
33	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-535
34	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-564
35	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-565
36	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-566
37	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-568
38	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-573
39	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-574
40	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-517
41	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-518
42	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-525
43	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-527
44	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-528
45	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-567
46	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-572
47	寛永通宝	古寛永錢	1636~1659	R-575
48	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-492
49	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-493
50	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-494
51	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-495
52	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-496
53	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-497
54	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-498
55	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-499
56	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-500
57	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-501
58	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-502
59	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-503
60	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-504
61	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-505
62	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-506
63	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-507
64	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-508
65	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-509
66	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-510
67	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-511
68	寛永通宝	文錢	1668~1683	R-512

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
69	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-513
70	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-514
71	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-515
72	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-516
73	寛永通宝	新寛永銭	萩原銭、1697~1704	R-549
74	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-539
75	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-540
76	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-541
77	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-544
78	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-588
79	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-546
80	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-548
81	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-550
82	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-551
83	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-552
84	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-553
85	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-554
86	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-583
87	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-584
88	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-586
89	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-585
90	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-587
91	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-589
92	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-590
93	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-543
94	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-545
95	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-591
96	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-537
97	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-542
98	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-555
99	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-580
100	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-581
101	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸荒江村鋳造(?)	R-536
102	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸荒江村鋳造(?)	R-538
103	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸荒江村鋳造(?)	R-547

37号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-599
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-594
3	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-595
4	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-592
5	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-593
6	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-598
7	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-596
8	寛永通宝	新寛永銭	耳白銭、江戸亀戸村鋳造・1714~1718	R-600
9	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-597

39号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-602
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-603
3	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-601

43号墓

番号	銭銘	分類	鑄造年代	登録番号
1	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-605
2	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-606
3	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-604
4	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸荒江村鋳造(?)	R-607

44号墓

番号	銭銘	分類	铸造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-608
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-609
3	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-610
4	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-611
5	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-612
6	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-613
7	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-614
8	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-615
9	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-616
10	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-617
11	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-618
12	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-619

45号墓

番号	銭銘	分類	铸造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-623
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-622
3	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-624
4	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-627
5	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-628
6	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鑄造、1637~1640	R-629
7	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-630
8	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-620
9	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-621
10	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-625
11	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-626
12	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-640
13	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-641
14	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-642
15	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-643
16	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-644
17	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-645
18	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-646
19	寛永通宝	新寛永銭	萩原銭、1697~1704	R-647
20	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-632
21	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-634
22	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-636
23	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-637
24	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-638
25	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-649
26	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鑄造、1707以前~1713	R-650
27	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鑄造、1726~1732	R-633
28	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鑄造、1726~1732	R-635
29	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鑄造、1726~1732	R-648
30	寛永通宝	新寛永銭	1697~	R-631

46号墓

番号	銭銘	分類	铸造年代	登録番号
1	永樂通宝	明銭、1408初鋳	R-651	
2	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-652
3	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-653
4	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-654
5	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鑄造(?)	R-655

51号墓

番号	銭銘	分類	铸造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-656

56号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-660
2	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-659
3	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-657
4	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-658

60号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	嘉祐通宝		北宋銭、1056初鋳	R-662
2	康熙通宝		清銭、1661初鋳	R-663
3	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-682
4	寛永通宝	古寛永銭	備前二日市村鋳造、1637~1640	R-683
5	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-684
6	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-681
7	寛永通宝	古寛永銭	1636~1659	R-685
8	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-664
9	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-665
10	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-666
11	寛永通宝	文銭	1668~1683	R-667
12	寛永通宝	新寛永銭	萩原銭、1697~1704	R-680
13	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-661
14	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-670
15	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-671
16	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-686
17	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-669
18	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-674
19	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728~1732	R-668
20	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728~1732	R-676
21	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-675
22	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-678
23	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-672
24	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-677
25	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-679
26	寛永通宝	新寛永銭	下野国足尾銅山鋳造・1741~1745	R-673

61号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前~1713	R-696
2	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-687
3	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-701
4	寛永通宝	新寛永銭	正徳年間江戸亀戸村鋳造(?)・1714~1718	R-704
5	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-688
6	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-689
7	寛永通宝	新寛永銭	不旧手、江戸深川・京都七条鋳造、1726~1732	R-693
8	寛永通宝	新寛永銭	享保年間江戸猿江村鋳造(?)	R-698
9	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-690
10	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-697
11	寛永通宝	新寛永銭	江戸深川鋳造、1736~1740	R-702
12	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-695
13	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-700
14	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造、1736~1743	R-703
15	寛永通宝	新寛永銭	江戸亀戸銭、1737~1744	R-692
16	寛永通宝	新寛永銭	江戸亀戸銭、1737~1744	R-699
17	寛永通宝	新寛永銭	出羽秋田川尻村鋳造(?)・1707以前~1745	R-694
18	寛永通宝	新寛永銭	1697~	R-691

62号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-707
2	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-708
3	寛永通宝	新寛永銭	不旧手(?)、江戸深川・京都七条鋳造、1726～173	R-706
4	寛永通宝	新寛永銭	陸奥石巻鋳造、1728～1732	R-705

65号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-710
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-711
3	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-709

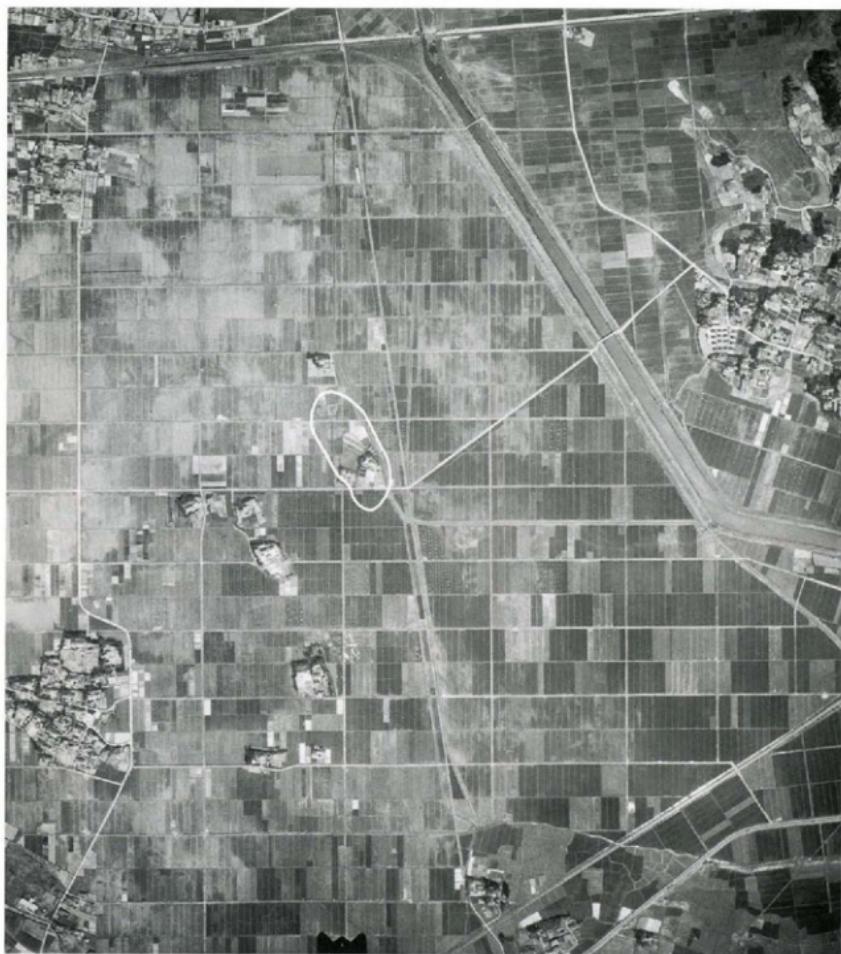
66号墓

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-715
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-712
3	寛永通宝	新寛永銭	四ツ宝銭(?)、江戸亀戸村鋳造、1707以前～1713	R-714
4	寛永通宝	新寛永銭	江戸小梅村鋳造・1736～1743	R-713

表採

番号	銭銘	分類	鋳造年代	登録番号
1	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-716
2	寛永通宝	古寛永銭	1636～1659	R-717

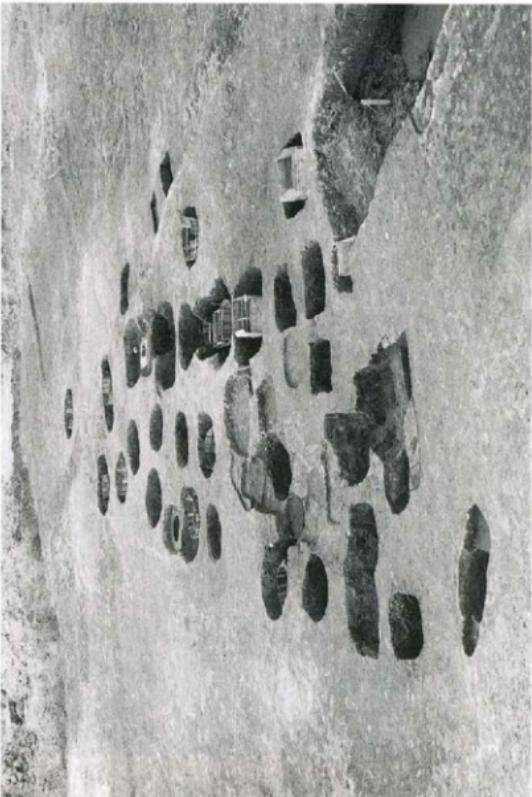
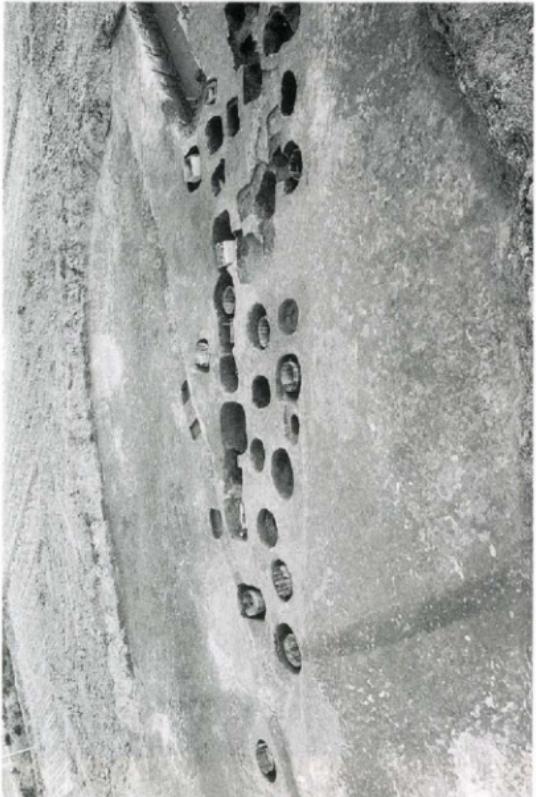
写 真 図 版

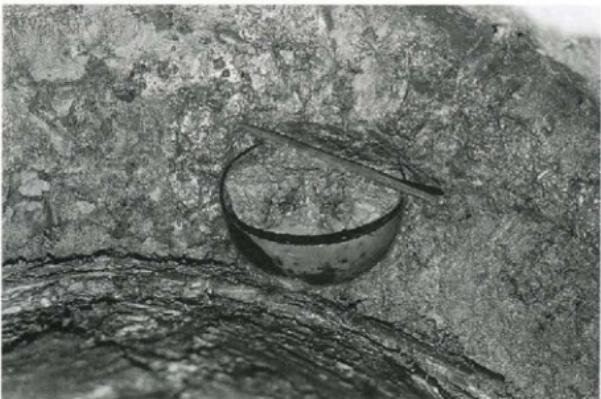
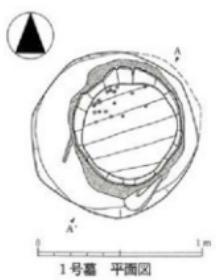


昭和36年当時の遺跡周辺 白線で囲んだ範囲が本遺跡であり、今回の調査区はその南端部に位置している。東側には砂押川が南流し、西側には水田地帯が広がっている。

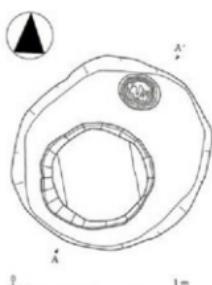
この空中写真是、建設者国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものです。
(承認番号 平10東復第164号)

上 調査区全貌 (俯より)
下 同上 (俯より)

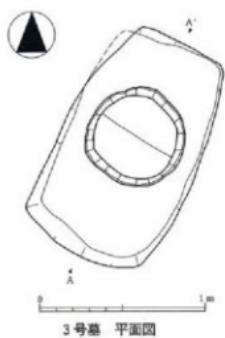
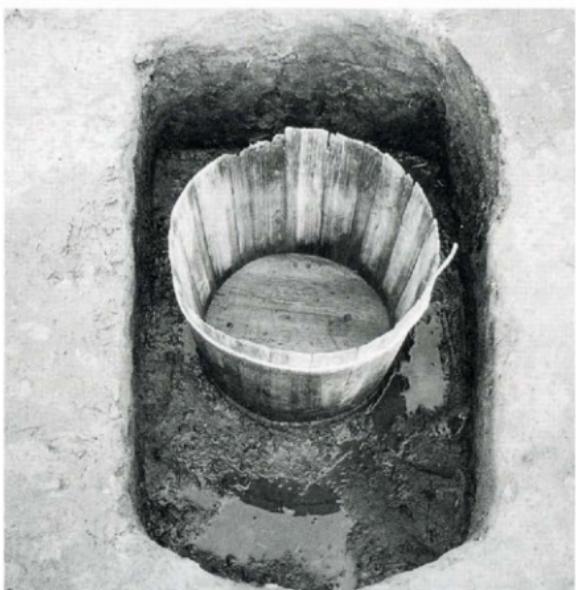




上 1号墓（南より）
中 同上 棺に巻かれた箇
下 同上 漆器椀・箸出土状況



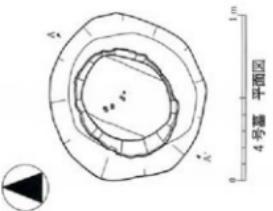
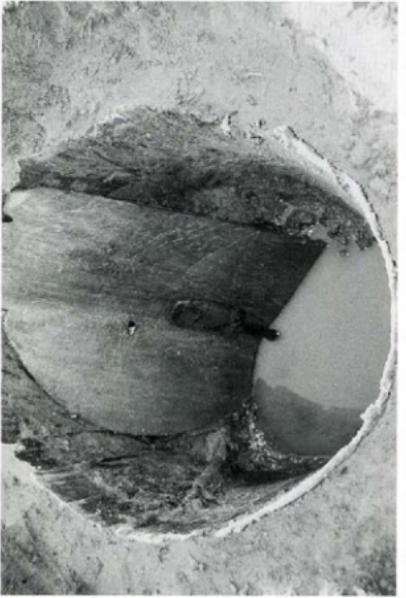
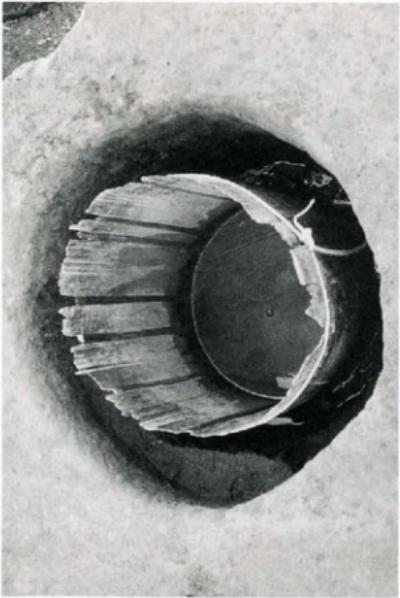
上 2号墓掘り方土層堆積状況（東より）
中 同上 陶器皿出土状況
下 同上



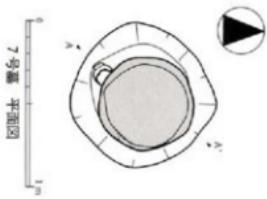
上 3号墓 挖り方土層堆積状況（東より）
下 同上
（南より）

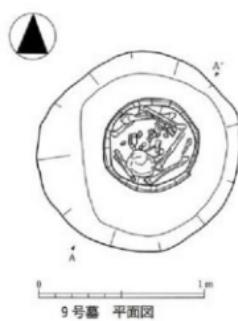
4号器 (馬上り)
圆上 { n }
5号器 { n }

上 中 下

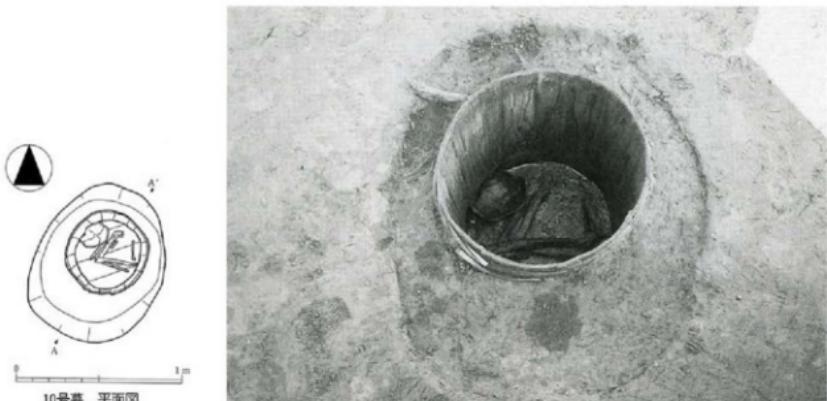


上 6号墓（南より）
中 7号墓（東より）
下 同上 漆器繪出土状況

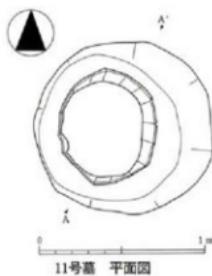
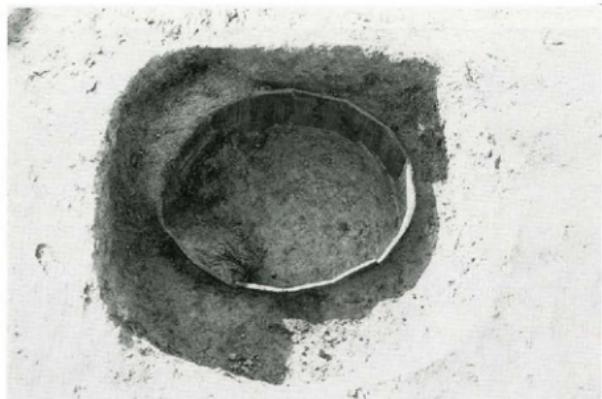




上 9号墓 木棺検出状況（東より）
中 同上 人骨出土状況（南より）
下 同上



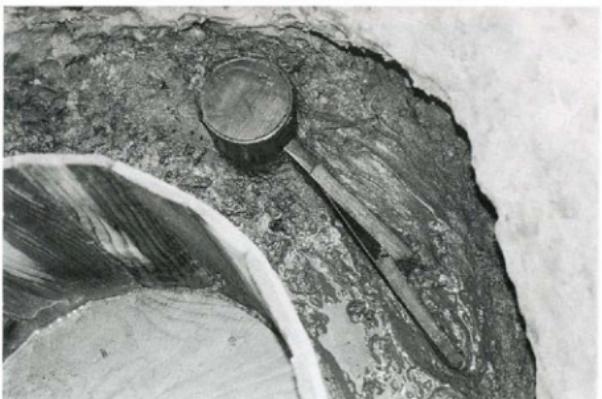
上 10号墓（南より）
下 同上 人骨・副葬品出土状況



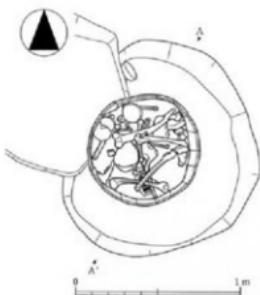
上 11号墓 木棺棟出状況（東より）
中 同上 漆器椀出土状況
下 同上



12号墓 平面図



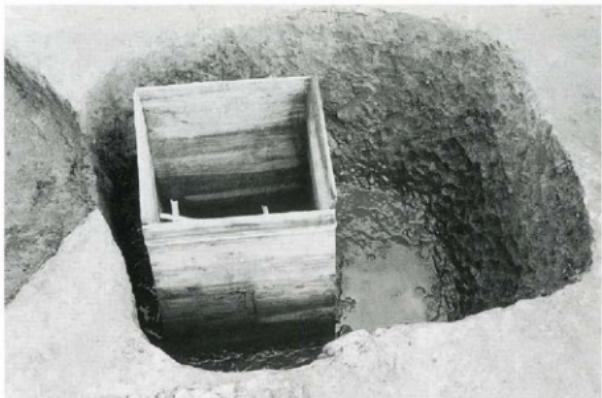
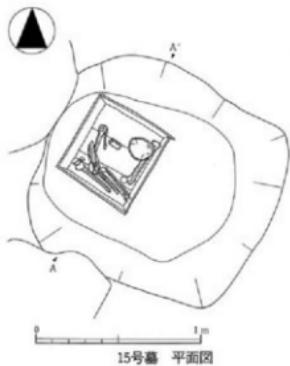
上 12号墓 人骨・副葬品出土状況（南より）
中 同上
下 同上 柄杓出土状況



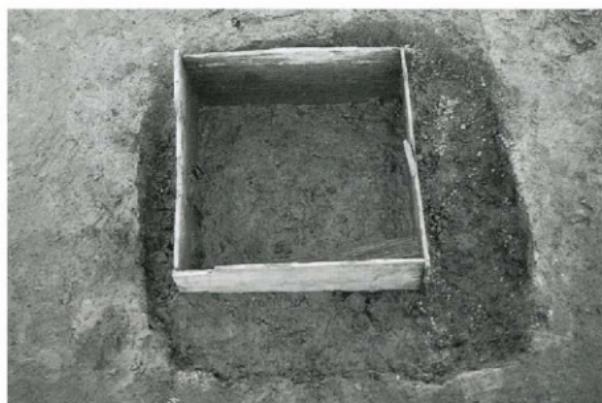
14号墓 平面図



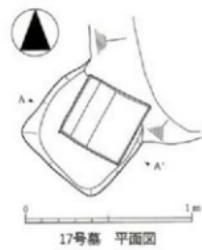
上 14号墓 人骨・副葬品出土状況 (南より)
下 同上 漆器椀出土状況



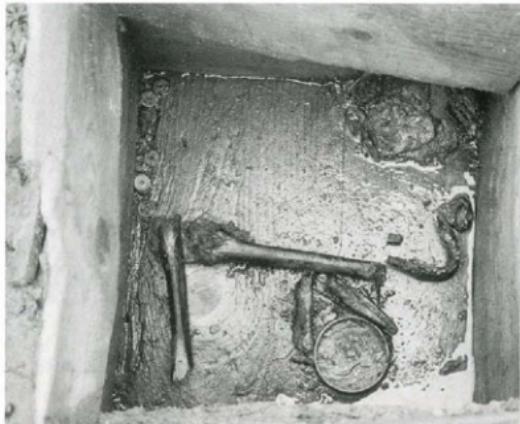
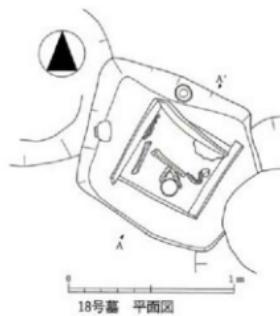
上 15号墓 掘込み状況（南より）
中 同上 南側板の墨書き（前）
下 同上 人骨・副葬品出土状況



上 16号墓 木棺検出状況 (西より)
下 同上 人骨・副葬品出土状況



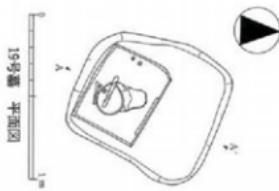
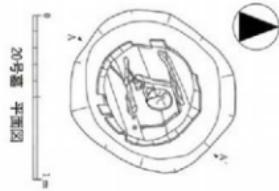
上 16号墓 提灯出土状況
中 同上
下 17号墓 木棺検出状況（西より）

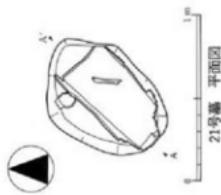


上 18号墓 木棺検出状況（南より）
中 同上 人骨・副葬品出土状況
左下 同上 漆器碗出土状況（掘り方北側）
右下 同上 （掘り方西側）

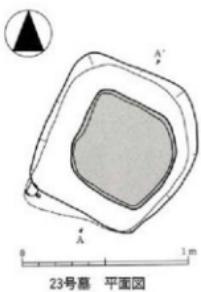


上 19号墓（南より）
中 20号墓（西より）
下 同上 人骨出土状況

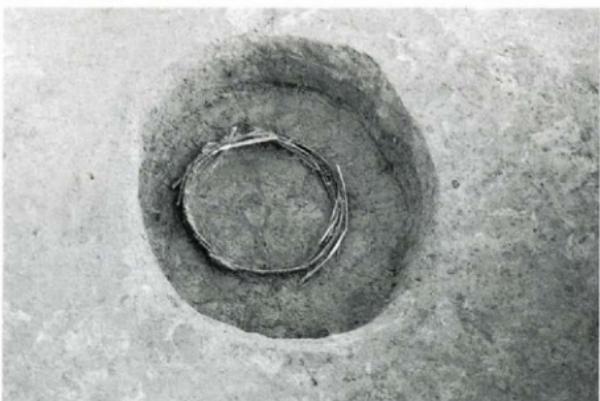




21号墓 (南より)
22号墓 染織遺物状況 (例より)
上 中 下



上 23号墓 棺底跡掘り込み状況（南より）
中 同上 陶器丸楕出土状況（掘り方南西隅）
下 24号墓（南より）



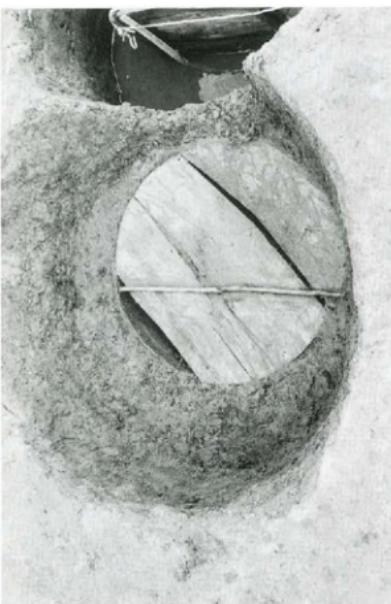
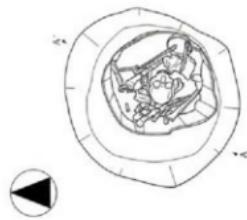
上 28号墓 棺底跡掘り込み状況（南より）
中 29号墓 棺底面検出状況（南より）
下 30号墓

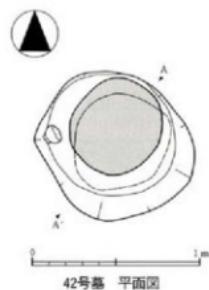
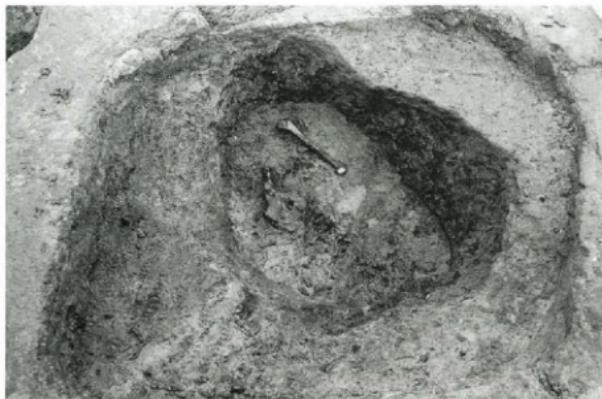


上 36号墓 横置棺蓋裏部の出土品「前」
中 同上
下 人骨・副葬品出土状況（前より）



36号墓 平面図





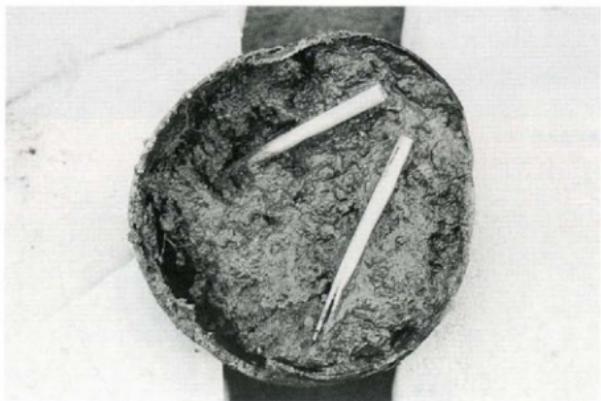
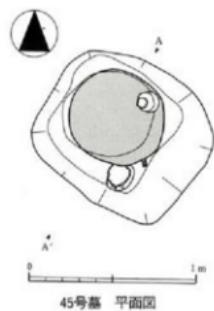
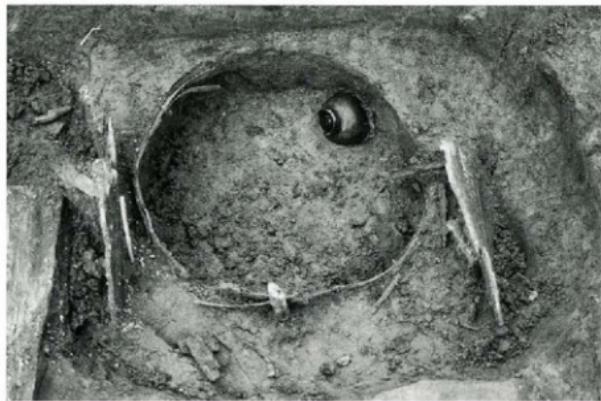
上 37号墓 人骨出土状況（南より）
中 42号墓 漆器椀出土状況（西より）
下 同上



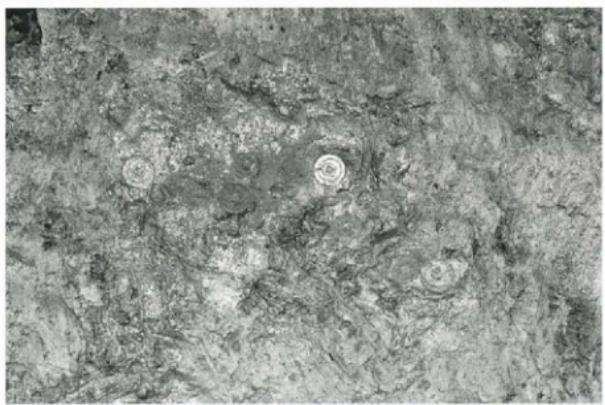
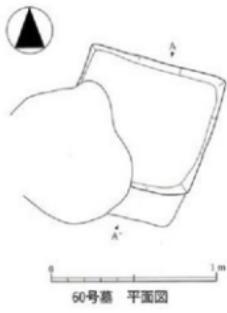
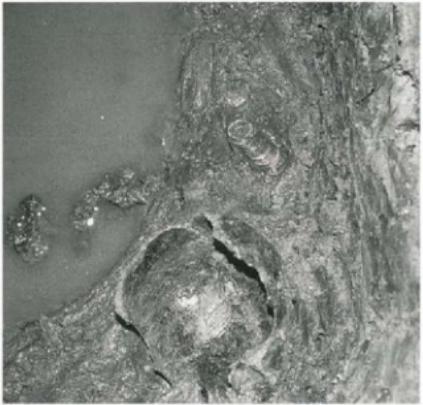
上 44号墓 掘り方土層堆積状況（東より）
下 同上（南より）



44号墓 平面図

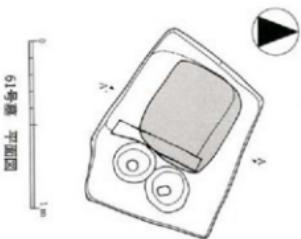


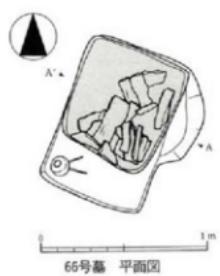
上 45号墓（南より）
中 同上 漆器碗出土状況
下 同上 梗内面



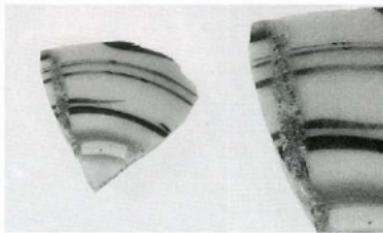
上 45号墓 人骨・副葬品出土状况
中右 同上 人骨・副葬品
中左 同上 人骨
下 60号墓 副葬品出土状况

上 61号墓（馬上面より）
下 同上 提灯出土状況



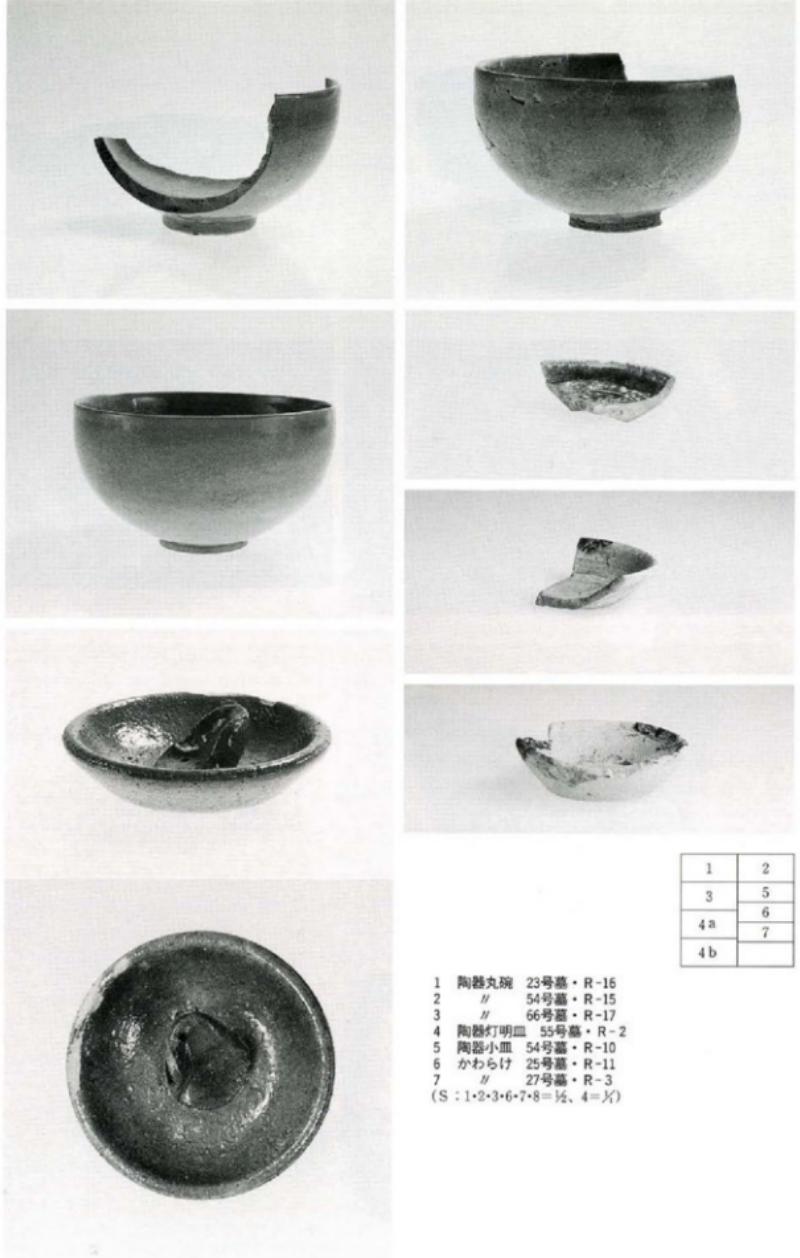


上 66号墓 棺痕掘り込み状況（南より）
中 同上 陶器丸碗出土状況（南より）
下 同上



1 a		
1 b		
2	3 a	3 b

1 陶器皿 2号墓・R-18
2 磁器小杯 1号墓・R-1
3a 磁器小皿(?) 24号墓・R-7
3b 同上 烧迹ぎ痕
(S : 1・2・3a = $\frac{1}{2}$ 、3b = $\frac{1}{2}$)



1 陶器丸碗 23号墓・R-16
 2 " 54号墓・R-15
 3 " 66号墓・R-17
 4 陶器灯明皿 55号墓・R-2
 5 陶器小皿 54号墓・R-10
 6 かわらけ 25号墓・R-11
 7 " 27号墓・R-3
 (S : 1+2+3+6+7+8 = 1/2, 4 = 1/4)

1	2
3	5
4 a	6
4 b	7

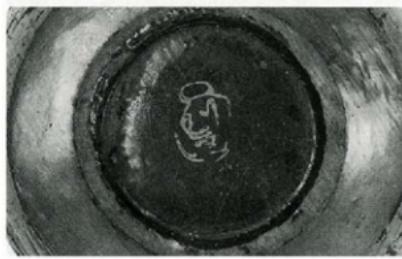
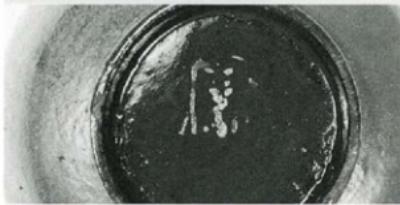


1a	2a
1b	2b
3a	
3b	

漆器楓

- 1 1号墓 (A I a類) R-180
2 " (A I c) R-1
3 7号墓 (A II a類) R-135
(S : 1a + 2a + 3a = ½, 1b + 2b + 3b = ¾)

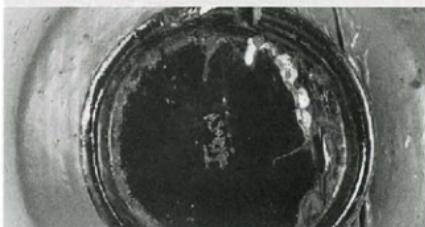
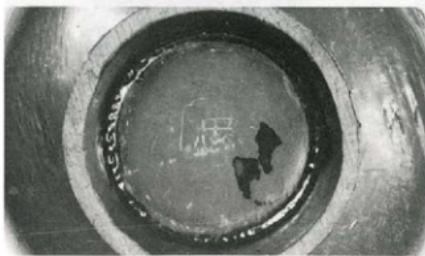




1a	2a
1b	2b
3a	4a
3b	4b

漆器碗

1 9号墓 (B I c類) • R-19 3 11号墓 (B I c類) • R-22
2 10号墓 (A II c類) • R-21 4 // (B I b類) • R-21
(S : 1a + 2a + 2b + 3a + 4a = 1/2 1b + 3b + 4b = X)



漆器椀

1 14号墓 (AIIa類) R-16 3 14号墓 (B1b類) R-43
2 " (B1a類) R-72 4 " (B1c類) R-74
(S : 1a + 2b + 3a + 4a = ½, 1b + 2b + 3b + 4b = ¾)

1a	2a
1b	2b
3a	4a
3b	4b



1a	2a
1b	2b
4a	3a
4b	3b

- 1 21号窯 (A I a類?) R-49
2 18号窯 (B I a類) R-39
3 // (B I b類) R-40
4 // (B I c類) R-41
(S : 1a + 2a + 3a + 4a = ½, 1b + 2b + 3b + 4b = ¾)



1a	2b
1b	2b
3a	
3b	

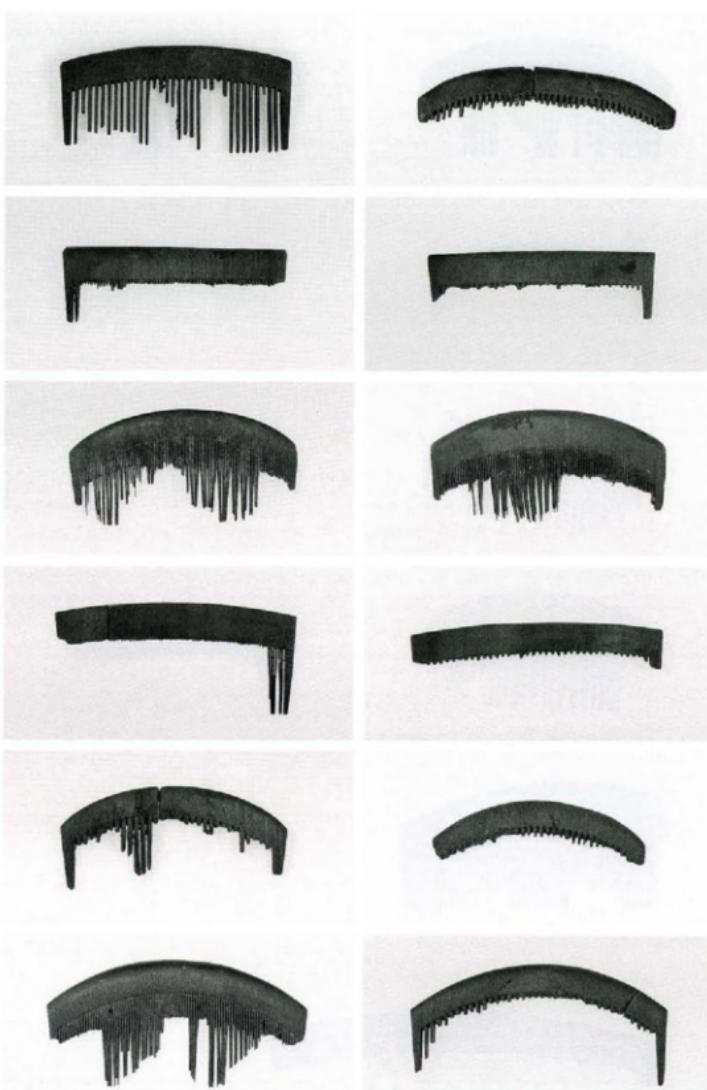
1 12号墓 (B I a型) R-71

2 42号墓 (B I a型) R-116

3 45号墓 (A I a型) R-110

(S : 1a + 2a + 3a = ½, 1b + 2b + 3b = ½)





梳

1	1号基 (B類)	R-2	7	9号基 (B類)	R-118
2	// (A類)	R-5	8	// (B類)	R-20
3	// (C類)	R-4	9	11号基 (A類)	R-23
4	// (C類)	R-3	10	// (A類)	R-24
5	4号基 (A類)	R-12	11	12号基 (A類)	R-30
6	// (A類)	R-13	12	// (A類)	R-31

(S : ½)

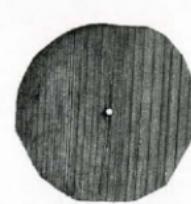
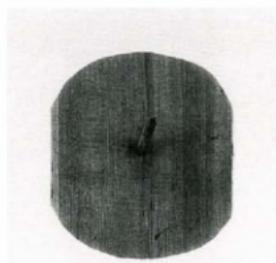
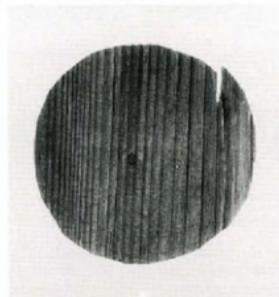


1	2
3	4
5	6
7	8
9	
10	

櫛

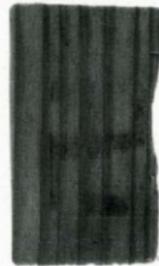
- 1 14号墓 (A類) • R-129 6 36号墓 (A類) • R-121
2 " (B類) • R-130 7 " (A類) • R-120
3 20号墓 (A類) • R-45 8 31号墓 (B類) • 渡塗り • R-161
4 " (C類) • R-46 9 13号墓 (A類) • R-33
5 36号墓 (A類) • R-119 10 16号墓 (B類) • R-38

(S : 1/2)



提灯底板

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | |
| 6 | 7 | |
| 8 | 9 | |
- 1 16号墓 (A類) R-1113
2 " (A類) R-1114
3 " (A類) R-1115
4 " (A類) R-61
5 " (A類) R-167
6 44号墓 (B類) R-168
7 " (B類) R-169
8 61号墓 (A類) R-1116
9 " (C類) R-1117
(S : %)



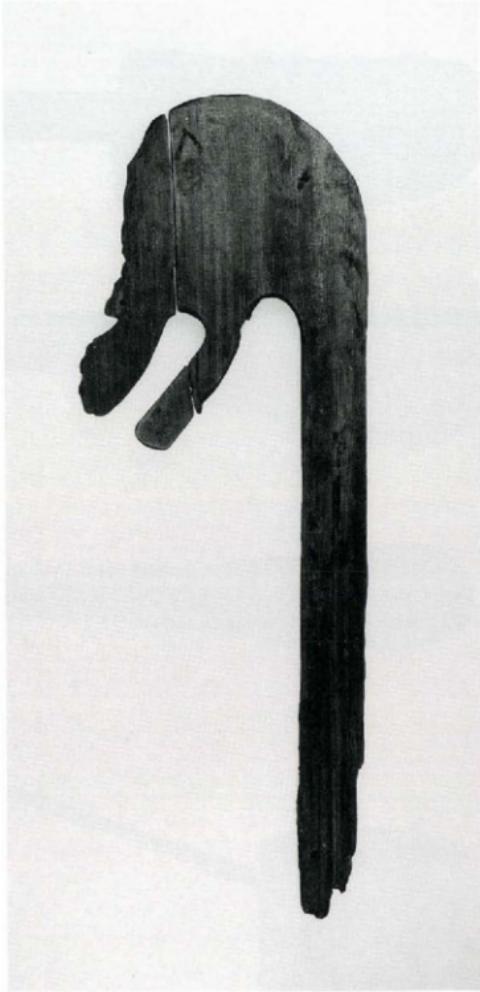
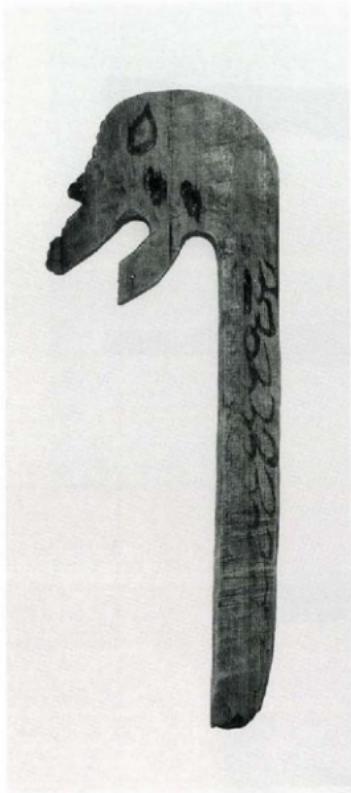
提灯底板

- 1 36号墓 (C類) R-100
2 // (C類) R-128
3 // (C類) R-131
4 // (C類) R-132
5 // (C類) R-133
6 // (C類) R-99
7 // (C類) R-134

墨書きのある板

- 8 57号墓 (「卍」) R-150
9 28号墓 (「卍」の変形) R-151
(S: 16)

1	2	3
4	5	8
6	7	9



竜形木製品
1 1号墓 R-182
2 // R-181
(S: 3)



1
2
3
4

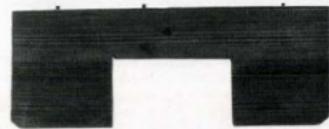
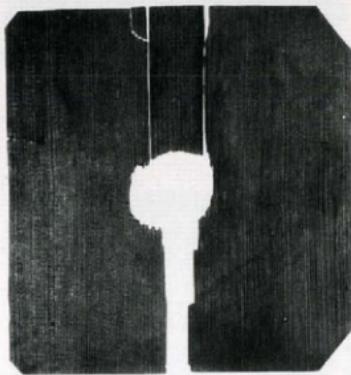
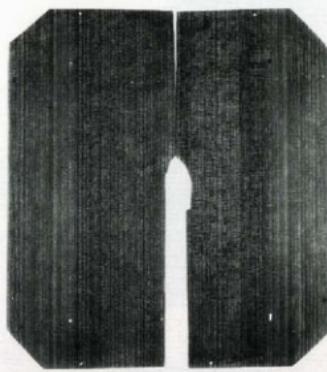
ヘラ状木製品

- 1 4号墓 R-11
- 2 22号墓 R-92
- 3 12号墓 R-27

柄杓

- 4 12号墓 R-184

(S : 1 + 2 + 3 = $\frac{1}{2}$, 4 = $\frac{1}{2}$)



1	2
3	
4	5
	6
7	8



1 膀の台 16号墓 R-63 5 膀の脚 // R-62(A)
2 膀の脚 // R-54 6 // // R-62(B)
3 // // R-95 7 数珠玉 14号墓
4 膀の台 22号墓 R-94 8 // //

(S : 1 ~ 6 = 3/4, 7 + 8 = 1/2)



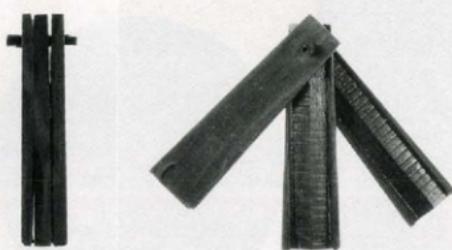
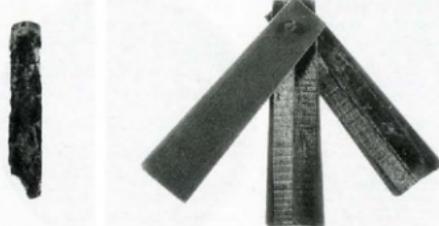
1 和鏡 4号墓 R-1
 2 漆器鏡入れ(身) 4号墓 R-10
 3 漆器鏡入れ(蓋) 4号墓 R-9
 (S : 1a + 2 + 3 = ½、1b = ¾)

1a	1b
2a	3a
2b	3b



1b	1a
2b	2a
	3

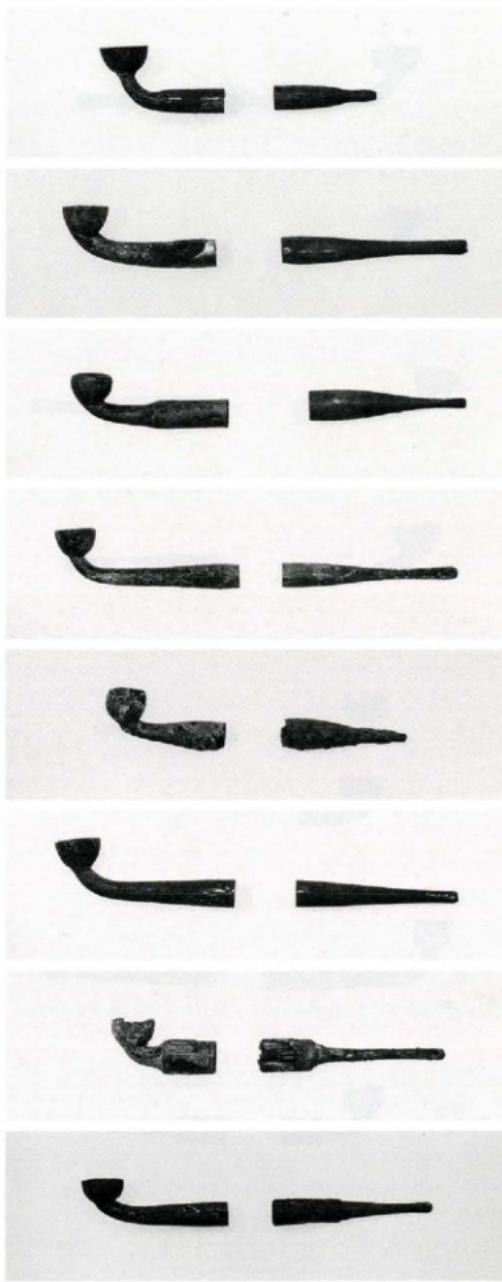
1 和鏡 18号墓 R-3
2〃 36号墓 R-2
3 縄入れ(身) 36号墓 R-115
(S : 1a + 2a + 3 = 1/2、1b + 2b = 1/2)



1	2 b
2 a	2 c
3	
4	5
6	

- 1 剑刀 15号墓 R-721
2 // 容器 15号墓 R-183
3 剑刀 9号墓 R-27
4 // 66号墓 R-31
5 火打铁 44号墓 R-30
6 金具 24号墓 R-28
(S : %)

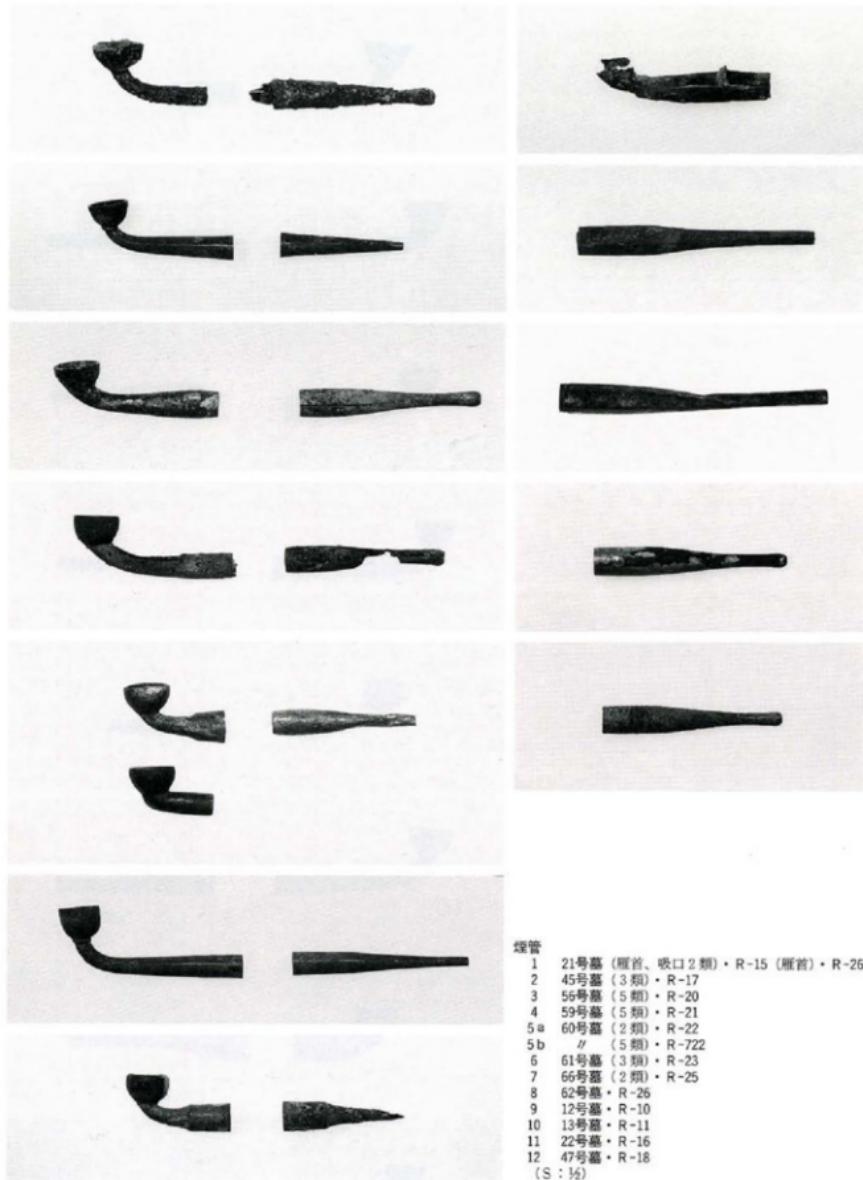




1
2
3
4
5
6
7
8

烟管

- 1 1号墓 (3類) • R-4
 - 2 2号墓 (5類) • R-6
 - 3 // (2類) • R-7
 - 4 3号墓 (4類) • R-8
 - 5 11号墓 (5類) • R-9
 - 6 15号墓 (3類) • R-12
 - 7 16号墓 (2類) • R-13
 - 8 18号墓 (5類) • R-14
- (S : ½)



煙管

- 1 21号墓 (雁首、吸口 2類) • R-15 (雁首) • R-26 (吸水)
 - 2 45号墓 (3類) • R-17
 - 3 56号墓 (5類) • R-20
 - 4 59号墓 (5類) • R-21
 - 5a 60号墓 (2類) • R-22
 - 5b / (5類) • R-722
 - 6 61号墓 (3類) • R-23
 - 7 66号墓 (2類) • R-25
 - 8 62号墓 • R-26
 - 9 12号墓 • R-10
 - 10 13号墓 • R-11
 - 11 22号墓 • R-16
 - 12 47号墓 • R-18
- (S : 1/2)

1	8
2	9
3	10
4	11
5a	12
5b	
6	
7	

報告書抄録

ふりがな	だいにちきたいせき							
書名	大日北遺跡							
副書名	近世墓の調査報告書							
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第49集							
編著者名	武田健市							
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27-1 Tel 022-368-0134							
発行年月日	西暦1998年3月25日							
所収遺跡	所在地	コ一ド	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
大日北遺跡 (第1次)	宮城県多賀城市高橋字耳取北地内	18	015	38度17分59秒	140度~15秒	1994.11.02 1994.12.09	450	遺跡の範囲確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大日北遺跡 (第1次)	墓	江戸時代	土葬墓群	陶磁器、和鏡、古鏡、煙管、剃刀、鏡入れ(身・面)、漆器椀、桶、提灯、数珠、電形木製品、膳	多数の近世墓から豊富な副葬品が一括で出土した。			

多賀城市文化財調査報告書第49集

大日北遺跡

—近世墓の調査報告書—

平成10年3月25日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368-1141

印刷 今野印刷株式会社

仙台市若林区六丁の目西町4-5

電話 (022) 288-6123